

母子家庭の自立支援のためのITを活用した
在宅就労の実態調査ならびに就労支援施策研究事業

平成17年3月

特定非営利活動法人 あごら

本事業は、独立行政法人 福祉医療機構の「長寿・子育て・障害者基金」の平成
16年度の助成事業として行ったものである。

目 次

1. 事業の目的.....	2
2. 実施内容.....	2
2. 1 実施方法・内容.....	2
2. 2 実施の背景.....	8
2. 3 ひとり親家庭へ就労支援体制.....	9
3. 在宅就労支援施策上の課題抽出.....	14
3. 1 在宅就業の諸条件.....	14
3. 2 ひとり親家庭の母親にふさわしい在宅業務.....	22
3. 3 NPO法人あごらでの就業支援.....	23
4. 在宅就労に関するアンケート調査.....	27
4. 1 調査の概要.....	27
4. 2 調査項目.....	28
4. 3 調査対象者の属性.....	40
4. 4 調査結果.....	42
4. 5 回答者の意見.....	55
4. 6 ひとり親世帯の意識分析（就職・転職の際の重視点）.....	78
4. 7 ひとり親世帯の意識分析（母子家庭になって感じること）.....	92
4. 8 調査結果の考察.....	105
5. 在宅就労の事例調査.....	106
5. 1 調査方法.....	106
5. 2 NPO法人あごらの在宅就労者の事例（地図入力）.....	107
5. 3 VPN画像エントリーシステムでの在宅データエントリー事例.....	111
5. 4 母子家庭の就労を支援するキャリアアップモデルの適用事例.....	116
6. 在宅での就労支援モデル.....	134
6. 1 在宅でのIT活用就労支援モデル.....	134
6. 2 データ・エントリー業務モデル.....	139
6. 3 母子家庭の就労を支援するキャリアアップモデル.....	145
7. 評価と考察.....	155
7. 1 ひとり親家庭の母親の在宅学習・在宅就労の課題.....	155
7. 2 テレワーク型の在宅就業の将来像.....	156

1. 事業の目的

母子家庭の母親は厚生労働省の調査によると120万人にのぼり、離婚の増加などから、今後、益々増える傾向にある。こうしたひとり親家庭の母親が抱える課題は、①雇用機会が少ないうえ職場に復帰したくてもそのための技能がないこと、②仮に雇用されたとしても収入が少なく、子供の教育費などの支出もままならない状況にあり、安定した生活を営める状況になっていないことがあげられる。

NPO法人あごらでは、母子家庭の母親の就業を促進するために、教育研修、相談業務、就労支援等様々な事業を行ってきた。14年度にはeラーニングを用いた遠隔による教育訓練システムの開発、15年度にはインターネットを使ったバーチャル相談所の構築とさらにはインターネットを使って遠隔で在宅就労を支援するシステム作りを行ってきた。これら事業を推進する中で、ひとり親家庭の母親が家庭で安心して就業する上での様々な課題が浮き彫りになった。

本事業は、在宅就労、とりわけITを利用した在宅就労の実態調査を通じて家庭での就業状況や子育て、家庭での問題などを明らかにし、母親が仕事の選択や、在宅で仕事を行う際の留意点など、在宅就労の指針を整備することによって、母親の経済的、精神的な自立に資することを目的とする。本事業の成果は、母親にとってはこれから在宅就労を行おうとする際の手引きとなるばかりでなく、全国各地で整備されつつある自立支援センターでの就労支援策のための資料としても活用でき、母親の自立支援策として実効性を重視した研究として期待するものである。

2. 実施内容

2. 1 実施方法・内容

(1) 委員会の設置

①設置目的

・ 就労支援施策評価委員会の設置

本事業の推進に際し、調査のコンセプト、調査の内容、在宅就労施策に関する内容の検討などを評価するために、有識者、専門家による委員会を設置し、基本方針やフレームワークの検討を行った。

・ 実態調査小委員会の設置

本事業の中で、アンケートならびに事例調査を行うための小委員会を設置した。

・ ワーキンググループの設置

具体的な実作業を進めるために、就労支援施策評価委員会ならびに実態調査小委員会のもとにワーキンググループを設置した。

②委員構成

・就労支援施策評価委員会

委員長	林 喜男	慶應義塾大学名誉教授
	宮崎正俊	東北大学名誉教授
	手塚和彰	千葉大学法経学部教授
	東明佐久良	大妻女子大学社会情報学部教授
	船井洋文	(株)日立製作所公共営業本部顧問
	浅海崇夫	太田市教育委員会教育部副部長（青少年育成担当）
	末久秀子	杉並区保健福祉部東福祉事務所長
	板倉範幸	東京ガス・エンジニアリング(株)マッピング技術部長
	宮島正子	(株)エイネット代表取締役
	森島忠雄	東京都ビジネスサービス(株)代表取締役社長
	鶴岡良光	東京都ビジネスサービス(株)取締役
	馬渡恭三郎	(株)クロスランゲージ翻訳サービス部 顧問
	向井通江	(株)現代家族問題研究所主任研究員
	久保勲	NPOあごら理事長

・実態調査小委員会

委員長	馬渡恭三郎	(株)クロスランゲージ翻訳サービス部 顧問
	鶴岡良光	東京都ビジネスサービス(株)取締役
	向井通江	(株)現代家族問題研究所主任研究員
	保坂圭太	(株)システムソフト社会公共事業部主任研究員

・ワーキンググループ

	城 信雄	(株)システムソフト社会公共事業部長
	羽山和紀	(株)システムソフト社会公共事業部主任研究員
	須藤正幸	東京都ビジネスサービス(株)情報システム部課長
	今泉裕史	(株)システムソフト社会公共事業部研究員

③開催実績

・就労支援施策評価委員会

第1回就労支援施策評価委員会

開催時期：平成16年8月3日

開催場所：東京都千代田区内

議 題：

- ・調査フレームの検討
- ・アンケート調査項目の検討

第2回就労支援施策評価委員会

開催時期：平成16年9月21日

開催場所：東京都千代田区内

議 題：

- ・アンケート調査票の検討
- ・事例調査の検討

第3回就労支援施策評価委員会

開催時期：平成16年11月4日

開催場所：東京都千代田区内

議題：

- ・アンケート調査方法の確認
- ・事例調査方法の確認

第4回就労支援施策評価委員会

開催時期：平成17年1月25日

開催場所：東京都千代田区内

議題：

- ・アンケート調査結果の集計経過報告
- ・実態調査経過報告
- ・就労支援モデルの検討

第5回就労支援施策評価委員会

開催時期：平成17年3月24日

開催場所：東京都千代田区内

議題：

- ・アンケート結果の評価
- ・事例調査の評価
- ・就労支援モデルの評価

・実態調査小委員会

第1回実態調査小委員会

開催時期：平成16年8月3日

開催場所：東京都千代田区内

議題：

- ・調査フレームの詳細検討
- ・アンケート調査項目の詳細検討

第2回実態調査小委員会

開催時期：平成16年11月21日

開催場所：東京都千代田区内

議題：

- ・アンケート調査方法の確認
- ・事例調査方法の確認

第3回実態調査小委員会

開催時期：平成17年2月28日

開催場所：東京都千代田区内

議 題：

- ・アンケート調査結果の集計結果の検討
- ・実態調査結果の検討
- ・就労支援モデルの検討

(2) 実施計画

当NPO法人あごらでは、IT（インターネットやメール）などを用いた在宅就労を支援するシステムの整備を、教育研修、相談業務、就労支援の3つの軸で進めてきた。教育研修については在宅でインターネットを利用したeラーニングによる教育講座を設置し、また相談業務については電話による「離婚と母子の110番」の設置、さらに昼夜を問わず利用できるバーチャル相談所の開設も行ってきた。さらには就労支援についてはインターネット上で在宅就労の仕事の受発注を行うシステムを整備してきた。現在これらのシステムを利用して在宅就労を進めており、就業者からは仕事を円滑に行う上での様々な課題が寄せられている。

本事業では、在宅就労の実態を調査することによって、そこで明らかになった課題の解決策を検討することとした。

以下の手順で事業を実施した。

①在宅就労支援施策上の課題抽出

母子家庭の母親が在宅就労を行う際の、子育て、家庭、仕事、経済面などにおける様々な障害やまたそれに対する解決法などを抽出し、在宅就労の実態調査を行う上での要件を整理した。

②在宅就労者に対するアンケート調査

・調査目的

在宅における仕事の実態や生じた様々な課題、インターネットを用いた教育システムに対する課題、就労支援システムに対する課題などについてアンケート調査を実施した。

・調査対象：在宅学習の講座を就労した人、在宅で仕事をした経験のある人476人（有効回答数）から回答を得ることができた。

・対象地域：全国

・仕事の対象：ITを活用した在宅で実施できる業務

・調査方法：アンケート（メール利用可）

・分析方法：集計にもとづいた定量分析

③在宅就労の事例調査

- ・調査目的：

アンケート調査では数量的な傾向を把握し在宅就労支援策の方向性の検討に役立てるのに対し、事例調査では当NPO法人が行っている実際の在宅事例をいくつか選択し、そこでの具体的な課題や、工夫や知恵を整理した。

- ・調査対象：SOHOまたは在宅による就労者を対象とした。
- ・対象地域：関東地域、大阪地区
- ・仕事の対象：SOHO、ITを活用した在宅でできる業務
- ・調査方法：アンケート調査ならびに面接による聞き取り調査

④在宅就労モデルの作成

在宅就労のアンケートならびに事例調査を通じて、家庭、子育て、経済、仕事、技術などそれぞれの側面における課題とその解決策を分析し、3つの在宅就労モデルを作成した。

在宅でのIT活用就労支援モデル

データ・エントリー業務モデル

母子家庭の就労を支援するキャリアアップモデル

⑤在宅就労の手引・就労支援マニュアルの作成

在宅就労モデルの作成にもとづき、母子家庭の母親にとってのITを活用した在宅就労の方法や、課題の解決法などを実効性のある手引き書として整備した。

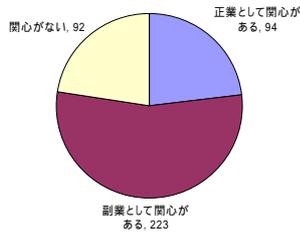
(3) 実施スケジュール

	平成 16 年							平成 17 年		
	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
① 在宅就労支援施策上の課題抽出	■									
② 在宅就労者に対するアンケート調査			■							
③ 在宅就労の事例調査						■				
④ 在宅就労モデルの作成										
⑤ 在宅就労の手引・就労支援マニュアルの作成									■	
⑥ 報告書作成									■	
⑥ 委員会 小委員会			1 回 1 回	2 回		3 回 2 回		4 回	3 回	5 回
⑥ ワーキング	■									

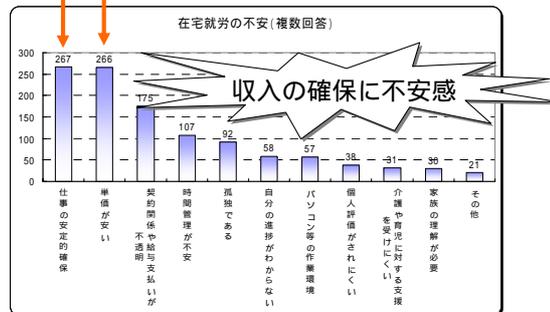
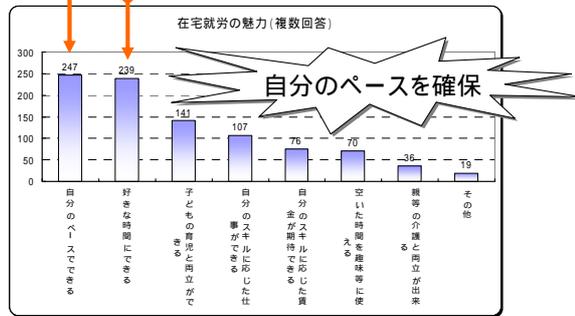
2. 2 実施の背景

ひとり親家庭の母親に対する就業支援、技術研修は、厚生労働省の施策として平成14年度から様々な施策が講じられている。しかしながら、生活時間の自由度の少ないひとり親家庭の母にとっては、固定した勤務先ではなく、在宅などの自由度の高い場所での業務にメリットがある。下に示すように、NPO法人あごらが実施した調査によれば、母子家庭の母親にとって在宅就労へのニーズは高いことがわかる。

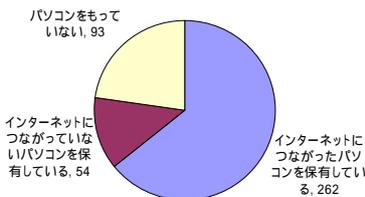
在宅就労への関心



在宅就労の関心度は、**76%を占める!!**



パソコンに関して



ひとり親世帯のパソコン所有率は、**75%!!**

普段はメールやインターネット等趣味に利用しているが、今後仕事等にも利用していきたいと考えている。

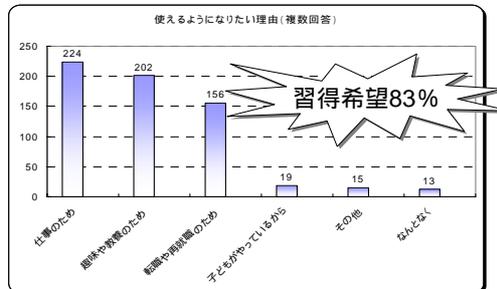
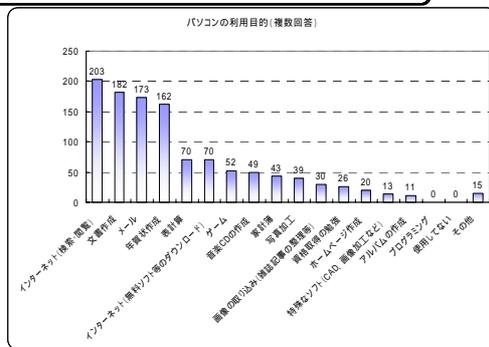


図2-1 「ひとり家庭の母に対する就労実態調査」
(本事業でのアンケート結果)

2. 3 ひとり親家庭へ就労支援体制

(1) ひとり親家庭の母への支援事業

NPO法人あごらは、雇用不安、生活不安を抱える人々、とりわけ、ひとり親家庭の母親に対して、就労や子育ての相談を行うとともに、在宅によるパソコンを使った地図や図面の入力技術の習得と就労保障を柱に、在宅業務支援、経済的・精神的ケア等の自立支援を行い、将来をになう子どもたちを応援しようとする趣旨で、平成14年10月に特定非営利活動法人として発足した。

当NPO法人あごらが行っている事業の主要なものは下図のように、就労支援、教育研修、そして相談業務である。

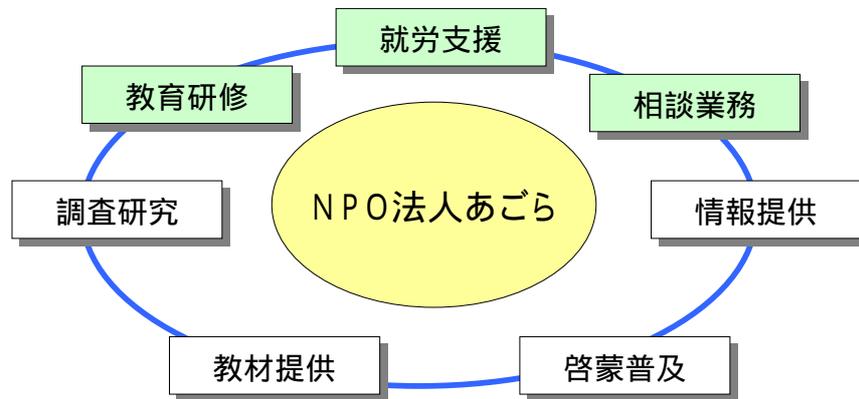


図2-2 NPO法人あごらの事業

これら主要3事業の位置づけを示したものが、下図である。この図の中で、本事業の位置づけは、相談センター（バーチャル相談所）にあたるもので、ひとり親家庭の母親への支援についてはこれら3つの機能が有機的に連携しあっている。

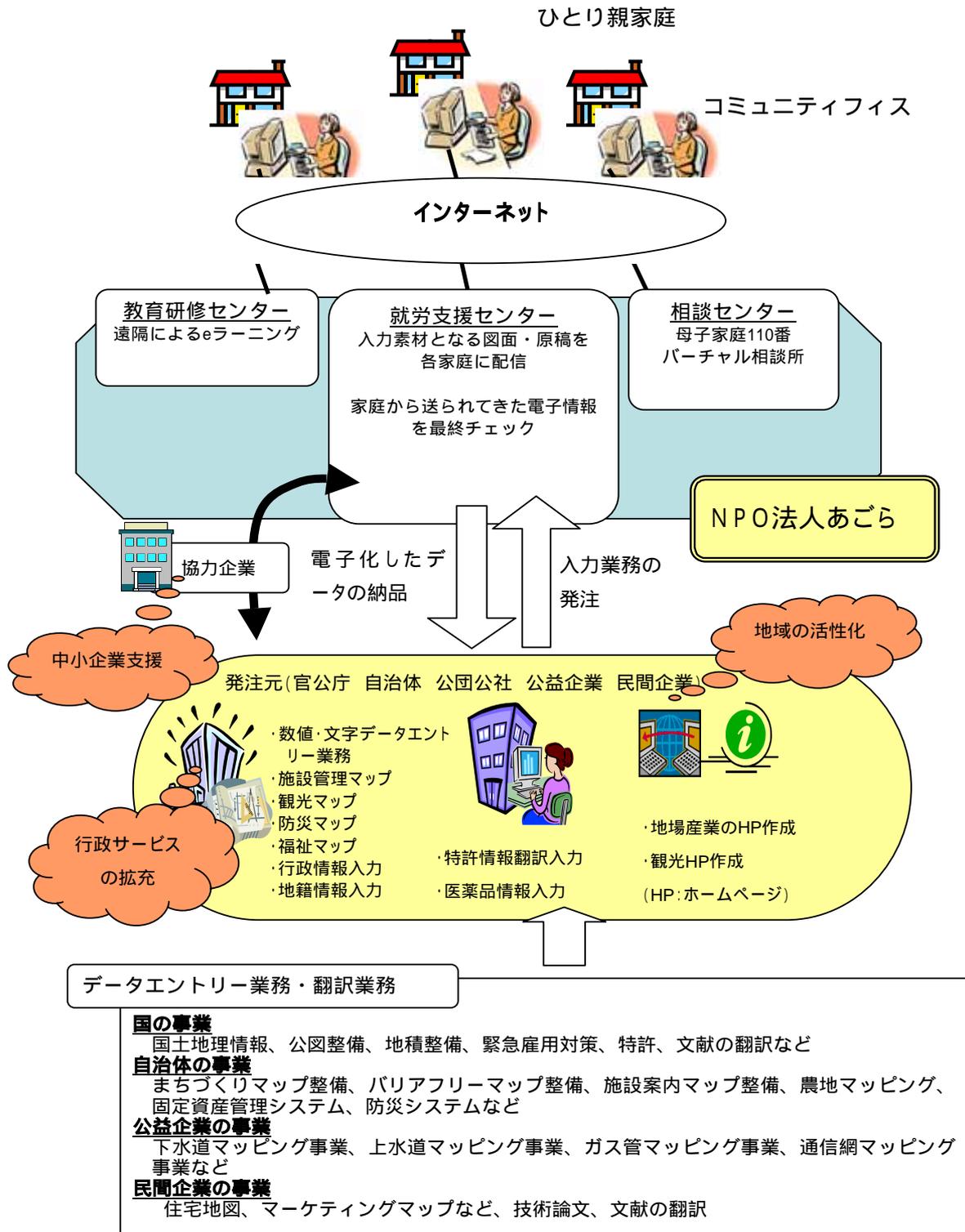


図2-3 NPO法人あごらのひとり親家庭の自立支援機能

(2) あごらの就労支援

就業支援は、当NPO法人あごらの最も主要とする事業である。この機能を実現するために、インターネットを使った「IT活用就労支援システム」を現在運用中である。このシステムを全国に広めるため、平成14年度ならびに15年度は松山市において母子家庭の母に対する就労支援のための仕組みづくりとして、「ITホームオフィスビジネスモデル事業」を実施した（14年度「厚生労働省・母子家庭等就業支援センター・モデル事業の創設」、15年度「厚生労働省・特定事業推進モデル事業」）。また16年度には太田市において厚生労働省・特定事業推進モデル事業を活用した同様の事業を実施した。

現在でのNPO法人あごらの就業紹介の実績は下表のように述べて約600名となっている。

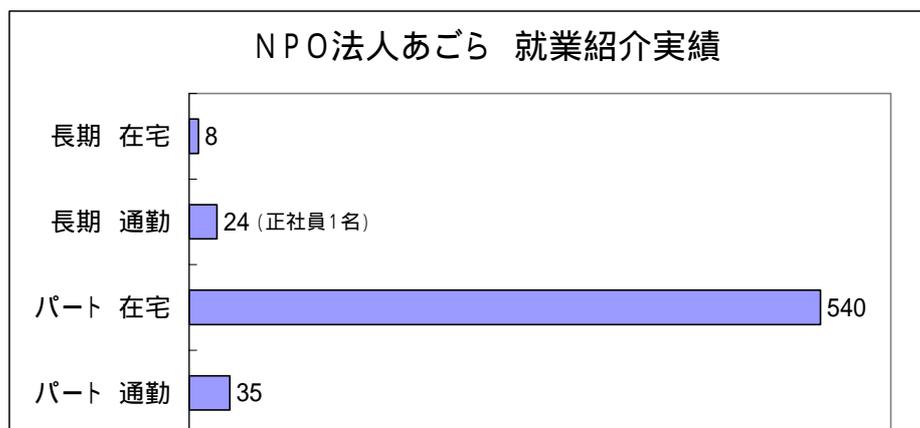
表2-1 NPO法人あごらの就労支援実績

年度	雇用形態		応募者数	雇用者数 (採用人数)	継続雇用者数	継続雇用の可能性のある人数 (2)
2002年10月 ～ 2004年10月31日	長期	在宅	18	8	0	0
		通勤	34	24	1	3
	パート	在宅	780	540	0	0
		通勤	54	35	3	0
合計		886	607	4	3	

年度別内訳

14年度	長期	通勤	2	3	1	
		パート	在宅	19	19	
		通勤	14	11	3	
15年度	長期	在宅	18	8		
		通勤	25	17		3
	パート	在宅	527	313		
		通勤	22	11		
16年度	長期	在宅				
		通勤	7	4		
	パート	在宅	234	208		
		通勤	18	13		

- (1) 採用者のうち就労期間が終了後も、引き続き雇用された者
 (2) 採用者のうち就労期間が終了後も、引き続き雇用の可能性がある者



合計	607名
----	------

業務内容は地図データ入力業務が大半で、単純な数字・文字データ入力業務もある。

表2-2 就業紹介の業務内容

NPO法人あごら 就業紹介の実績

業務件名	採用人数	業務形態	就労期間
水道施設データ入力(北海道、仙台、山形県)	4	通勤	長期
松山市ITホームオフィスビジネスモデル事業	19	在宅	短期
地図データ入力業務(東京都某市 緊急雇用対策事業)	11	通勤	短期
翻訳関連業務依頼(OJT)	6	在宅	短期
松山市ITホームオフィスビジネスモデル事業	30	在宅	短期
水道用マッピングシステムの地形図・配水管データの入力業務	67	在宅	短期
地図データ入力業務	2	通勤	長期
市場調査表の入力チェック業務	1	在宅	長期
市役所・区役所内のデータ入力	1	通勤	短期
地図関連データ入力(インターネット地図検索サイトに店舗情報入力)	3	在宅	短期
地図データ入力講座の協力員	7	通勤	長期
地図データ入力業務(スキャニング、Webデータ入力)	2	通勤	短期
翻訳作業(情報通信関連レポートの和文英訳翻訳業務)	4	在宅	短期
総理作業	1	通勤	長期
懸賞情報登録作業(ネット検索懸賞情報を指定のサイトに登録)	1	在宅	短期
地図データ入力業務(東京都某市 緊急雇用対策事業)	7	通勤	短期
派遣パソコンオペレーター(マスターデータの入力、マニュアル作成等)	応募・追募0名	通勤	短期
事務所内データ入力	応募1名辞退	通勤	長期
受入データ検取業務(伝票の受付、チェック、書類の整理など)	4	通勤	長期
会計、文章作成	2	在宅	短期
大学教授秘書(資料作成補助、その他秘書業務全般)	応募0名	通勤	長期
護国寺ファイリング入力業務(週3日、帳票整理(ファイリング等)・電話対応)	0	通勤	長期
護国寺受発注入力業務(平日、受発注データ入力業務、電話対応等)	応募0名	通勤	長期
ビデオ撮影業務(東京都某市 緊急雇用対策事業)	0	通勤	短期
データ入力	応募・追募0名	通勤	長期
水道用マッピングシステムの地形図データの入力業務	117	在宅	短期
名簿データ入力	3	在宅	長期
受入データ検取	応募0名	通勤	短期
データ入力	応募0名	通勤	短期
データ入力	応募0名	通勤	短期
水道用マッピングシステムの地形図データの入力業務	応募0名	通勤	短期
水道用マッピングシステムの地形図データの入力業務	75	在宅	短期
水道局内でのファイリング作業	1	通勤	短期
エリア図をデジタル化する作業	4	在宅	長期
市役所での作業	応募0名	通勤	長期
地図入力養成講座の広報資料作成要員	7	在宅	短期
名簿データ入力要員	1	在宅	短期
大阪地区活動員(営業)	2	通勤	長期
名簿データ入力要員	154	在宅	短期
事務一般作業要員	0	通勤	長期
奈良県水道局完成図書の仕事要員A	1	通勤	短期
奈良県水道局完成図書の仕事要員B(作業日程未定)	1	通勤	短期
英日対訳文の正誤チェック要員	5	在宅	短期
博物館でのデータ入力と資料整理(主に石造物の銘文の入力)	0	通勤	長期
総理事務要員	1	通勤	長期
技術文献の英日翻訳要員(コンピュータセキュリティ分野の技術文献)	7	在宅	短期
端末操作要領の校正及び修正要員	18~20名募集	通勤	短期
公認会計士事務所での事務員	1	通勤	長期
ファイリング入力作業	2	通勤	長期
水道ファイリング作業	1	通勤	短期
NPOあごら入力マニュアル作成作業	1	通勤	短期
水道マッピング入力作業	1	通勤	短期
ガスファイリング作業	1	通勤	短期
水道データ入力作業	1	通勤	短期
水道ファイリング入力作業	1	通勤	短期
リーフレットの編集要員	応募0名	通勤	短期
ガス事業用地形図データ入力業務	10	在宅	短期
東村山市内現地橋梁調査業務	1	通勤	短期
スキャニング入力およびデータ加工作業	1	通勤	短期
ExcelデータおよびPDFファイルの入力編集作業	2	在宅	短期
WN04012で作成したデータ入力および加工作業	1	通勤	短期
化学物質データ入力・スキャニング業務	1	通勤	短期
テニスコート業務のモニター	3名	在宅	短期
家庭用モップ等の配達・回収	応募0名	通勤	短期
船橋市公園台帳等の地図データ入力	1	通勤	短期
船橋市公園台帳等の調書データ入力	5	在宅	短期
データ入力オペレーター	応募0名	通勤	短期
登録申請情報入力	応募0名	通勤	短期
太田市モデル事業	18	在宅	短期
地図データ入力結果の確認作業	2	在宅	短期
営業事務	応募0名	通勤	長期
OA事務	応募0名	通勤	長期
OA事務	応募0名	通勤	長期
事務	応募0名	通勤	短期
テレフォンアポインター	応募0名	通勤	長期
東村山橋梁データワープロ化作業	2名	在宅	短期
計	607		

試用期間を終え、正社員として採用された
別途マッピング業者に5名正社員として採用された

就業支援は全国にわたり、インターネットを使えば地域に限定しない全国レベルでの支援が可能となる。NPO法人あごらが推進する遠隔によるIT活用就労支援システムは地域的な業務の需給ギャップを埋めることにも寄与する。

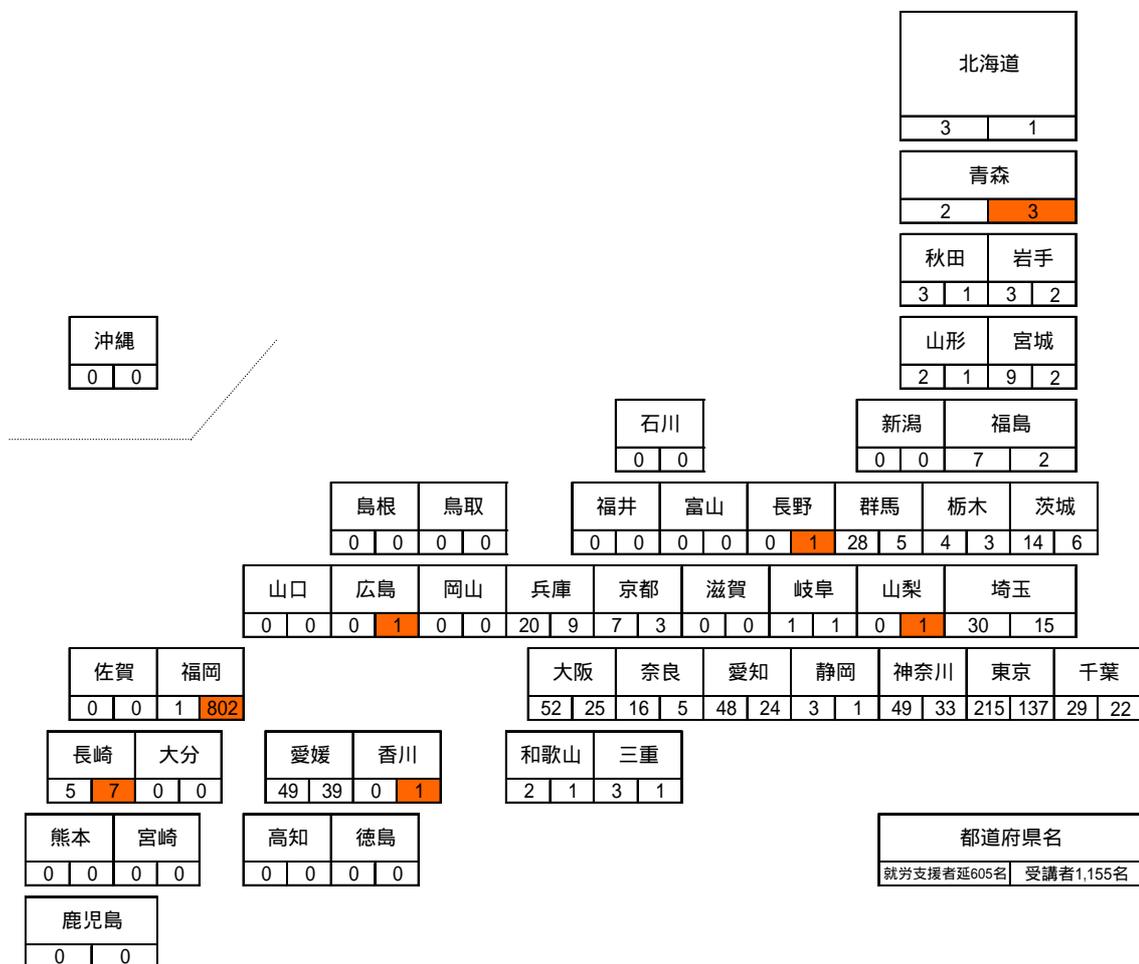


図2-4 NPO法人あごらの就業支援の全国分布図

母子家庭の母の就業については、母子家庭の就業を支援するための法律「母子家庭の母の就業の支援に関する特別措置法」が平成15年8月から施行となり、仕事を探している母にとっては朗報となった。この法律は、独立行政法人などで母子家庭の母親の雇用を増やすよう努めることや、国・独立行政法人・地方自治体の物品調達の受注先で雇用促進を努めることなどの内容が盛り込まれており、また民間企業もこれに協力することを要請している。しかしながら実態は進んでない状況が続いており、ひとり親家庭の母の悩みは依然として解決していない。

3. 在宅就労支援施策上の課題抽出

3. 1 在宅就業の諸条件

在宅就業は、情報通信技術の発達、パソコンやインターネットの急速な普及により仕事が多様化・細分化してきた。2000年に総理府が発行した「男女共同参画白書」では「柔軟な勤務形態を可能とすることから、女性に就労の機会を与えるものと期待されている」と評価している。その後、テレワークと呼ばれているIT機器を活用した在宅就業に従事している人口は、2002年時点で285万7千人を数え、2007年には563万1千人のテレワーク人口になることが予測されている。

ここでは、在宅就業における就業者及び雇用者の諸条件として、以下の7項目について検討した。

(1) 在宅就業の種類

在宅就業とりわけテレワークと呼ばれる形態は、「情報通信技術（IT）を利用した場所・時間にとらわれない働き方」と定義されている。テレワークの種類は以下のようなものがあげられている。

表3-1 在宅就労の種類

文書入力処理	37.1%
設計・製図・デザイン	21.0%
ソフトウェア関連	16.1%
翻訳・ライター	14.1%
DTP・電算写植	7.3%
その他	4.4%

(社団法人日本テレワーク協会調査)

(2) 在宅就業の環境

パソコンを活用した在宅就業を行う場合には、事前に準備しておかなければならないものがある。必要な機材として、以下の3つが挙げられる。

①パソコン

据え置き型のデスクトップ型パソコン、または、持ち運びができるノート型パソコン等、業務形態に合ったタイプのパソコンを購入する。

②アプリケーションソフトウェア

業務として使うことがなくても、ある程度使えるようにしておくといのが以下のソフトウェアである。仕事の内容によっては、専門的なソフトや、クライアント（業務発注者）の希望に沿ったソフトを用意する必要がある。

表 3-2 アプリケーションソフトウェアの種類

ワープロソフト	ワード、一太郎など
表計算ソフト	エクセル、ロータス1-2-3など
ブラウザ	インターネットエクスプローラ、ネットスケープナビゲータなど
メーラー	アウトルックエクスプレス、ベッキーなど
プレゼンテーションソフト	パワーポイントなど

③ インターネット通信環境

電子メールやインターネットを始めるためにはプロバイダー（接続業者）との契約が必要である。月々定額でインターネットを常時接続できるサービスが、現在主流になりつつある。

以上の3点から在宅就業を行うにあたっての設備例として、次表のようなものが挙げられる。

表 3-3 インターネット通信環境

端末機器	デスクトップパソコン、ノート型パソコン、携帯情報端末
アプリケーションソフトウェア	ワープロ、表計算、データベース、プレゼンテーション、グループウェア
通信・接続関係	ISDN、ターミナルアダプタ、モデム、 電話：固定電話、携帯電話、PHS、ファックス、 (留守番電話、ボイスメール)
周辺機器	プリンタ、スキャナ、コピー
設備	机、椅子、照明器具、スタンド、事務用品

(3) セキュリティ

①セキュリティ対策の必要性

在宅就業者が企業の専用回線を使用している場合は安全だが、通常のインターネット回線を介したデータのやり取りをする場合、盗聴や不正アクセスの危険がともなう。在宅就業者は、コンピュータウイルス対策ソフト等をインストールし常に新しいバージョンに更新すること、正式なライセンスのあるソフト以外は使用しないこと、データのバックアップをとること、守秘義務のあるファイルについてはセキュリティー手順を守ること、パスワードは頻繁に変えることなどの防御策を講じなければならない。

表 3-4 さまざまなセキュリティーサービス

ファイヤーウォール	インターネットとLANとの間に置くことでデータ通信を管理し、外部からの攻撃や不正アクセスから内部ネットワークを守る仕組み
認証サービス	セキュリティー管理の一つで、マルチユーザーのコンピュータ・システムを使用する際に本人であることを確認すること。通常はユーザIDとパスワードの組み合わせによって認証が行われる
パスワード認証	コンピュータ・システムの安全性や信頼性を維持するために使用される、数字や文字列による符号。ネットワーク・システムやマルチユーザー・システムなどにおいて、システム資源を利用する際に、正当な利用者かどうかを確認するためにユーザIDと組み合わせて使用
コールバックサービス	電話の着信者が、発信者を確認していったん接続を切り、着信者からかけ直すという、コンピュータに対する不正な遠隔アクセスを防御するサービス

平成17年4月より「個人情報保護法」が施行されるため、在宅での入力がかかなり制約を受けることになる。また、地図データ・エントリーには、機密情報も多い。そのため、個人情報や機密情報がネットワークや作業員から漏洩させない手段を講じなければならない。

②ネットワークにおける対策

情報を外部に完全に漏らさないためには、専用回線を引くことが最良の方法であるが、コスト面や作業員側の負担が大きい。現状では、VPN (Virtual Private Network) を導入する方法が妥当であろう。VPN とはインターネットのようにだれもが利用できる公共のネットワークを利用してプライベートなネットワークを作ること、VPN には通信事業者のネットワーク内にユーザ毎のトンネルを張りサービスとして提供している IP-VPN と、インターネットを利用したインターネット VPN がある。コスト面と作業員側の負担を考慮するとインターネットVPNが採用しやすい。NPO法人あごらのデータセンターではこの方式をすでに採用しており、約80名の技術者がこの仕組みで作業を行っている。

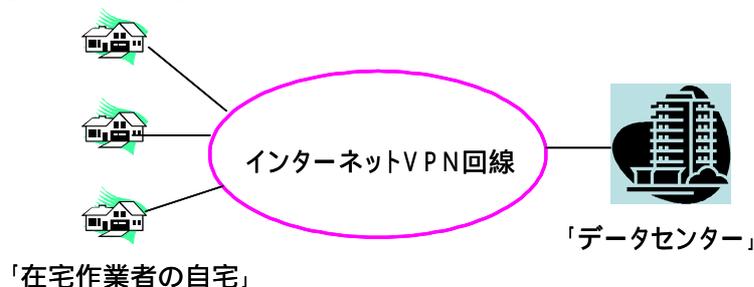


図 3-1 VPNサーバを利用したセキュリティー対策

インターネットVPNではデータセンター側は、VPNルータを経由してインターネットと接続する。在宅作業側は、ハードウェアを使用せずにソフトウェアVPNをインストールするだけでVPNを構築することができる。VPNは、データセンターと自宅がLANで接続されているのと同じなので第三者の外部からの進入を防ぐことができるが、あくまでも公衆回線なので完全に防げるわけではない。この場合は、暗号化と併用すれば安全度は向上する。

③暗号化

ネットワーク回線は完全には安全でないので、通信でやり取りするデータを暗号化しておけば、万が一第三者に見られても複合化（解読）することができない。ネットワーク回線のファイル転送のほか、電子メールも暗号化することができる。暗号化は、一定の規則で情報を組み替えて第三者利用できないようにすることで、基本的に鍵と呼ばれるデータと暗号化のアルゴリズムの組み合わせで暗号化し、その鍵で複合化する。現在では、ランダムに鍵を変化させて暗号化する手法も採用されている。

③情報の画像分割

属性情報の入力などで個人情報や機密情報の入力がある場合、入力原票をスキャンした画像を分割して内容が判らなくする方法がある。特に個人情報は、情報を分割することにより個人情報としての価値がなくなる。

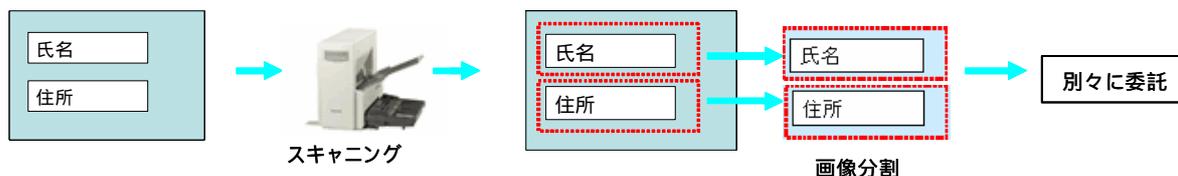


図3-2 情報の画像分割による入力法

このような方法で、「氏名」と「住所」を別々に入力委託することで個人情報の漏洩を防ぐことができる。

④作業側側の環境

作業側側の環境として物理的に事故を防ぐ対策として以下のものがあげられる。

- ア. 入力中のものは印刷できない。
- イ. FDなど他の媒体にデータを保存することができない。
- ウ. 作業中以外データは、暗号化しておく。

⑤啓蒙及び教育

在宅作業側側に対しては、定期的に情報の取り扱いの教育や試験をすることで事故を未然に防ぐ必要がある。

(4) 在宅就業者の心構え

在宅就業は、業務形態の性質上、成果主義であり自己責任が原則である。収入を増やすためには、一つのことに習熟するだけでなく、他の分野もこなせるよう知識の習得に努めなければならない。次に記載したのは、在宅就業者の心構えであり、収入を増やす秘訣といえる。

①仕事をしながらスキルアップ

在宅就業者は、常に少し難しい仕事に挑戦していくことで、仕事を通じたスキルアップを図るべきであり、今は初心者であっても、難易度の低いものからスタートして少しずつ難易度を上げていくことで、レベルアップをしていくことは可能である。また、すでにハイレベルなスキルを持っている人も、関連するハード、ソフトなどの最新情報に気を配り、新しいスキルを身につけるよう努力すべきである。ほかの人が持っていない技能を修得していれば、それだけで大きなアピールポイントになる。市販のパソコン雑誌に目を通したり、講習会に参加するなど、「常に勉強」の気持ちを忘れず、スキルアップに励むことが期待される。

②在宅就業者も事業家の精神

仕事は、人間関係からもらうことが大半である。より多くの人との信頼関係を築くことで、定期的な受注につながり、他のクライアント（業務発注者）を紹介してもらえる場合が少なくない。

一度取引をしたクライアント（業務発注者）とは「次も仕事をお願いしたい」と言ってもらえるよう、いい関係を築いていくのが望ましい。

在宅就業に関しても、信用を得るためには、「納期を守る」「ミスのないよう心がける」「連絡・報告を欠かさない」といった基本的なことはもちろん、仕事が終了した後も、電子メールなどを活用してこまめにコミュニケーションを取ることが重要である。

③人脈のネットワークをもつ

会社員時代と違い、人的ネットワークによるフロー体制が重要である。在宅就業者には、疑問や問題に面したとき、相談先や助言を受けられる環境がない。在宅作業者の評価は、仕事の結果がすべてといても過言ではなく、子どもが病気になっても、体調が悪くても、その仕事を引き受けたからには結果を出さなくては次の仕事につながらない。

このような状況下での仕事と家庭の両面をサポートしてくれる人的ネットワークの存在には、心強いものがある。さまざまな経験や知識を持った人たちとのかかわりは、知識や経験の不足をカバーしてくれるだけでなく、全く違う分野で仕事をしている人の話から新しい仕事につながる発見やアイデアが見つかることも少なくない。

また、ネットで知り合った仲間や近所に住むテレワーカー仲間とは、大量に仕事が入ったときや仕事が重なってしまったときに助け合えるような関係を築いておくことも重要である。このことにより、「次の仕事が来ないのでは」等の、不安を感じながら仕事を断ることもなくなり、より大きな仕事が受注できる可能性も広がる。

④健康管理の重要性

個人で仕事をするのに自由度がある半面、リスクも大きく、病気やケガで働けなくなれば、たちまち収入がゼロになってしまう可能性もある。従って健康管理にはこれまで以上に気を配る必要がある。仕事にメリハリをつけるためにも、自分なりのリフレッシュ方を見つけるべきである。

長時間作業は、健康に悪いだけでなく、仕事の効率も落ちる。目や心身の負担を軽減するため、少なくとも1時間に10分程度の休みを取るようにしたい。運動不足解消と気分転換をかねた軽い体操や散歩も体をリフレッシュするためには有効な手段である。

作業台の高さや照明などの工夫で疲労度は大きく変わる。照明はディスプレイ画面と書類やキーボード面、周辺の明るさの差をできるだけ小さく、また光源がディスプレイに映りこまないようにする。机はやや奥行きのあるもの、椅子は使いやすい高さに調整できるものを選び、背もたれやひじ掛けがあるものが理想的である。

(5) 在宅就業のメリット

在宅就業を採用することによるメリットについて企業と就業者別に整理したのを下図にまとめた。

表3-5 在宅就業のメリット

在宅就業の企業側のメリット

勤務者の移動時間の短縮・効率化	52.0%
顧客満足度の向上	33.3%
創造的業務の効率・生産性の向上	31.3%
オフィスコストの削減	29.4%
定型業務の効率・生産性の向上	27.3%
優秀な人材の雇用確保	21.4%

在宅就業の就業者のメリット

通勤の疲労がなくなる	57.4%
仕事の生産性が高くなる	44.4%
家族との団らんが増える	27.8%
家事や育児の時間が増える	25.9%
地域社会との交流が増える	7.4%
その他	18.5%

(社団法人日本テレワーク協会調査)

(6) 在宅就業のデメリット

在宅就業を採用するデメリットについて企業と就業者別に整理したのを下図にまとめた。

表3-6 在宅就業のデメリット

在宅就業の企業側のデメリット

適した職種がない	61.8%
管理が難しい	43.0%
勤務者の評価がしにくい	28.7%
コミュニケーション不足になる	22.5%
会社の規模が小さいのでできない	21.4%
従業員からの要望・提案がない	20.5%

在宅就業の就業者のデメリット

コミュニケーション不足する	38.9%
孤独感や孤立感を感じる	20.4%
仕事の評価に不満がある	16.7%
家族に迷惑がかかる	11.1%
仕事の生産性が低くなる	7.4%
その他	22.2%

(社団法人日本テレワーク協会調査)

(7) 在宅就業の課題

自宅で活動する在宅就業者には上記のデメリットのほかに、「仕事の確保」、「単価が安い」、「能力・知識の不足」という課題がある。「仕事の確保」は、いかに今の仕事を続けるか、複数の得意先をもつかということがポイントである。

「単価が安い」問題については、実際に仕事してみると、報酬の計算が間違ったり、支払いを踏み倒されるなどのトラブルが多い。在宅就業者は、委託企業と書面を交わす習慣をつける必要がある。

「能力・知識の不足」、これは個々人の努力が必要で常にアンテナを張って新しい情報を得るとともに、継続的な知識の習得が必要である。

実際に仕事を始めてみると委託企業への問い合わせが必要な場面がでてくる。また、雇用者側として、マシントラブルなど電話で対応してくれる相手方に自分の状況を正確に伝える訓練が必要となる。

このようなコミュニケーションの標準化と、WEBカメラ等、新しいコミュニケーション・ツールを活用した仕組みを構築することがトラブルを最小限に抑えるために必要であると考えられる。

委託企業も作業指示書があいまいであるケースが多く仕事をする人によって解釈が変わるようなトラブルが発生している。作業環境の進歩にともない在宅ではますます多用な業務形態が現れ、各形態に対応した作業の指示方法や教育方法の難化が予想される。

3. 2 ひとり親家庭の母親にふさわしい在宅業務

ひとり親家庭の母親を取り巻く環境は、母親が働く機会が多く、努力すればするほど報われる社会構造であるべきであるが、就業の機会は非常に少ない。子どもが保育所に入園していることを就職の条件にしている企業が増えている一方、保育所に入所させるための条件が働いていること、という矛盾した状況にもある。実際には、短時間のパートやアルバイトを複数こなすことで生計をたてている場合が多い。

子育てと両立して母親が自宅で仕事ができる環境が必要である。また、在宅で仕事をしていくためのスキルをあげるための教育を自宅で習得できる環境が必要である。この点から自宅で学習できるeラーニングは、今後有望な教育手段となっていくと考えられる。

在宅就業は、自宅で仕事ができることで通勤時間の節約、勤務時間の融通性がでて自己管理がきちんとできれば、家族とのコミュニケーションや安定した収入を確保することができる。しかし、自己管理ができない状況におちいると仕事が終わらなくなり家族に迷惑をかけたり、本人が病気になってしまったりする危険な面も否定できない。その意味からも従来からあるテレワーク型の就業業務以外に特別な技術を必要とする業務を身に付ける必要があり、その一つが地図データ入力ということになる。

在宅就業は、個人事業主であるという意識を持たなければならないことや、まだ事例の少ない成功するための方法論を多くのひとり親家庭の母親に対して啓蒙していくことが今後は必要である。

3. 3 NPO法人あごらでの就業支援

(1) NPO法人あごらパートナー会員のスキルレベルと対応可能業務

当研究の成果はNPO法人あごらの活動に展開させており、その意味で、NPO法人あごらの就業支援実態を紹介しておく。

あごらでは、母子家庭向けに教育研修を行っているが、現在抱えている技術者は以下の通りである。

表3-7 NPO法人あごらの技術者

[業務スキル]

業務スキル	内 容	要員数
A	地図データ入力支援技術者養成講座修了者	200
B	コンピュータ支援翻訳者養成講座修了者	30
C	技術講座受講中	820
D	未修了者	50
合 計		1,100

[ITスキル]

ITスキル	内 容	要員数
A	WORD、EXCEL、データ入力業務経験がある	209
B	WORD、EXCEL業務経験がある	385
C	WORD、EXCEL、キーパンチャー経験どれかの業務経験がある	198
D	インターネット、Eメール操作レベル	308
合 計		1,100

[対応可能業務]

業務		業務スキル	ITスキル	要員数
地図データ入力	単純ポイント入力	A	ABCD	200
	地形図	A	ABC	144
	水道、下水、ガス	A	AB	108
コンピュータ支援翻訳		B	ABCD	30
インターネットデータ収集		ABCD	ABCD	1,100
データ入力	文字入力	ABCD	ABCD	962
	WORD入力	ABCD	ABC	568
	EXCEL入力	ABCD	ABC	606

(2) あごらデータセンターの実施業務

あごらデータセンターでは母子家庭の母に対する就業支援のために下記のような業務を請け負うことができる。

表3-8 NPO法人あごらデータセンター実施業務

業務種別	業務内容
データエントリー	<ul style="list-style-type: none"> ●申請書・伝票・台帳・レセプトなどの各種データの整理、電子化作業（パソコン入力） ●システム設計書、マニュアル、各種文書のワード、エクセル入力 ●各種帳票の文字・数値データ入力業務 ●データベースの構築、システム開発業務
ファイリング	<ul style="list-style-type: none"> ●図面・文書のスキャニング作業 ●ファイリング用データの入力 ●ファイリングデータベースの構築
アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ●アンケート調査の企画・実施 ●アンケート調査に実施 ●アンケートデータ入力業務・分析
会議録作成	<ul style="list-style-type: none"> ●音声自動認識による会議録作成
コンピュータ支援英日翻訳作業	<ul style="list-style-type: none"> ●特許文献の機械翻訳作業 ●技術文献、論文などの機械翻訳
図面・地図データエントリー	<p>国、公団公社、地方自治体、民間企業等で利用する図面、地図などのデジタル化（電子化作業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各種行政用マップ 公共施設マップ、観光マップ、防災マップ、福祉マップ、医療機関マップ、学校・文教施設マップ、各種法規制・行政情報、公図、地籍情報入力、その他地図データ ●都市ユーティリティ施設管理マップ (水道、電力、ガス、下水道、通信、道路、橋、港湾等) ●図面入力 画像データ入力、CADデータ入力、マーケティング用地図・属性入力
ホームページ作成業務	<ul style="list-style-type: none"> ●ホームページ作成業務 ●コンテンツ作成
各種調査業務システム開発	<p>調査、研究、システムコンサルタント、システム開発などを実施し、コンテンツ作成、データ作成などについてはあごらの技術者を起用</p>

(3) NPO法人あごらの実施体制

NPO法人あごらの就業支援実施体制を示す。

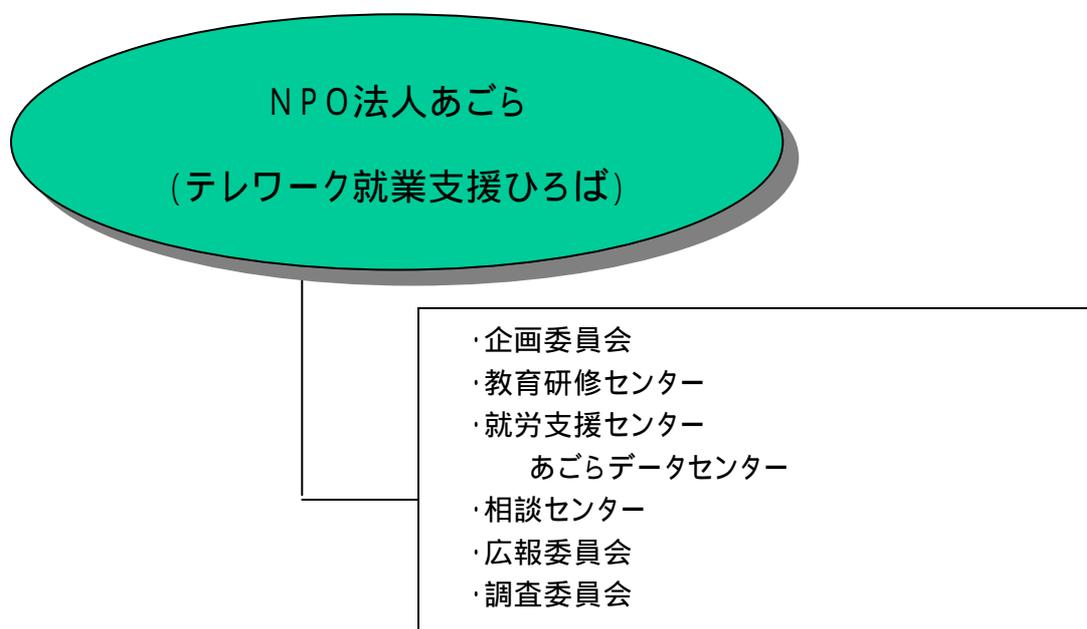


図3-3 NPO法人あごらの就業支援体制

(4) VPN画像エントリーシステム登録に関して

在宅就業希望者に対しては、前述の通りVPNサーバを使った、画像エントリーシステムを利用している。

- ・ データの安全性の確保
- ・ 個人情報流出の防止
- ・ 良質な品質の確保

これについては、6章にて、就労支援モデルとして紹介している。

(5) 運用の仕組み

データセンターの運用の仕組みを下図に示す。

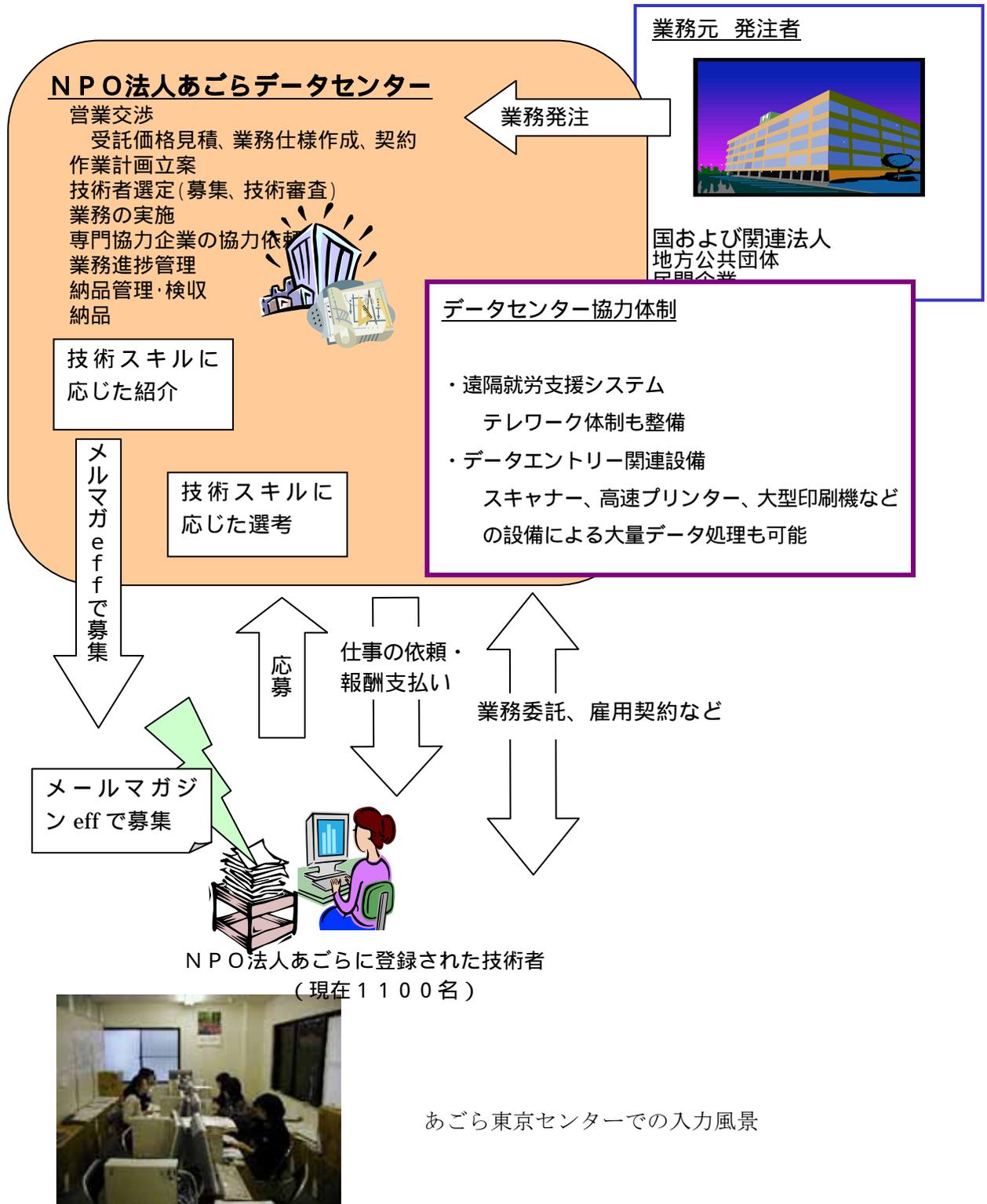


図3-4 あごらデータセンター

4. 在宅就労に関するアンケート調査

在宅における仕事の実態や生じた様々な課題、生活、就業に関する意識等を調査することとした。

4. 1 調査の概要

(1) 調査範囲

地域差を少なくするために調査対象は全国とした。

なお、別途、長崎県内でのひとり親世帯の実態調査（下記：参考）を参考とすることとした。

(2) 調査の方法

アンケート調査は、郵送による配布とインターネットによる回答の2つの手法を併用して行った。

(3) 調査期間

調査期間は、2004年12月25日～2005年1月4日の間に行った。

(4) 配布人数と有効回答数

質問紙の配布1726名に対し、有効回答数は476名であった。なお、有効回答数のうち57名は結婚継続者であり、ひとり親世帯ではなかったため、分析はこれを除いた419名で行うこととした。

表4-1 調査対象

・調査用紙による実施者数	
母子家庭関連団体 A	350名 回収 106名
母子家庭関連団体 B	850名 回収 164名
母子家庭関連団体 C	500名 回収 138名
母子家庭関連団体 D	26名 回収 16名
・インターネットによる実施者数	
母子家庭関連団体 E	29名 回収 29名
母子家庭関連団体 F	23名 回収 23名

参考：長崎県ひとり親世帯の実態調査

「長崎県ひとり親世帯の実態調査」とは、長崎県内の全自治体を対称に2004年8月1日～8月31日にNPO法人あごらで実施した児童扶養手当を受給しているひとり親世帯の母親を対象に行った調査で2095名分の回答を分析している。

4. 2 調査項目

以下の項目を設定した。

1. フェイスシート
 - ・年代
 - ・子ども人数
 - ・世帯人員
 - ・配偶者の状況
 - ・ひとり親世帯になった年齢
 - ・ひとり親世帯になった理由
 - ・住居の状況
2. 現在の暮らし
3. 仕事について
 - ・ひとり親世帯になる前の仕事
 - ・現在の仕事
 - ・働く希望
 - ・収入を伴う仕事をしていない理由
 - ・働きたい理由
 - ・仕事の数
4. 現在の仕事について
 - ・就業形態
 - ・職種
 - ・収入
 - ・労働時間
 - ・仕事への満足度
5. 在宅就労について
 - ・在宅就労への関心
 - ・在宅就労への魅力
 - ・在宅就労への不安
6. 資格について
 - ・持っている資格
 - ・資格取得の理由
7. パソコンについて
 - ・パソコンの有無
 - ・インターネット環境
 - ・パソコン歴
 - ・パソコンの利用状況
 - ・パソコンを使いたいか
 - ・パソコン技術取得の理由
 - ・サテライトオフィスを知っているか
8. 就職・転職の重視点
9. ひとり親世帯になって感じる点
10. 自由意見

使用したアンケート票を示す。

ひとり親世帯の実態調査

本アンケートは、NPO 法人あごらが福祉医療機構より平成 16 年度子育て支援基金の助成を受け、その研究事業における、調査の一環として実施するものです。

本アンケートを通じて、ひとり親世帯の生活および就労、教育研修形態等の実態や生じた様々な課題を明らかにし、それをもとにひとり親世帯のお母さんの就労・自立に向けた在宅就労支援マニュアルを作成することを目的とします。

NPO 法人あごらでは、いただいたご意見をもとに、在宅就労マニュアルをはじめ、みなさんの就労のお手伝いをします。

みなさんからいただいた回答は、すべて統計的に処理されるものであり、それ以外のいかなる目的にも利用することはありません。また、これら個人情報が公表されることは一切ありません。

お忙しいところ、面倒なお願いで恐縮ですが、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

<記入上の注意>

1. このアンケートは、ご本人がお答えください。
2. 回答の種類には、直接□の中に記入するもの、選択肢の数字を○で1つまたは複数囲むもの、ご意見を記入してもらうものがあります。設問の指示にしたがってお答えください。
3. 記入漏れがないようにお願いします。

～ お問い合わせ先 ～

NPO 法人あごら 教育研修担当

電話：0120-160-930

<http://www.npo-ago-ra.jp>

NPO 法人あごらは、仕事も子育てもしっかりやりたいお母さんを応援しています。

インターネットを使った在宅での教育研修および就労支援を行っています。

- 厚生労働省母子家庭自立支援教育訓練給付金事業の指定を受けた技術研修講座の開講
- 技術研修講座の受講修了者への仕事の紹介

1. アンケートを行った日付を記入してください。

平成	年	月	日
----	---	---	---

問2. あなたの現在の年齢を記入してください。

現在の年齢		歳
-------	--	---

問3. 現在のあなたの子ども的人数と世帯数は何人ですか。該当する区分欄ごとにそれぞれの人数を□の中に記入してください。

子どもの人数						
小学校 入学前	小学生	中学生	高校生	大学短大 専門学校 など	就職	その他
人	人	人	人	人	人	人

その他の世帯員的人数					
あなたの 父母	あなたの 兄弟姉妹	あなたの 祖父母	配偶者	配偶者の 父母	その他
人	人	人	人	人	人

問4. 現在配偶者はいますか。当てはまるものに○をつけてください。

1. あり →問5へ	2. なし→問6へ
------------	-----------

問5. 現在、配偶者とはどのような状況ですか。当てはまるものに○をつけてください。

1. 同居中	2. 別居中
3. 離婚調停中	4. その他 ()
→問8へ	

問6. あなたがひとり親世帯になったときの年齢を□の中に記入してください。

ひとり親世帯になったときの年齢		歳
-----------------	--	---

問7. ひとり親世帯になった理由は何ですか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 協議離婚	2. 調停離婚	3. 裁判離婚
4. 死別	5. 未婚	6. その他 ()

問8. 現在のあなたの住居の状況について、当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 配偶者の持家	2. 親族の持ち家	3. 自分の持ち家
4. 市営・県営住宅	5. 公社公団の賃貸	6. 社宅など
7. 間借	8. 民間賃貸	10. その他 ()

問9. 現在の暮らしについてどのように感じていますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- | | | |
|---------|---------|--------------|
| 1. 満足 | 2. やや満足 | 3. どちらともいえない |
| 4. やや不満 | 5. 不満 | |

問10. あなたは、ひとり親世帯になる前に収入を伴う仕事として主たる仕事がありましたか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. あった (通勤で) | 2. あった (在宅で) |
| 3. なかった | 4. その他 () |

問11. あなたは、現在収入を伴う仕事として、主たる仕事がありますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. ある (通勤で) →問15へ | 2. ある (在宅で) →問15へ |
| 3. ない →問12へ | |

問12. あなたは、現在働きたいと思っていますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- | |
|--------------------|
| 1. 働きたいとは思わない |
| 2. 今すぐ働きたい |
| 3. 今は働けないがそのうち働きたい |

問13. 現在収入を伴う仕事をしていない理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 仕事の探し方がわからない | 2. 収入について条件のあう仕事がない |
| 3. 時間について条件のあう仕事がない | 4. 年齢制限のため仕事がない |
| 5. 仕事に必要な専門知識や資格がない | 6. 子どもの保育の手だてがない |
| 7. 家族の介護のため | 8. 自身が病気のため |
| 9. その他 () | |

問14. どのような状況になったら働きたいと思いますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 子どもの保育の手だてができたら | 2. 子どもが小学校に入学したら |
| 3. 子どもの問題 (健康など) が解決したら | 4. 自分の問題 (健康など) が解決したら |
| 5. 学校や職業訓練などが終了したら | 6. 仕事に必要な資格や技能を身につけたら |
| 7. 病気が治ったら | 8. 介護が終わったら |
| 9. 貯金がなくなったら | 10. 人から「働け」といわれたら |
| 11. その他 () | |
- 問21へ

問15. あなたは、現在いくつの仕事をしていますか。□の中に数字を記入してください。

		個
(うち、通勤を伴う仕事		個 在宅での仕事
		個)

問16. 現在の就業形態は次のどれに当てはまりますか。複数の仕事をお持ちの方は、主たる仕事について、1つに○をつけてください。

1. 正社員・正規職員	2. パート・アルバイト	3. 嘱託・準社員・臨時職員
4. 人材派遣会社の派遣社員	5. 自営業主(商店主・農業など)	6. 自家営業の手伝い
7. 個人事業主(SOHOなど)	8. その他()	

問17. 現在の仕事の職種はどれですか。回答欄の中に記入してください。また、勤務形態に関しまして、勤務形態欄より該当するものに○をつけてください。

仕事の種類	回答欄	勤務形態
主たる仕事		(通勤 ・ 在宅 ・ その他)
その他の仕事		(通勤 ・ 在宅 ・ その他)
		(通勤 ・ 在宅 ・ その他)
		(通勤 ・ 在宅 ・ その他)
		(通勤 ・ 在宅 ・ その他)
		(通勤 ・ 在宅 ・ その他)
		(通勤 ・ 在宅 ・ その他)
		(通勤 ・ 在宅 ・ その他)
		(通勤 ・ 在宅 ・ その他)
		(通勤 ・ 在宅 ・ その他)

問18. あなたの現在の年間の勤労収入はおおよそいくらくらいですか。おおよその金額を□の中に記入してください。

約		万円
---	--	----

問19. あなたは、1週間でどのくらい仕事に時間を費やしていますか。□の中に時間を記入してください。

		時間		分
--	--	----	--	---

問20. あなたは現在の仕事に満足していますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 満足	2. やや満足	3. どちらともいえない
4. やや不満	5. 不満	

問2 1. あなたは、在宅就労に関心がありますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 正業として関心がある | 2. 副業として関心がある |
| 3. 関心がない | |

問2 2. あなたは、在宅就労の何に魅力を感じますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 好きな時間にできる | 2. 子どもの育児と両立ができる |
| 3. 自分のペースでできる | 4. 空いた時間を趣味等に使える |
| 5. 自分のスキルに応じた仕事ができる | 6. 自分のスキルに応じた賃金が期待できる |
| 7. 親等の介護と両立ができる | 8. その他 () |

問2 3. あなたが、在宅就労に対して不安に思うことは何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|-----------------------|-------------------|-------------|
| 1. 単価が安い | 2. 自分の進捗がわからない | 3. 時間管理が不安 |
| 4. 孤独である | 5. 契約関係や給与支払いが不透明 | 6. 仕事の安定的確保 |
| 7. パソコン等の作業環境 | 8. 個人評価がされにくい | 9. 家族の理解が必要 |
| 10. 介護や保育に対する支援を受けにくい | | |
| 11. その他 () | | |

問2 4. あなたは、現在どのような資格を持っていますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | | | |
|-------------|------------|-----------------|----------|--------|
| 1. 看護師 | 2. 栄養士 | 3. 調理師 | 4. 理・美容師 | 5. 保育士 |
| 6. ケアマネージャー | 7. ホームヘルパー | 8. 介護福祉士 | 9. 簿記 | |
| 10. 教員 | 11. パソコン関係 | 12. 外国語関係 | | |
| 13. 医療事務 | 14. 運転免許 | 15. 特に資格は持っていない | | |
| 16. その他 () | | | | |

問2 5. 資格を取った理由は何ですか。特に当てはまるもの1つに○をつけてください。

- | | | |
|------------|-------------|----------|
| 1. 仕事で使うから | 2. 就職に有利だから | 3. 趣味・教養 |
| 4. なんとなく | 5. その他 () | |

問2 6. 自宅にパソコンがありますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|-----------------------------|--------|
| 1. インターネットにつながったパソコンを保有している | →問2 7へ |
| 2. パソコンはあるがインターネットに接続されていない | →問2 8へ |
| 3. パソコンは持っていない | →問3 0へ |

問27. インターネットの接続環境はどのようなものですか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. ADSL	2. ISDN	3. 光ケーブル
4. モデムによるダイヤルアップ	5. その他 ()	

問28. あなたのパソコン歴は何年ですか。□の中に記入してください。また、使用頻度はどの位ですか。使用頻度欄より当てはまるもの1つに○をつけてください。

●パソコン歴	□	年
●使用頻度		
1. 週に5回以上	2. 週に3～4回程度	3. 月に3～4回程度
4. 月に1～2回程度	5. ほとんど使用しない	

問29. あなたは、普段家庭で何にパソコンを利用していますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 文書作成	2. 家計簿	3. 表計算
4. 年賀状作成	5. 写真加工	6. ゲーム
7. メール	8. ホームページ作成	9. 資格取得の勉強
10. 画像の取り込み (雑誌記事の整理等)	11. アルバムの作成	
12. 音楽CDの作成	13. プログラミング	
14. 特殊なソフト (CAD、画像加工など)		
15. インターネット (検索・閲覧)		
16. インターネット (無料ソフト等のダウンロード)		
17. 使用していない		
18. その他 ()		

問30. あなたは、今後パソコンを使えるようになりたいですか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 使えるようになりたい	2. 使えるようにはなりたくない
---------------	------------------

問31. パソコンを使えるようになりたい理由は何ですか当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 仕事のため	2. 転職や再就職のため
3. 趣味や教養のため	4. 子どもがやっているから
5. なんとなく	6. その他 ()

問32. 「サテライトオフィス」を知っていますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 知っていて実際に通っている	2. 名前は聞いたことがある
3. 知らない	

問33 現在、あなたが就職や転職を考える際、以下に挙げる項目をどの程度重要視していますか。

		まったく重視しない	あまり重視しない	やや重視する	非常に重視する
1	就業時間に融通がきくこと	1	2	3	4
2	副業をたくさんこなすこと	1	2	3	4
3	年齢制限がないこと	1	2	3	4
4	日当が出ること	1	2	3	4
5	土日に休めること	1	2	3	4
6	通勤が短いこと	1	2	3	4
7	サテライトオフィスであること	1	2	3	4
8	長期契約をしてくれること	1	2	3	4
9	知り合いから紹介された仕事であること	1	2	3	4
10	相談すべきところがわかりやすいこと	1	2	3	4
11	身分が安定していること	1	2	3	4
12	専門的な知識が必要なこと	1	2	3	4
13	十分な収入が得られること	1	2	3	4
14	自立支援員から紹介された仕事であること	1	2	3	4
15	自分の直感を優先する	1	2	3	4
16	自分の健康状態が安定していること	1	2	3	4

		まったく重視しない	あまり重視しない	やや重視する	非常に重視する
17	子どもの保育の手立てがあること	1	2	3	4
18	離婚調停が終わっていること	1	2	3	4
19	子どもの健康状態が安定していること	1	2	3	4
20	子どもが小学校に入学していること	1	2	3	4
21	講座を受講しておくこと	1	2	3	4
22	残業が短いこと	1	2	3	4
23	在宅でできること	1	2	3	4
24	広告で紹介されていた仕事であること	1	2	3	4
25	厚生年金・雇用保険に入れること	1	2	3	4
26	労働時間が短いこと	1	2	3	4
27	これまでの経験が発揮できること	1	2	3	4
28	業績が安定していること	1	2	3	4
29	求人数が多いこと	1	2	3	4
30	休暇が取りやすいこと	1	2	3	4
31	技術・技能を身につけられること	1	2	3	4
32	家庭問題が問題視されないこと	1	2	3	4
33	ハローワークから紹介された仕事であること	1	2	3	4

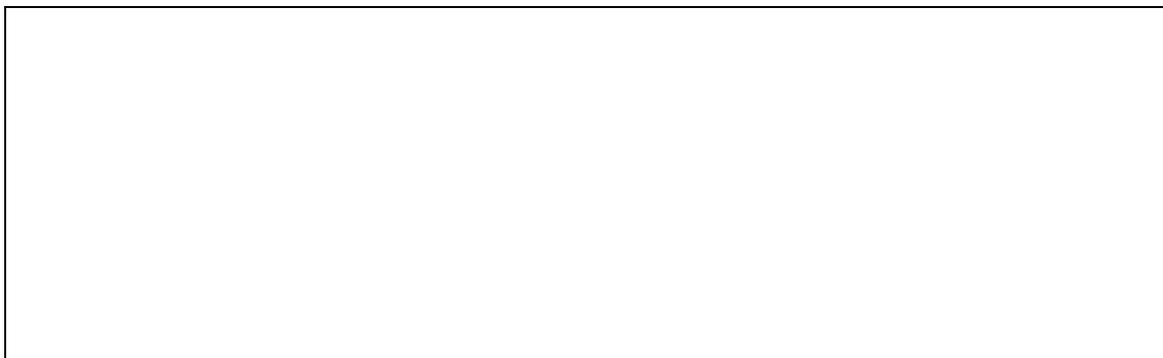
		まったく重視しない	あまり重視しない	やや重視する	非常に重視する
34	自分の持っている資格を活かせること	1	2	3	4
35	インターネットで情報を入手できること	1	2	3	4
36	自分の能力が発揮できること	1	2	3	4
37	どんな仕事でもやる	1	2	3	4
38	たくさんの人に相談すること	1	2	3	4
39	仕事が簡単なこと	1	2	3	4
40	自治体等の支援	1	2	3	4
41	「夫は外で働き妻は家庭を守る」という風潮に賛成である	1	2	3	4
42	働かなくても誰かが何とかしてくれると思う	1	2	3	4

問34 あなたがひとり親世帯になって感じることは何ですか。

		まったく思わない	あまり思わない	多少思う	非常に思う
1	ひとり親世帯になって自分の時間的なゆとりが減った	1	2	3	4
2	ひとり親世帯になって自分が働かなくてはというプレッシャーを感じるようになった	1	2	3	4
3	ひとり親世帯になって経済的に不安定になった	1	2	3	4

		まったく思わない	あまり思わない	多少思う	非常に思う
4	ひとり親世帯になって経済的に無理をしても子どもの教育は十分にしたいと思うようになった	1	2	3	4
5	もう結婚したいと思わなくなった	1	2	3	4
6	ひとり親世帯にとって暮らしにくい世の中だと思う	1	2	3	4
7	ひとり親世帯になって自分の精神的なゆとりが減った	1	2	3	4
8	ひとり親世帯ゆえに周囲の人との付き合いに気を遣うようになった	1	2	3	4
9	ひとり親世帯になってから自分の健康がより気になるようになった	1	2	3	4
10	ひとり親世帯になってできるだけ貯蓄をしたいと思うようになった	1	2	3	4
11	ひとり親世帯になってあまり外出しなくなった	1	2	3	4
12	ひとり親世帯になって付き合い人が変わった	1	2	3	4
13	ひとり親世帯になって自治体等の施策に関心を持つようになった	1	2	3	4
14	ひとり親世帯になって、老後のことを気にするようになった	1	2	3	4
15	ひとり親世帯になって親の健康状態が気になるようになった	1	2	3	4
16	ひとり親世帯になって子どもがいてくれてよかったと思うようになった	1	2	3	4

問35. 仕事について（就職を含む）困っていることなどについて、行政、企業、社会一般への要望や意見を含めてご自由にお書きください。



4. 3 調査対象者の属性

(1) 調査対象者の地域分布

地域ごとの回答者数は、関東地区 **57.0%**、北海道地区 **29.6%**、近畿地区 **2.4%**、その他地区 **11.1%**であった、なお、その他地区とはインターネット調査の対象者であり居住地区が特定できなかった。

(2) 年齢構成

年齢構成では、**35歳 - 49歳**までのひとり親世帯の母親が **60.1%**であり、**34歳**までの母親は **12.2%**、**50歳**以上の母親は **27.0%**となっており、年齢層が高い被験者が集まった結果となった。

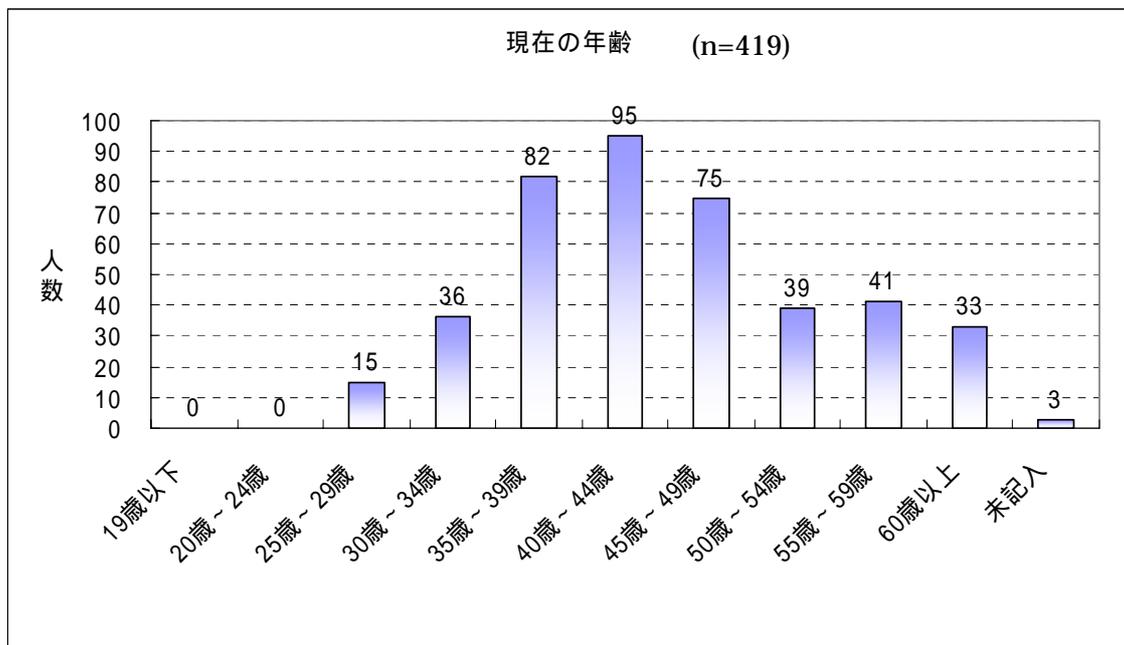


図 4 - 1 年齢構成

ひとり親世帯の母親歴では、0～4年の母親が25.8%、5～9年の母親が28.9%、10～14年の母親が20.5%、15年以上の母親が21.5%となっており、10年以下の母親が若干多くなっている。

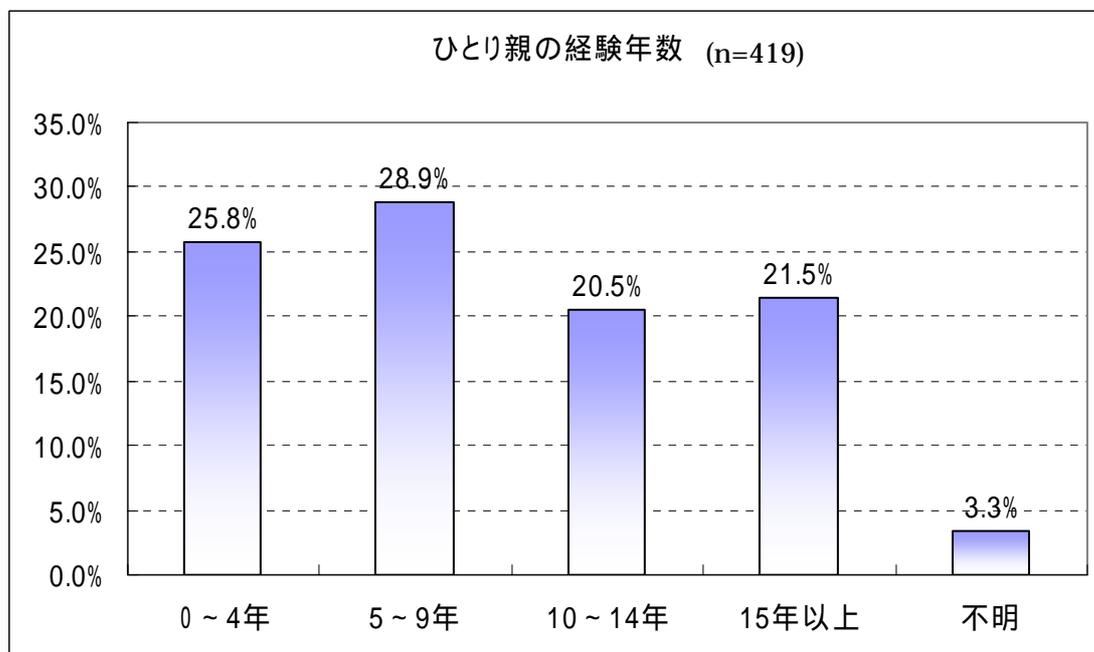


図4-2 ひとり親の経験年数

4. 4 調査結果

(1) ひとり親世帯の暮らしの実態

①暮らしの満足度

ひとり親世帯の母親全体の **44.7%**が現在の暮らしに満足（満足もしくはやや満足）であると回答している。長崎県内の実態調査では満足度は **29.6%**であることから、本調査対象者の生活実態は比較的豊かであると予想される。これは、今回の調査対象が必ずしも児童扶養手当を給付されている母親ではないことに起因している。

一方配偶者がいる被験者では、**43.8%**が現在の暮らしには不満（不満もしくはやや不満）であると回答した。

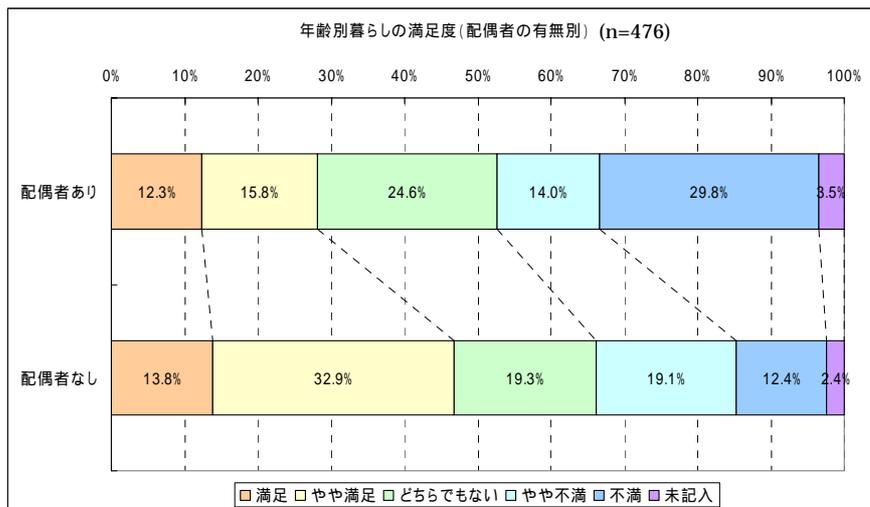


図4-3 暮らしの満足度

長崎における児童扶養手当給付者に対するアンケートでは下図のように生活への満足感は薄くなっており、今回の調査とは対照的である。

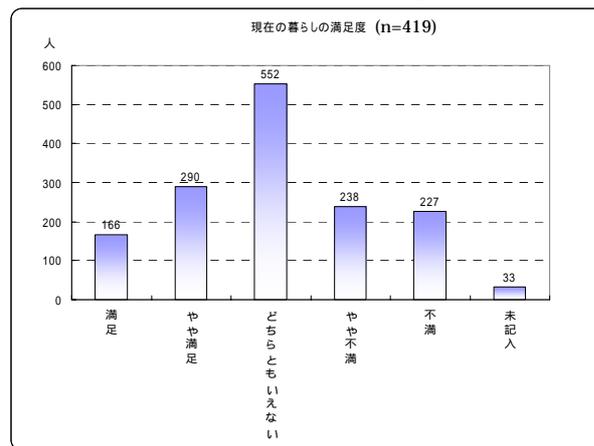


図4-3 補足（暮らしの満足度：長崎アンケート）

②子供の人数

子どもの人数は、本調査では一世帯当たり、**1.8人**であった。

③住居の状況

居住形態は、親族の持ち家が **25.2%**、民間賃貸が **24.1%**、自分の持ち家が **22.0%**であった。長崎県内の実態調査では、親族の持ち家や民間賃貸の割合は高かったが、市営・県営住宅が **22.6%**と高かったのが本調査と異なる点であった。

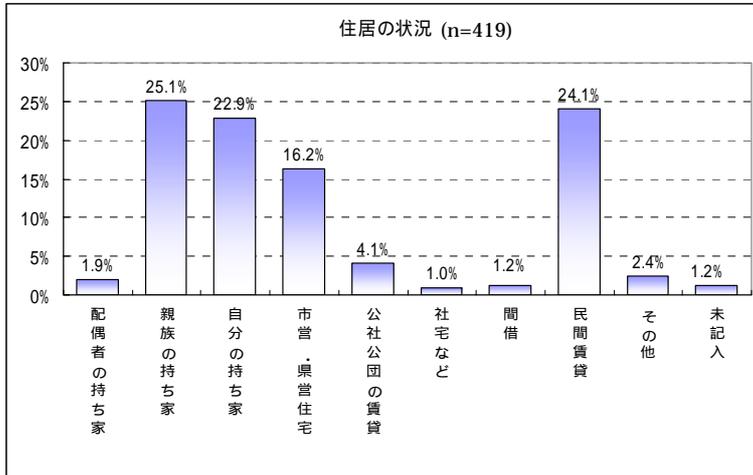


図 4 - 4 住居の状況

(2) ひとり親世帯の母の就業

ひとり親世帯の母の就業状態および意識について調査した結果を以下に示す。

①就業率

ひとり親世帯の母の就業率は **82.3%**であり、そのうち **76.8%**が通勤、**5.5%**が在宅による就業であった。この結果を長崎県内の就業率 **63.5%**と比べると本調査の被験者の就業率が非常に高いことがわかる。

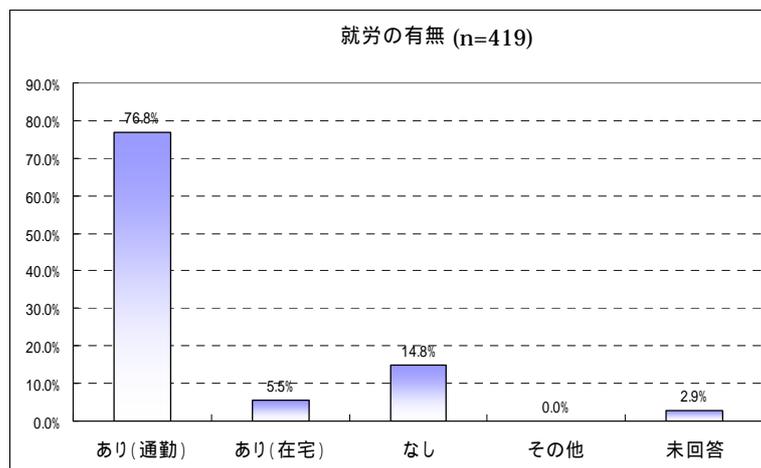


図 4 - 5 就業状況

②就業形態

就業形態は、正社員・正規職員が **45.2%**、パート・アルバイトが **29.6%**、嘱託・派遣社員が **11.9%**となっていた。この傾向は、長崎県内の実態調査では、嘱託・派遣社員の割合が低いことから本調査の被験者の特徴といえることができる。

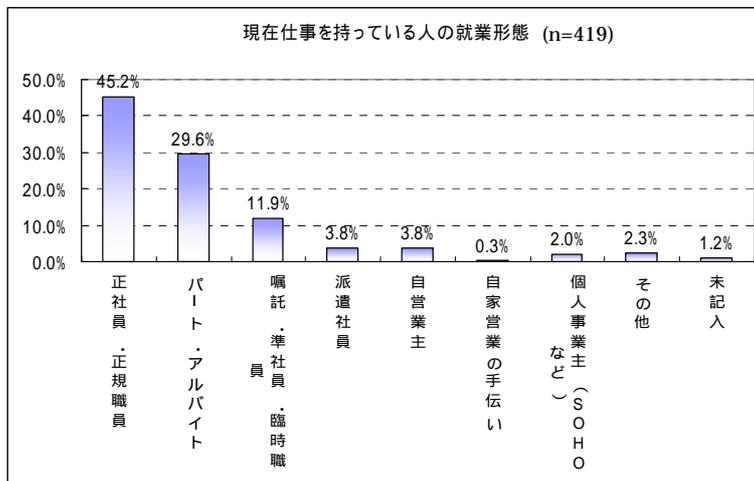
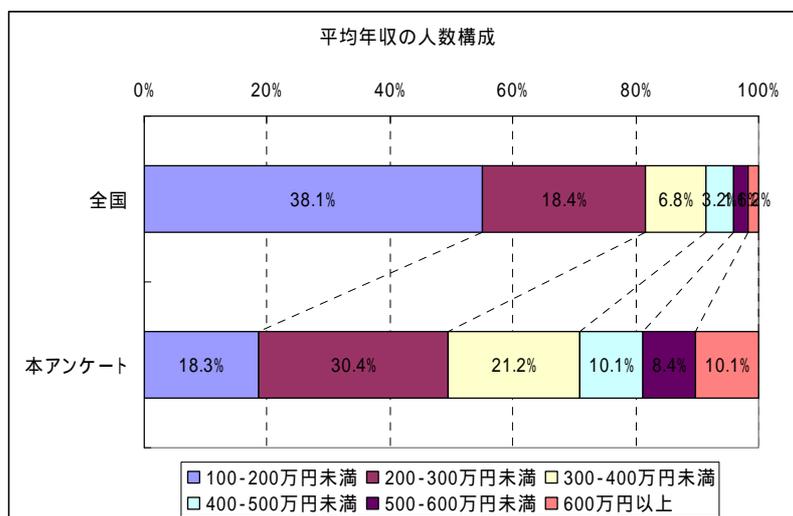


図 4 - 6 就業形態

③収入

勤労収入では、平均年収 **264.5** 万円であった。長崎県内の実態調査では **156.8** 万円であり、厚生労働省が行った「平成 15 年度全国母子世帯等調査」では **162** 万円であったことから本調査の被験者は比較的収入の多い層であることがわかる。



※ 全国：n=8,798,000
 本アンケート：n=345

図 4 - 7 平均収入

④非就業理由

現在非就業者の非就業理由は、「年齢制限による仕事の制限」**41.9%**、「自身が病気のため」**32.3%**、「時間について条件があわない」**29.0%**、「仕事に必要な資格や知識不足」**27.4%**であった。この結果は、順序の前後はあるものの長崎県内の調査と同様の結果を示した。

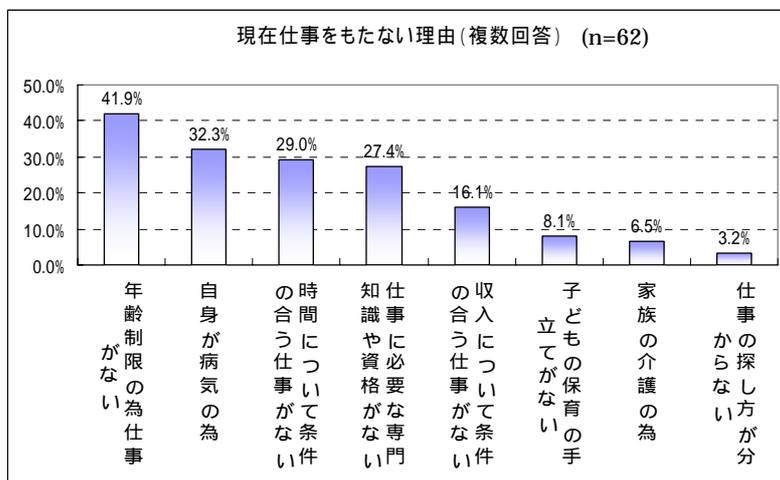


図4-8 就業していない理由

⑤仕事の動機

仕事を始める動機としては、「自分の問題が解決」**27.4%**、「必要な資格・知識の取得」**24.2%**、「病気の回復」**17.7%**、「子どもの健康回復」**12.9%**となっている。

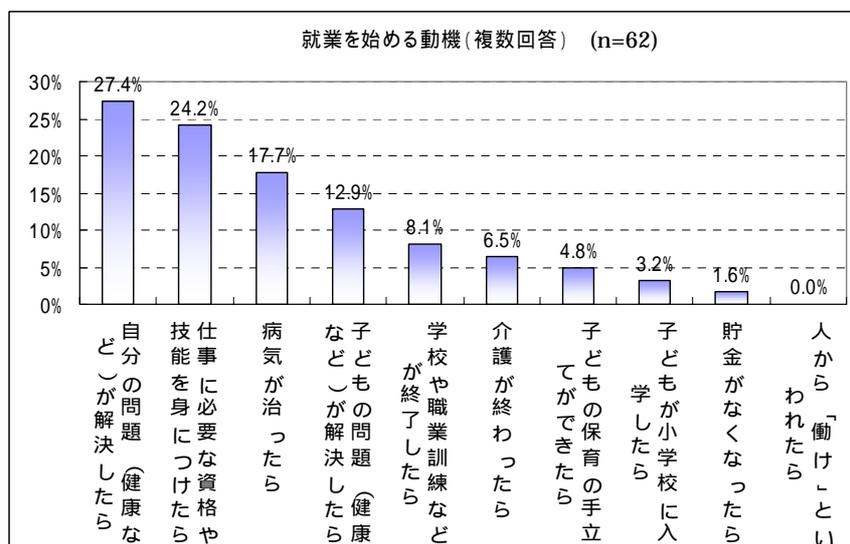


図4-9 就業を始める動機

(3) ひとり親世帯の母親の在宅就業への意識

ひとり親世帯の母親の在宅就業への意識は以下のとおりである。

①在宅就労への関心

ひとり親世帯の母親全体の76%が在宅就業に関心を持っている。

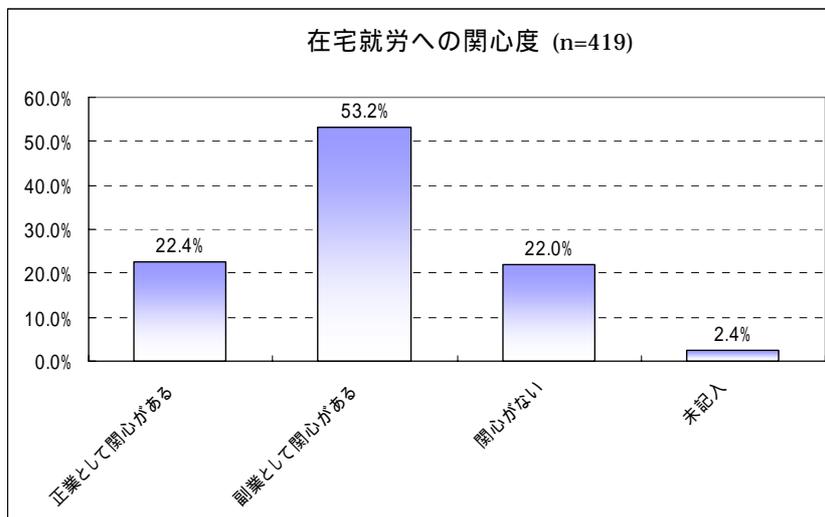


図4-10 在宅就労の関心度

長崎のアンケート(児童扶養手当受給者)においても、同様の結果が得られている。

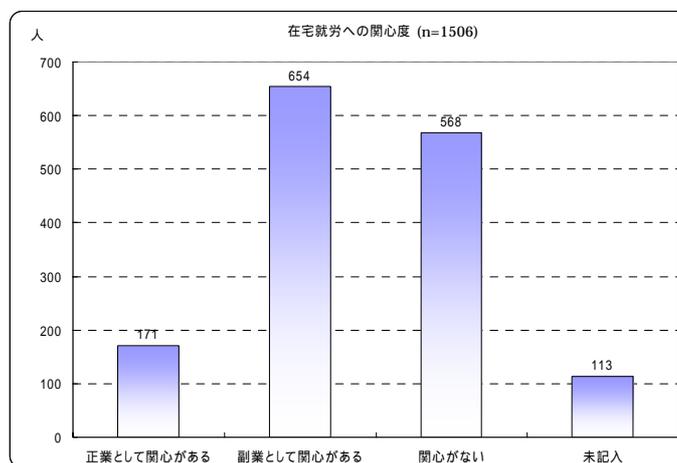


図4-10(補足) 在宅就労の関心度(長崎アンケート)

②在宅就労への関心度（収入別）

勤労収入別に在宅就業の関心度をみると、勤労収入が低い被験者ほど在宅就業に関心を示す割合が高くなる。特に年収 200 万円以下の層では、在宅就業を正業にと考える回答者が多かった。

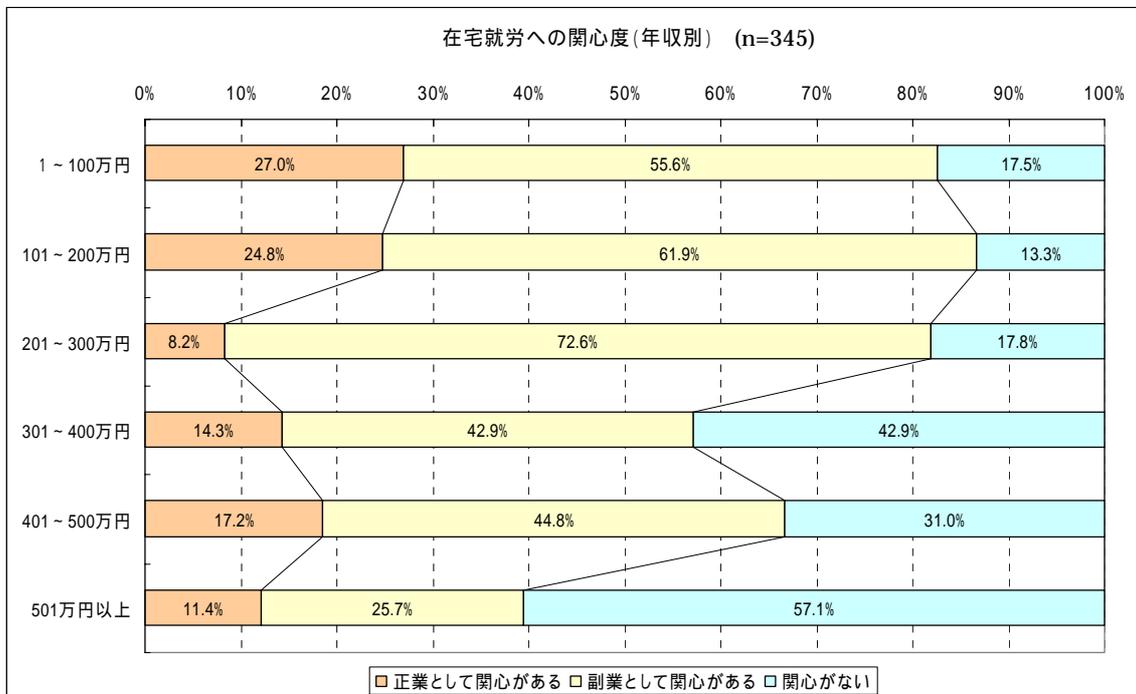


図 4 - 1 1 在宅就労の関心度（年収別）

③在宅就業について

在宅就業への関心の理由（複数回答）としては、「自分のペースでできる」（58.9%）、
「好きな時間にできる」（57.0%）との回答が多かった。

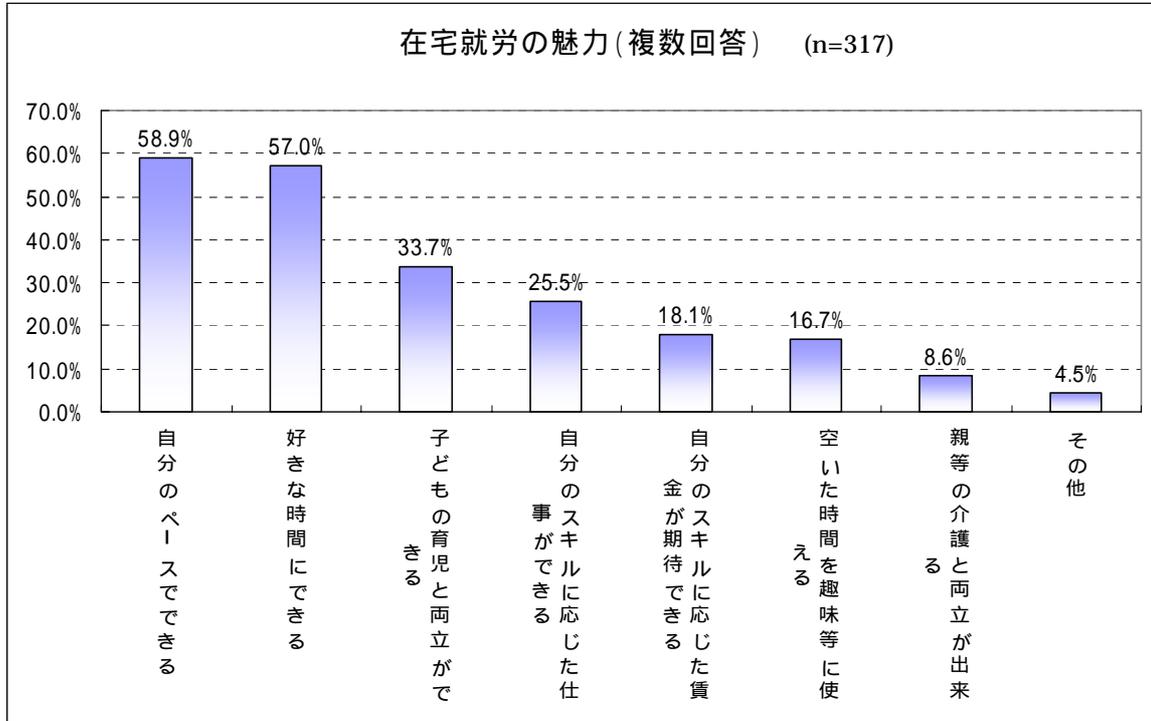


図 4 - 1 2 在宅就労の魅力

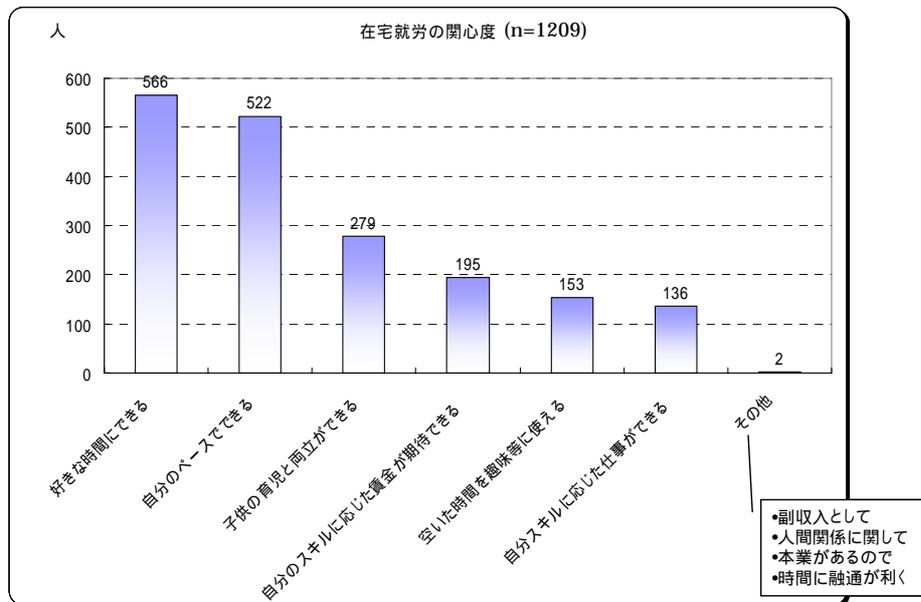


図 4 - 1 2 (補足) 在宅就労の魅力 (長崎アンケート)

一方で、在宅就業の不安な点（複数回答）としては、「仕事の安定的確保」（63.7%）、「単価が安い」（63.5%）、「契約、給与の支払い等に不安」（41.8%）、「時間管理の不安」（25.5%）となっていた。これらメリット・デメリットは長崎県内の実態調査でも同様の傾向を示しており、在宅就業特有の傾向であるといえる。

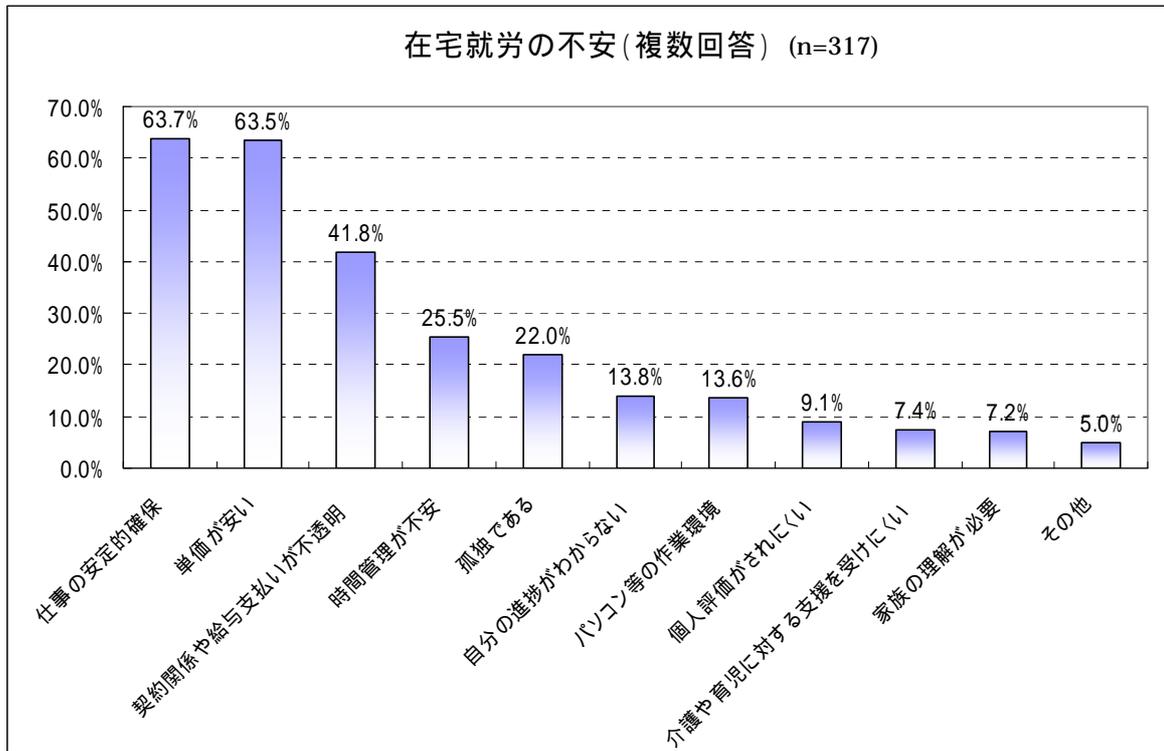


図 4 - 1 3 在宅就労の不安な点

(4) ひとり親世帯とパソコン

ひとり親世帯におけるパソコンの普及と意欲について調査した結果を以下に示す。

①インターネットの利用

本調査での被験者のうち **75.4%**がパソコンを所有しており、そのうち **62.5%**の被験者がインターネットに接続されたパソコンを所有していた。長崎県内の実態調査ではパソコン普及率 **35.4%**（うちインターネット接続 **18.4%**）であることから、両調査結果に乖離がみられた。

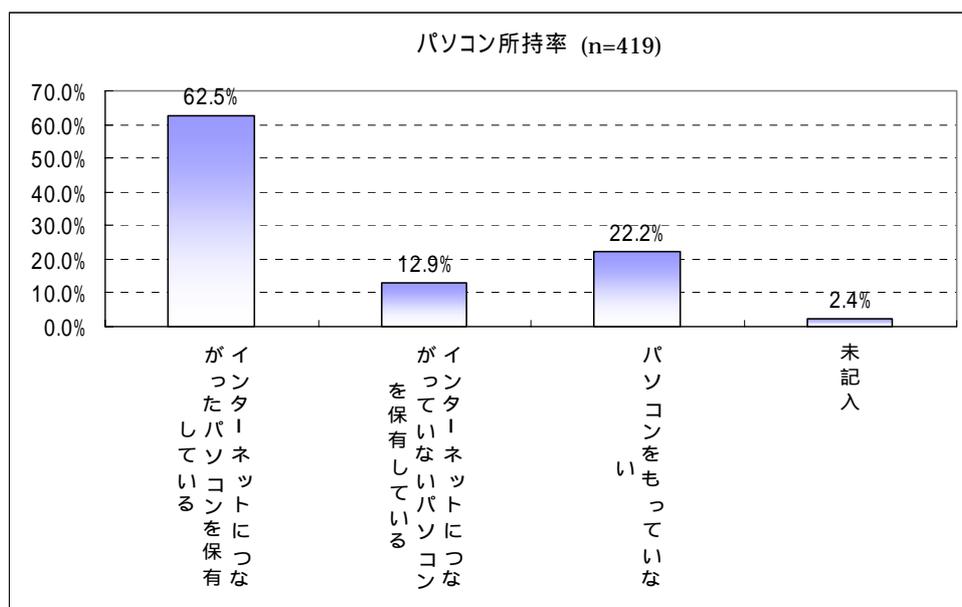


図4-14 パソコン所持率

②パソコン歴

ひとり親世帯の母親のパソコン歴は、3年から5年の回答がもっとも多かった（**32.9%**）。

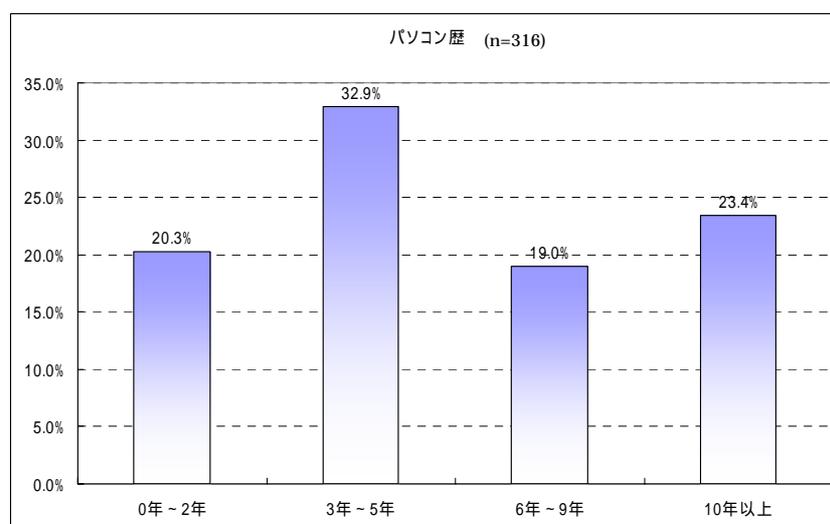


図4-15 パソコン歴

③パソコンの利用頻度

利用頻度は、ほぼ毎日利用しており、利用目的はインターネット、メール、文書作成の利用が多かった。

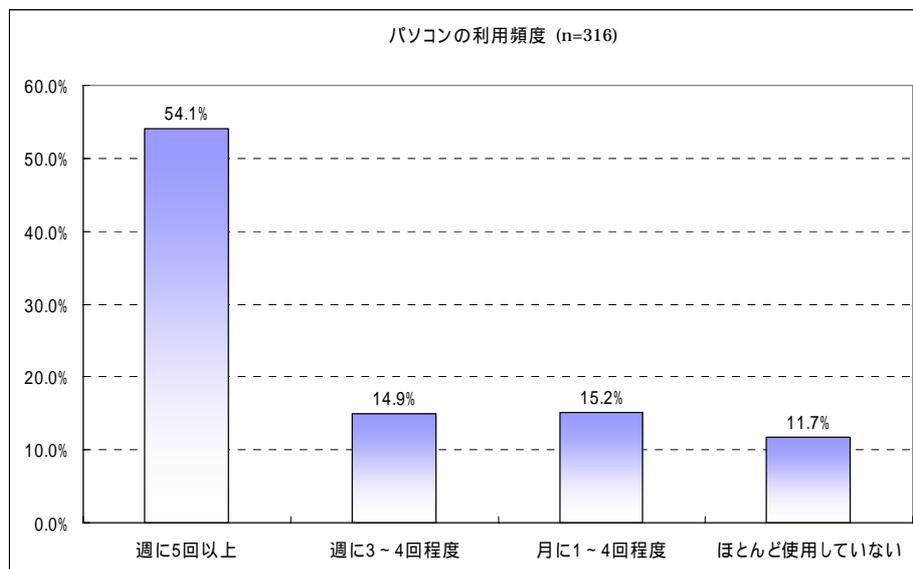


図4-16 パソコンの利用頻度

④パソコンの利用目的

パソコンの習得希望率は高く（82.6%）、理由としては仕事や就職・転職のためとした人が多かった。長崎県内での実態調査でも同様の結果が出ており、全国の母子世帯の母親にとってパソコンスキルの習得意欲は高いと考えられる。

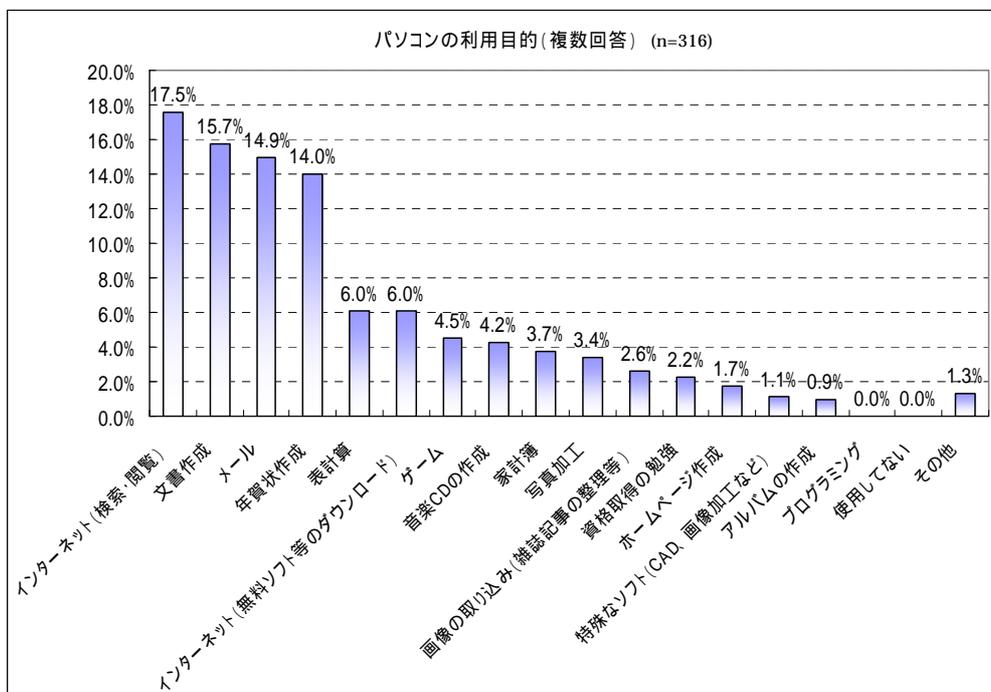


図4-17 パソコンの利用目的

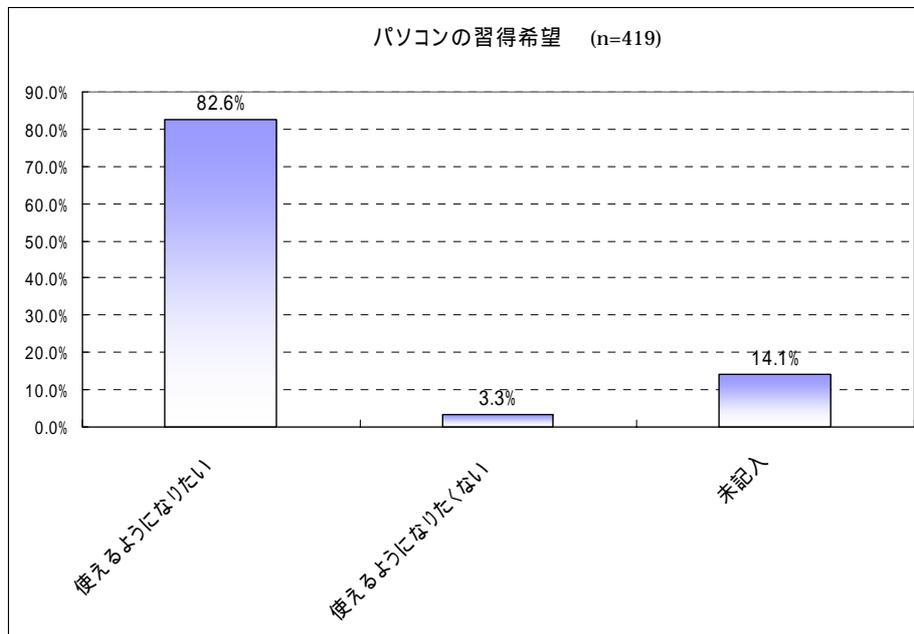


図4-18 パソコンの習得希望

(5) 就職・転職の重視点

単純集計

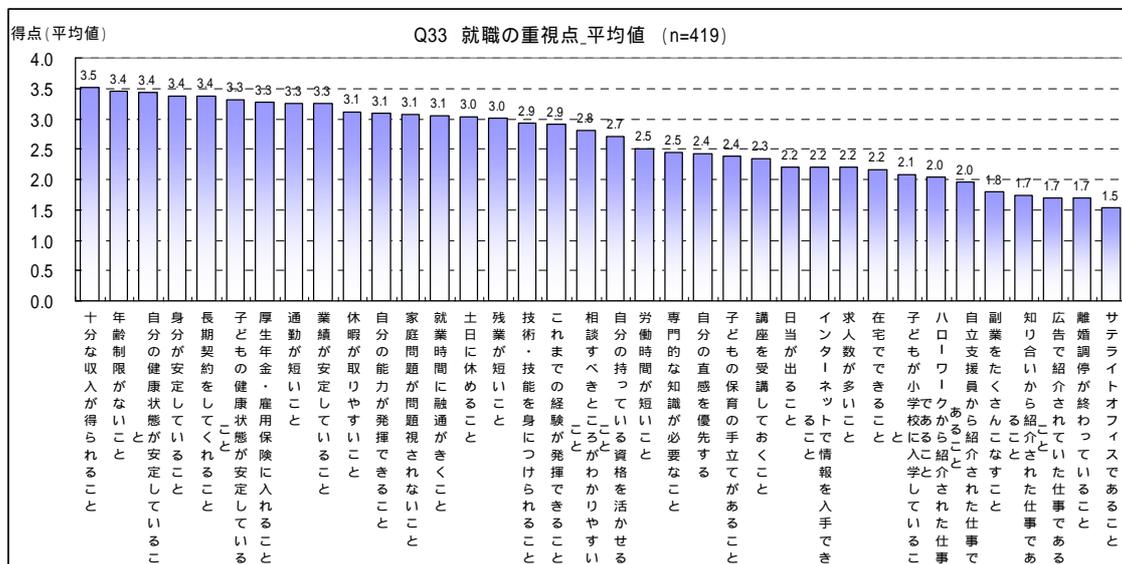


図4-19 就職・転職の重視点

(6) ひとり親世帯になって感じる点

単純集計

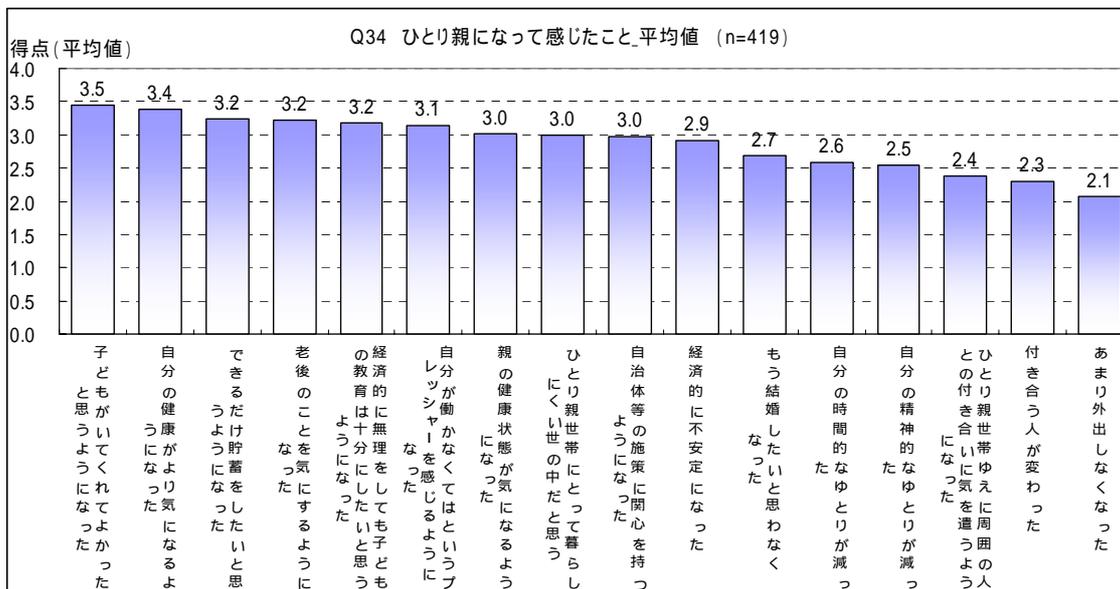


図4-20 ひとり親世帯になって感じる点

4. 5 回答者の意見

質問：Q35 行政、企業、社会一般への要望や意見（自由記入欄）について、意見を整理した。

行政、企業、社会一般への要望や意見（自由解答欄）については、母子世帯総数 476 名のうち有効回答数は 260 名（62.1%）であった。

年代（母子世帯）

現在の年齢	人数（名）	有効回答数（件）	有効回答率（%）
20 歳未満	0	0	—
20～29 歳	15	8	53.33
30～39 歳	118	86	72.88
40～49 歳	170	110	64.71
50～59 歳	80	45	56.25
60 歳以上	33	11	33.33
未記入	3	0	0.00
合計	419	260	62.05

具体的な内容をみると、全体的には「仕事について」が 72.3%、「子育て・教育について」39.2%、「健康について」26.2%、「社会の風潮」10.4%と続いている。

年代別にみると 20～30 代では、やはり「子育て・教育について」が 48.9%と高くなっていて、「病時保育」や「延長・夜間・休日保育」といった、子育て支援について、「児童扶養手当」や「医療費の助成」等、母子家庭への福祉サービスへの要望が多くなっている。

40 代では、やはり「子育て・教育について」が 41.8%と高くなっているが、中高生の子どもを抱え、「教育費がかかる」が高くなっており、そのため「児童扶養手当の条件緩和」「社会全体での子育て支援」についての要望が高くなっている。「仕事について」は「年齢制限で仕事が見つからない」が 28.2%と高くなっており、「安定した収入、労働条件の仕事につきたい」が高くなっている。

50 代以上では、「仕事について」が 85.7%と高く、「年齢制限で仕事が見つからない」が、「60 歳過ぎても働かないと生活できない」現状が伺える。「健康について」の悩みも 37.5%と高くなっていて、年齢的に「老後の不安」を抱えている。

Q.35意見・要望

回 答	20～30代	40代	50代以上	総数
子育て・教育について	48.9	41.8	17.9	39.2
もっと保育所を増やして欲しい	3.2	0.9	0.0	1.5
学童保育を増やして欲しい	0.0	1.8	0.0	0.8
学童保育の時間を長くして欲しい	2.1	1.8	0.0	1.5
病時保育の整備、充実	9.6	5.5	1.8	6.2
延長・夜間・休日保育の整備	11.7	3.6	0.0	5.8
企業内保育の整備	1.1	0.0	0.0	0.4
ベビーシッターサービスの整備（公共・安価）	7.4	2.7	0.0	3.8
保育料が高い、助成が欲しい	0.0	0.9	1.8	0.8
教育費がかかる、助成が欲しい	5.3	8.2	5.4	6.5
大学等に進学させたいが、難しい	1.1	0.0	0.0	0.4
自立できるよう資格の取れる学校に進学して欲しい	0.0	0.9	0.0	0.4
子どもだけで留守番させる不安	4.3	2.7	0.0	2.7
子どもとの時間が取れない	2.1	3.6	3.6	3.1
子どもとの時間を大切にしたい	2.1	0.9	1.8	1.5
子どもの行事があっても休めない、行事やPTAの会合等に時間を割かれる	3.2	3.6	0.0	2.7
思春期の子どもの子育て不安	0.0	1.8	0.0	0.8
軽度障害児への助成	1.1	0.0	0.0	0.4
児童扶養手当の条件緩和（所得制限・子どもの対象年齢・親との同居）	16.0	19.1	5.4	15.0
養育費の履行確保（義務化、DVケースへの配慮、国の取り立て制度、税控	1.1	2.7	1.8	1.9
社会全体での子育て支援・ひとり親でも子どもを育てやすく	7.4	15.5	7.1	10.8
全ての子どもに同等の権利を	1.1	0.9	0.0	0.8
仕事について	62.8	73.6	85.7	72.3
「小さい子どもがいる」を理由に雇用されない、解雇される、不安定な仕事にしか就け	10.6	7.3	3.6	7.7
資格や特技、経験がなくて仕事が見つからない、不安定な仕事にしか就け	3.2	4.5	0.0	3.1
病気や障害があり働けない、不安定な仕事にしか就けない	2.1	3.6	3.6	3.1
年齢制限で仕事が見つからない、不安定な仕事にしか就けない	8.5	28.2	33.9	22.3
資格取得・キャリアアップしたいが就労中は難しい（時間の確保、費用、気力の維持）	4.3	3.6	1.8	3.5
安定した収入、労働条件（社会保険、労働条件等）の仕事に就きたい	19.1	24.5	12.5	20.0
男女の賃金格差等、労働条件、雇用形態にジェンダーバイアスが掛かっている	0.0	9.1	8.9	5.8
在宅で仕事がしたい	5.3	4.5	5.4	5.0
在宅就労へ不安（技能、パソコンスキル、環境整備、労働条件、悪徳業者、他業種を希望	5.3	4.5	5.4	5.0
資格があっても不安定な仕事にしか就けない、雇用されない	0.0	3.6	7.1	3.1
転職したいが年齢が上がるにつれ仕事ができなくなる	0.0	0.0	0.0	0.0
いつまで続けられるか不安（体力、リストラ）	4.3	10.0	8.9	7.7
自分が病気でも仕事を休めない	2.1	0.9	1.8	1.5
休むと収入が減る	2.1	1.8	1.8	1.9
育児・看護休暇の整備	1.1	0.9	1.8	1.2
育児休業での差別的取り扱い	1.1	0.0	0.0	0.4
職場の人間関係で悩んでいる	1.1	0.9	3.6	1.5
60歳過ぎても働かないと生活できない	0.0	0.9	17.9	4.2
職業訓練等の母子家庭への環境整備（保育、費用、日程、期間等）	14.9	3.6	8.9	8.8
職業訓練の業種のジェンダー・バイアスを失くして欲しい（大学院等）	0.0	0.9	0.0	0.4
行政等の就労支援の実効性	9.6	6.4	8.9	8.1
行政で母子家庭の母を雇用して欲しい	4.3	2.7	0.0	2.7
行政の就労支援の地域格差をなくしてほしい	3.2	0.9	1.8	1.9
事業主への助成（特に中小零細企業への）	1.1	0.0	0.0	0.4
ワークシェアリング	2.1	0.0	3.6	1.5
キャリアカウンセリングの整備	1.1	0.9	1.8	1.2
あごらの教育訓練、就労支援への不満（訓練やパソコンの経費、仕事が無い等）	0.0	4.5	1.8	2.3

住宅について	6.4	2.7	1.8	3.8
公営住宅の母子家庭への配慮（優先枠、入居基準、家賃等）	5.3	1.8	1.8	3.1
家賃が高く、家計を圧迫している	1.1	0.9	0.0	0.8
学童保育等のある地域に引っ越したいが費用が掛かる（引越し代、敷金等）	1.1	0.0	0.0	0.4
老後の共生住宅	0.0	0.9	0.0	0.4
健康について	21.3	24.5	37.5	26.2
体調を崩したり、病気（心身）を抱えている	1.1	1.8	0.0	1.2
疲れている	3.2	0.0	7.1	2.7
経済的、精神的、時間的余裕がない	4.3	2.7	7.1	4.2
将来への不安（健康、体力、気力、いつまで働き続けられるか、生活）	5.3	10.0	8.9	8.1
老後の不安（貯金、年金）	0.0	10.0	21.4	8.8
ストレスや悩みで体調を崩しそう、病気になった	2.1	1.8	10.7	3.8
精神的ケア・支援が欲しい	2.1	2.7	0.0	1.9
医療費の条件緩和	8.5	4.5	1.8	5.4
その他社会制度、支援施策について	8.5	11.8	8.9	10.0
母子家庭への税制への配慮	5.3	2.7	1.8	3.5
生活保護制度の充実	1.1	0.0	1.8	0.8
行政機関の時間外や休日窓口の整備	0.0	1.8	0.0	0.8
手続きの簡素化	1.1	0.9	0.0	0.4
行政窓口の対応の改善	0.0	0.9	1.8	1.2
老後の生活支援が欲しい	0.0	1.8	3.6	1.5
年金分割	0.0	0.9	0.0	0.4
景気回復策	1.1	0.0	0.0	0.4
ひとり親家庭支援策等の啓蒙、広報	1.1	0.9	0.0	0.8
政治への不満	3.2	4.5	3.6	3.8
社会の風潮について	16.0	8.2	5.4	10.4
母子家庭への偏見、差別	10.6	7.3	0.0	6.9
セクシャル・ハラスメント	0.0	1.8	0.0	0.8
男性社会である、男女の役割分担	3.2	0.0	1.8	1.5
女性が働きながら子どもを育てられる社会に	5.3	0.0	1.8	2.3
ジェンダー教育	2.1	0.9	0.0	1.2
離婚後の父親の無責任さを容認する社会への不満	1.1	0.9	1.8	1.2
その他	2.1	3.6	8.9	4.2
特になし	2.1	1.8	1.8	1.9
回答したくない	0.0	0.0	1.8	0.4
総数	100.0	100.0	100.0	100.0

以下に、具体的な意見や要望の一部を、年代別に記載する。

20代

<p>母子家庭という理由（病気の時子どもはどうするのか?!）などで採用してもらえないことが多い。今の職場以外のところではそのことが理由で落とされてしまった。病児保育の充実。職場の人達、両親、妹、保育園の先生、ママ友、昔からの友達、近所の人、ひとり親ヘルパーの人に十分に助けてもらえていて感謝しています。</p>
<p>一人親となり、保育園に入園希望をしてからもうすでに一年程たちます。今現在も子供達を保育園に入れられない厳しい状況と、私の様な一人親が増えている現実を間のあたりにした今、企業で保育所を完備して頂ければ、働きやすいと思います。一人親の制度も条件を緩くする、増やす等、一人親でも子供を育てやすくできる様にしてほしい。</p>
<p>仕事が夜なので、今は親がみてくれるが、できれば自宅で子供の面どうをみてくれるシッターがほしい。でも高すぎて、たのめない。外国のように日本もベビーシッターを安くたくさんふやしてほしい。</p>
<p>保育所を多くおいてほしい。残業時の子供の保育ができない？</p>
<p>消費税及び保育料をあげないでほしい。必ず働いた誰でも税金が取られる制度をなくしてほしい。政治は、一般市民からお金を取りすぎだ。かわりに政治がお金を払えと言いたい。</p>
<p>来年1月から3ヶ月間、職業訓練でパソコンの習得をすることになっています。その後、パソコンを活かした仕事につきたいと思っていますが、同時に家でもできる仕事があったらいいなとよく思います。身のまわりも、とっても大変な人がたくさんいて、みんな、少しずつ、まわしながら仕事が(時間の自由って大事だな、やっぱり)できて、生活できるお金が得られて、楽しく過ごせたらいいのになと思っています。とりあえずは、まず自分が一歩ふみ出さないと・・・っと思っていますが・・・。</p>
<p>子供が居ると言うだけで 状況が安定（親からの協力があっても）していても電話だけで面接すら出来ない、してくれない。</p>

30代

<p>もっと保育所が必要。そして子供が病気の時のサポートをできる場所を増やしてほしい</p>
<p>翻訳の仕事が入ってきても難しくとても時間がかかって余裕がなくなってしまうのが悩みです。</p>
<p>祝日の仕事がある時に保育日が休みの時、とても困る。 子供が病気になった時、預ける所がないのでやむをえず仕事を休んでしまう事。</p>
<p>子供は市の保育園に通っているのだが、集団生活でやはり、色々な病気にかかり、仕事を休まなければいけない事が多々ある。私の両親は離婚し、お互い再婚して近くに住んでいないので、子供や自分が病気になった時、職場にも迷惑をかけている。札母連の会員になり、派遣で子供の面倒を見て頂きとても楽かった。札母連のサービスを行政でも、もっとして欲しいと願う。</p>
<p>子どもが小さい為、断られることが多い。プラスして年令や資格がないことも不利らしいです。一生懸命働きたいと思っているのに、面接に行ってもすぐおとされる事(何度も泣きました)、あと、「結婚すれば楽だよ」みたいな事も言われると、ムッとしました。</p>
<p>求人面接で問合せのtelした時点でほとんどが、未婚者か聞く そして子供がいるとその時点でダメ。就職しても無知な人間が多く「母子手当もらってるから楽でしょう?」とよく母子手当と生活保護を一緒にしたように言われる。母子連で就職支援してるとはいえ生活が出来るだけの支援は全くされていない。そういう施設でもっと母子家庭の方々に就職をしてもらえばいいのと思う。在宅の仕事もうさんくさいものがありすぎるのでやりたくてもひいてします。高いPCを売りつけたり等悪徳が多すぎる。</p>
<p>資格をとりたいので母子が取得しやすい講座環境がほしいです</p>
<p>毎年人事院勧告によって、給料やボーナスがカットされ、支払う税金があがり、収入があることで、母子家庭の援助がもらえません。不安はたくさんありますが、一番は自分の健康のことです。毎年、年をとるごとに、何歳まで働きつづけられるのか不安です。</p>
<p>母子家庭をバカにしないでほしい。女の教育、生き方を小学校の頃から教えてほしい。</p>
<p>・サポータ体制をとってくれるのはうれしいが、仕事の紹介までしてくれる施設等が近くの住所でなく大阪市が中心なので、もっと府全体にまで行き届くようにしてほしい。</p>
<p>ライフワークとして、自分の力を、とことんためして、資格なども取って全力でがんばろうと思っていて、現に専門学校通いながら、週5日8時間働いている。しかし、思うように働けず、資格学校へ行くのにも、高額な授業料をとられる。やる気があるのに、いまいち、認められず正社員でないで、一年後はどうしているかもわからない不安定な状況。社会の理不尽さが身にしみる。今はまだ、がんばれるが、この先、年をとると共に自分の気力がなくなってしまうのではないかという不安がある。</p>
<p>子どもの軽度発達障がい(PDD)に対して、何も助成がないので 生活保護をすすめられている。</p>
<p>今の仕事も他の仕事についても、企業の育児に対する配慮は社会全体で子育てに支援をしてほしい。企業がそれぞれ理解を示す、もしくは学童保育の延長や土、日の問題など行政がもう少し配慮をしてもらえると助かる。今は児童会館も学童保育もない所に住んでおり、引越すにも費用面で苦しいが、就学したらどうしたらよいか悩んでいる。</p>
<p>ハローワークなどで見るひとり親のための資格取得のための学校の時間や場所、期間のゆうづうがきくようにしてほしい。母子の手当てを安定して受けれるように予算を増やして欲しいと思ったりしますが、頼らずにやっていけるようにしなくてはいけないのかなとも感じてしまい</p>

<p>ます。けど現実、厳しく思う時もあります。</p>
<p>残業と有給休暇（子供の参観日や音楽会）の点が気になります。正社員でも、周りの兼ね合いでなかなか休めないことが多い。</p>
<p>今、勤めている会社は、給料に皆勤手当（¥7,540）があるのですが、有給休暇をとるとそれが¥3,000になり、給料が減ってしまいます。それが理由かわからないけれど、休む人が少なく、休みをとりにくい会社です。環境は働きやすい環境なのですが・・・</p>
<p>子供が病気になった時、両親が他界している為、預かってくれる人がいない為、非常に困っています。安心して働く為に例えば看護師幼稚園などにいてくれればよいと思います。</p>
<p>現在の、給料は月15万（手取り）で、貯蓄もできず、将来のことを考えると+10万円以上の職につきたい。より多くの給料をもらえる職業という福祉等の専門職もしくは看護の専門職だと思うが、専門学校へ行かないと無理。行くお金も時間もないし、かといってこのままでは行れない。長い眼で見ると30年ほど、安定した収入の得られる仕事に早くつきたいと思う。</p>
<p>行政は手当を減らす事ばかり言っているが、就職斡旋をもっと大々的にやって欲しい。例えば、母子〇〇会の事務員とか、相談員とか、母子家庭になった事無い人に、母子家庭の気持ちかわかるのか？と言いたい。そのような枠に母子家庭の人を優先採用するとか、安定した公務員に枠をもうけるとか、手当を出している家庭の人が収入を得られれば、結果的に手当が減っていいと思うのですが・・・??</p>
<p>アルバイトなので、年末年始の休暇などで勤務日数が少なくなってしまう、つまり収入が減ってしまうことが非常に困る。</p>
<p>公営住宅の入居基準をもっと下げるべきだと思います。基準の月収20万（所得）は、生活が楽な層（例えば専業主婦とサラリーマンと子ども世帯）も入居できてしまい、ひとり親の入居できる確立が低いまま放置されている状態になります。また、所得が基準を上まわって上がったら即退去させるべきだと思います。</p>
<p>就職難でパートとしてしか働けないことが多く、収入が少なく子供の進路、貯蓄など、全くできる余裕がない。前の職場では、6時間以上働くなという感じでタイムカードを6時間になる前におして仕事をした。生活がかかっている、納得いかになくやめた事もある</p>
<p>資格が何もないので困る。そのために何とかしたいが病気のため今は何をしても良いか悩むし、お金もかかると思うと資格をとるのに気がすまなくなる。近くに地区センターがあるが、そういう家の近くで資格が気軽に安い料金で取れるといいと思う。小学校や中学校の空き教室など使って土日などに資格をとるための講習会などやってくれたら体の調子が悪くても近いので通いやすい。</p>
<p>今住んでいる地域が、不景気の風をそのまま受けているような土地柄のため、求人が非常に少ない。市役所等の就業時間や休暇の面で、融通のきく仕事は、一人親家庭の大人たちにとっては、とても魅力的だと思う。そのような仕事で嘱託職員として求人があればいいなどは、いつも思っています。</p>
<p>親と同居していると、児童扶養手当が支給停止になり、それ以外の医療証なども全て使えない。確かに恵まれているかもしれないが、もう少し何とかしてもらいたい。</p>
<p>出産前は、営業してましたが、出産後 営業職をおろされ、しかも内勤に・・・前の所属部長には、育児休業を終了し入社した日に全部、仕事を取られました。ひとり親以前に、育児休業などのあらしの中には不利益な事（経済、精神的等）してはいけないってあるのに・・・その為、体</p>

調がくずれました（ストレスによる）。
<p>児扶手が収入オーバーで停止になった（何も役所は言ってくれなかった。通知のみ）自分としては今の収入で生活ができる（自立してる!?)とは思えない。学童の活動も思ったより時間がさかれる。</p> <p>将来 NPO 法人でグループホームやデイサービスをやりたいのでその準備中。→資格取得（ケアマネ）や資金援助、運営の仕方など勉強会やサポートがほしい。 日々疲れた!!</p>
<p>就労に時間を取られすぎているので子どもと接する時間があまりにも短いのがさびしい。</p> <p>（土・日・祝も出勤。休みにくい）週1の休みなので体の疲れが取れにくい。雇用保険・社会保険でないので不安。（個人経営者なので給料について納得できないことがあっても辞めること覚悟で聞かないといけないので怖い。相談できない）</p> <p>不安・不満はあります。でも疲れてるからかな・・・?とも思います。</p>
<p>社会一般的にひとり親家庭、(母子家庭)はつくづく暮らしにくい社会だと思います。子どもというのは母親、父親両方に扶養義務があるのではないのでしょうか。それなのに、父親は、離婚して、親権を渡してしまえばおしまい。払わなくてもいい養育費なんて、よほどの仕事をしている人でなければ払わないでしょう。母親は自分自身をけずってでも、子育てをします。でも父親は自分の給料はすべて自分のために使えます。社会全体が浪費社会の今、子供をつくって育てることが女の身に、精神的、経済的にもものすごく、重大な負担となっていると思います。父親には子供を扶養する義務があると思います。養育費を払うことが義務になると思います。今まではその分が、児童扶養手当という形で、国から給付になっていました。しかし、それが減額されるという今、なぜ、養育費を義務化しないのでしょうか。未成年の子供をもつ親が離婚する際には家庭裁判所の許可が必要ということにすればいいのです。しかし、すべての父親は、子供の養育義務があるのです。母親ばかりに負担をおしつけないで下さい。</p>
<p>今、一番悩んでいることは、学校の PTA 役員についてです。一家の大国柱として働かなくては、いけない時期で、仕事の安定が一番の願いなのですが、「仕事をしているのは、断わる理由にならない」ということで、今まで一度もやってない私が、次年度の役員にならざるを得ない状況です。会合のために仕事を休むのは、勤務先の方にも迷惑をかけてしまうので心苦しいのです。やりたくないわけでは、ないことを、理解していただきたいのですが、そのために、わざわざみんなの前で「ひとり親です。」と言わなきゃいけないのか……。役員会合のたびに仕事を休むことは、正社員ではないので、そのために立場が悪くなり職を失うことが怖いのです。子育てと、仕事の両立をうまくできるような勤務形態だったらいいなと思います。</p>
<p>市職員試験に5度挑戦し、3年前に受かり、保育園用ム員採用され働いています。2年間の調理経験で調理師を取り、以前から持っている栄養士としていずれ働きたいという夢があります。職場での立場は最下位、臨時、パートパート保母さんから見下され仕事をしていますが、生活の為やっと得られた安定を大切に真面目に働いています。</p> <p>しかし収入が安定してきた為、児扶手当打ち切り、医療費補助ゼロ、家賃が7倍（収入で変動する県営住宅です）になり、パート勤め時代にできていた貯蓄は公ム員になりほとんどできず、収入金額の枠が、少し増えただけだと思っていたのですが、限度額の一番下に足を踏み入れた収入で、全ての手当てが打ち切りになったのです。</p> <p>子供のために働く姿を見せられることが、とても大切だと思うので今の職に就き続けていますが、人によってはそれならばパートを続ける、又は、生活保護でも良いと生き方考え方が別の方向に進む人が増えるはずだと思いました。</p>

<p>私は慰謝料、養育費が一切ない状態で1人の子を育てるのに、難病の再発がない様健康管理もしていますが、先々、本当に不安です。公員なのだから・・・と白い目で見られますが、働き続けさせてもらえるか今後は本当にわからないと感じています。</p>
<p>通勤時間が長い為、子供の帰宅後が心配。</p>
<p>離婚からすでに5年。なかなか経済的自立ができずに生活に不安を感じる。将来を考えると精神的に追い詰められた気持ちになるので、なるべく毎日の生活のことだけを考えるように努めている。行政が努めるべき就労支援は、もっと具体的で実現できる内容でなければ全く意味がないと思う。</p>
<p>男性中心の社会をつくづく思いしりました。妊娠、出産の度にキャリアを中断した女性に対して社会、厳しいハードルがあるのを感じます。それが原因で長く家にしぼりつけられているとも思います。全ての悩みは病につうじる。そんなことにも気づきました。</p>
<p>ブランクの期間が長く、外で働くという行為そのものに臆病になっている。結婚生活の中で経済的自立の基盤が全て無くなってしまった。自分が希んだ訳ではないが男女の役割分担の結果、女性はこれ程までに不利になるとは・・・。</p>
<p>できるだけ子どもとともに生活したいので在宅が第一条件。収入は少なくとも、子どもの心の貯金を大切にしたい。安定した収入の暮らしよりも安定した精神状態を保てるよう暮らしたい。</p>
<p>実家と少し距離があり、危機期が大変です。次男今年小学生に上がり落ち着くと思いきや、長男が病気ばかりをし困っています。サポートセンターに依頼できる程収入も多くない。残業がある中、2人を留守番させています。収入の為次男入学直後に転職したもの、遠距離やストレスで耳の病気になりさらに転職次にもなじめず(私的には)悩んでいます。</p>
<p>勤務時間が長く不規則であるため、生活が不安定。子の生活も不規則。勤務時間が守られる仕事があるといいと思います。</p>
<p>子供を保育施設に預けて働いている家庭では、必ず経験する事ですが、医療保育を行う場所が無いのが非常に就業環境を厳しいものにしてしまいます。2,3日で治る風邪等ならともかく、絶対に外出させてはいけない感染症などケアの期間が長いものは、家政婦サービスなどを行政援助で使えたら少しは助かると思います。</p>
<p>職安も相談員も生活保護も、必要な時にはまったく役に立ちませんでした。</p>
<p>他県への移住を希望していますが、現在の少ない収入もなくなることになるので、移住先ですぐに就職できるか不安で実行できずにいます。今年6月には、ひとり親就業センターが開設されましたが、会報では221人相談中4人就職(ハワークでも相談していた方4人)とのことでした。即戦力を求められているので、事務系を希望される方はパソコンの習得を・・・という内容でした。厳しい現実です。住みたい所に住むことも、実行できず、年齢はどんどん上がって生きます。子供と2人で、平和に暮らせたら。</p>
<p>泊まりの仕事の時、子供の預け先を探すのに気を使って大変。ホームヘルパー派遣してくれる市の無料制度がほしい。</p>
<p>子供が病気の時、一番困る。人手不足で、休みにくい。もっと余裕ある人員確保をして欲しい。子持ちでもキャリアアップや、学問を学べる環境を整えてほしい。(諸外国では、大学や院に託児所があったり、職場にも保育所が付いているところが多い。)</p>
<p>養護学校の講師をしながら、教員採用試験に挑戦しています。会社より給料が高くやりがいのある仕事なので、ずっと続けたいと思っています。ただ、どんなに現場での仕事の能力(私が</p>

<p>こうだとは言いませんが、少なくとも意欲はあります)が高くて、採用試験に受からないと正式の教員にはなれないことに少し不満を感じています</p>
<p>子供が保育所を利用するなど、開所が8:00から閉所が6:00まで送り、迎えの時間を入れての勤務時間となるので、残業はムリ。勤務時間の制限が出来るため、正社員として働く事はムリの様で多少勤務時間が短いパートでの仕事しか出来ない。収入も少なく、不安定な身分で保険もつかず、すごく不安でたまらない気持は常にある。また、日曜日、祝日に仕事があり、収入につながるはずなのですが、子供を預ける保育所が休みで仕事で出られず収入にならない。保育をたのむと、時間での単価が高すぎて、パートに出てもそれ以上の保育料になってしまうので大変困る。なんとかして頂きたいと強く願います。お願いします!!</p>
<p>いまの勤務先で働ける時間数が決まっておき、長い時間働けないため収入が少ない。シフト制なので、なかなかかけもちもできない。インターネットでの仕事もしているが、収入より赤字になっている。もう少し母子家庭でも働ける職場がふえたらいいと思う。</p>
<p>少子化に拍車をかける措置が非常に多いと思う。行政や文化に対する働きかけが必要と思いつながら実際アンケートに協力するまでとなっている、==ゆとりがないと思います。</p>
<p>日本では、子供を持つ女性がフルタイムで働くことが非常に難しいです。精神面でも制度面でもバックアップしてくれるものが必要であると感じます。</p>
<p>行政には中小企業に生き残れるように、いろいろな配慮をしてほしいです。彼らは今の自分たちを維持していく事だけで精一杯です。新人を育てる余裕などどこにもなく、上向きなど期待するとがっかりすることばかりで。まず、企業がゆとりが出れば、採用枠がいくらかずつ広がって、失業者が少しずつ減っていく。街がいくらかずつ活性化していく。お金が世の中を廻り始める。というのは経済も政治も流通もよくわかっていない人間の発言かと思いますが、そんな感じになっていくことを祈りたいと思います。</p>
<p>幸い、仕事は続けられているが、ひとり親であるなしに関わらず女性は 子供を持って 働き続けることが難しい。必ずと言っていいほど 色メガネで 見られる。「こどもがいるのにハンデを感じさせずエライネ」などと言われるのは、心外に思う。仕事柄、能率の悪い同僚に合わせての残業も多いため、育児時間を確保すべく 在宅での仕事を模索中。(翻訳等)</p>
<p>最近、精神的にも体力的にも疲れきっています。仕事を頑張って、収入をもっと増やしたい、がんばったらがんばったなりに認められたいとも思うのですが、そうすると、娘のための時間がなくなりその上、仕事上のストレスも娘にぶつけてしまうことがあります。仕事もがんばって家庭もがんばってへとへとですが、会社組織にいと、手をぬくことは許されないため、この状況は続くと思います。このままでは自身の健康も心配になってきます。</p>
<p>今は派遣社員 仕事内容、環境などは満足しているが、派遣のままである。20代後半から仕事はずっと派遣でしか選べないのが現実。ましてや40才近くなり子どもがいて時間の制限もあると今さら社員はほとんど希望ゼロに近いです。仕事する気も能力もバリバリあるのに現実には伴わないのがつらいです。</p>
<p>離婚したとたん家さがし、職さがしと保育所さがしとにかく大変の連続だった。小・中学校は補助があるが、最低の市民税を払ってれば月30,000円近くの授業料がかかってくる 昼も夜も土・日も働いても生活はきびしい。市営住宅も府営もあたらない。保育士もヘルパーも皆さんに喜んでいただける仕事につけてありがたいが、正社員の人との賃金差はすごく、本当にこれだけ働いてと思うと悲しくなります。学習塾にも行かせてあげられない。本当にとっても不安な日々を続けてかれこれ数年になる。娘は(高2) 大学に行きたいようだがあーそれならもっと</p>

<p>夜働くか水商売もかくごしないといけないかまで考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと一般企業か福祉業界に母子家庭を雇用したら補助をだしてほしい。 ・こどもが病気になったら有給の加算をつけてほしい ・こどもの病気が続いたとき「これだから母子家庭は・・・やめてもいいよ」と差別発言はしないでほしい。どこの家庭でもこどもは病気をしながら大きくなることを理解してほしい。
<p>勤務先への要望は多々あるが、行政に関する要望は市営住宅に優先的に(小学校入学前)いれてほしい。転校させたくないから</p>
<p>現在の仕事ではパートなので収入が十分でない。今の職場で常勤になるには、毎日夜8:00頃仕事が終わるため、小学生の子供ひとりおいておくわけにもいかず、仕方なくパート勤務せざるを得ない。できれば、パートの終わった後の空いた時間を在宅で仕事できればと思うが、パソコンを使う仕事ができればと思うけれど、トラブル(機械の)対応できる知識がない、という不安が大きいし、たぶん、パートの時給より格段に安いと思うので、パソコン環境をととのえてまで、やった方がいいのか迷う。</p>
<p>在宅ワークの仕事をたくさん下さい。子供の高校入学の為必要です。</p>
<p>母子家庭が自立するには、正社員で働き、ある程度の収入が必要ですが、不景気で、難しいです。児童扶養手当も大切だとは思いますが、手当てよりも安定した職を得て、自立がしたいです。行政にも色々なサポートをしてほしい。新聞の予算案には、母子家庭の自立支援の予算が設けられていましたが、本当にそれが活かされるのか不安です。とにかく安定した職につきたいです。</p>
<p>正社員の仕事を見つけないが、年齢制限が気になる。今の会社は大企業だが、身分はパート。小さな会社でも正社員のほうが収入が多いかなと思うがフルタイムで働いていると、新たな仕事を見つける時間もエネルギーもない。キャリアカウンセリングを受けたりして、丁寧な「仕事さがし」のケアが受けたい。また、在宅での仕事は、副職になっても本職としてそれで生活していくのは難しいと思う。それだけでなく中高年の女性の仕事は、パートや派遣やバイトなど身分が不安定で安い労働力として使われているのが現実。雇用保険や、労災、社保、厚生年金などあればまだいい方かもしれないがその辺のことも視野に入れてほしい。</p>
<p>弱いものいじめのような政策はやめてほしい。親は苦しくても良いけど 子どもが苦しむことになるので、もっと、子供の生活を豊かなものにしてやってほしい。子ども全てに同等の権利を・・・</p>
<p>母子医療が親は入院以外は負担しなくてはいけないのは、見直してもらいたいと思います。扶養手当も、減らすばかりでなく、明治時代の法律をもう一度見直してもらいたい。少子化にはどめをかけたのなら 子育てができやすい状況を作って欲しい</p>
<p>祝日、夜間労働等で、時間外保育が必要な場合、高い保育代を支払っても収入から何の加味も無いので、かけもちして一生懸命働くのも馬鹿々しくなったので、止めました。この辺もう1度考えて頂ければ、と思います。</p>
<p>正社員になって1年半、以前のパート勤めより安定しました。国などから手当も受けられて助かってきましたが、制限が引き下げられて不安です。今後の手当て CUT や廃止の方向へもっていかれると、以前より厳しくなりそうですから。今の就職先は、小さな会社ですが、メンタル面を健康診断同様行政からサポートしてもらいたいと思います。また、子育てが小さいころは、週3~4日時短でも正社員として働けるように(収入は下がっても) できれば両立できやすく、良いと思います。</p>
<p>仕事場の仕事の内容が肉体的、精神的にキツイです。仕事場に通う通勤時間が朝(早朝 6:50' 出</p>

<p>発)、夜 19:00 帰宅です。身内にたよれる人もいません。まったく 1 人で子供育てています。養育費もずっと払ってもらってません。裁判もしてきちんとしてますが、ほっとかれています。弁護士さんにもいろいろしていただけてますが、けっきょく相手は国外へ逃亡してしまいました。なかなか友人もできにくいです。看護婦だから、恵まれている人と最初から出会う人に思われてしまいます。こどくだしつらいです。子供が小学校へ入学する目前になりましたが手ばなしでよるこべない気持です。不安ばかりつづります。苦しいです。</p>
<p>まず、離婚しているということだけで、面接などで、色めがねで見られ、それだけで、ダメなパターンが多かった。就職を紹介してくれるはずの、ハローワークの人からも「あんたなんか仕事はない」と言われたことも…。今の仕事は、期限がかぎられている仕事なので、期限が切れた後の仕事が不安。年令的にも、仕事探しがむずかしい。</p>
<p>ステップアップを考えての資格取得などでもう少し支援が受けられたら良いのではないかと思う。</p>
<p>収入が少ないので、スキルアップしたいが教育費のゆとりがない</p>
<p>やりたい職業があるけど、大学を卒業して資格を取得しないと行かない。でも、現在の状況では、とても大学（通信）の勉強はできない。生活していく事で、精一杯です。時間も、お金も。母子家庭のお友達が、何人かいますが。</p>
<p>40歳過ぎたら就職先が見つからないだろうと思うと、悪条件のこの小さな会社にしがみついているしかないのです。ボーナスはないし、休日も少ないし、小学生の子どもは休みなのに、出勤ということが多いため、子どもが1日何をしているのか心配です。ゆとり教育のせいで学力低下が心配で、公立学校の学習だけでは子どもの将来が不安。塾は高いし送り迎えができないので、行かせられないし、結局通信教育をやっています。何とか大学には行かせてあげたいけど、国公立以外経済的に無理なので、後は子どもの努力次第。ゆとり教育なんて貧乏人は大学行くなってこと？ 公立の小中高では公立の大学なんて行かれない。</p>

40代

<p>失職した時の不安が大きくなった。専門職や安定した職さがしのために資格や技能をつけたくても、就職中はそんな余裕がなく、もし失業したら生計に困ると考えると何がなんでも現状維持しかない、と思う。しかし、安定していないので、不安を感じる</p>
<p>同じ職場で、長期勤務して安定性のみを迫及するか、たとえ、一時的に不安定になっても、自分の能力を試したり、新しい環境へ出て行ってみるのが良いのか悩んでいます。年齢的にも、今後あまりチャンスに恵まれることは無いと思われるので、今、その機会に、どのように対応すべきか大変悩んでいます。</p>
<p>パートなので仕方ないのですが 自給が安い事、健康保険 厚生年金 雇用保険がないので将来がとても不安です。</p>
<p>有給休暇がなく、休みを取りにくい。社会保険や、雇用保険もなく非常に不安である。転職するにも資格がないし年齢制限があるため難しい。</p>
<p>母子家庭だから手を差し伸べるといふより(児童扶養手当)自律できるように就労支援する方向で進めるように変わっていくべきだ。もちろん子どもが小さければ(~3才)ある程度の充実した施策も必要。 在宅就労ももちろんだが、養育費を確実に得る手だてを考えて欲しいどれだけの女性がもらえるべきものも得られず頑張っていることを理解して欲しい!</p>
<p>今だに自分にできる仕事がわからずにいます。(パソコンは不具合が生じたときに自分で対応できないので在宅ワークは他の種類のものがあるといいと思います)。仕事が自分にあっていないのか人間関係がうまくいかないせいかな今の会社に就職してからたびたび円形脱毛症にはなるし、うつ病という病院の先生もいるし、でもあと10年は今の所にいなければいけないでしょう。</p>
<p>夜勤、遅番が1ヶ月の勤務日のうちのほとんどを占め、日勤は1、2回程度。夜勤の時は娘(中1)が一人で留守番をし、夜も仕事であることが多く、娘の精神状態が不安定になってしまっていることが悩みです。</p>
<p>子供の状況調査や手続きが夜でもできるようにしてほしい。役所などが昼間しかできないので、作事中に時間をもらわなくてはいけなくて、いつでも受付が出来るようになってほしい。子供が働けるようになるまで、学生のうちは子供として認めて欲しい。</p>
<p>貯蓄したい。老後が不安。だけど個人年金を積み、余裕はない。貯金なんてできない。お金に関しては、先のことを考えると不安になってしまうので、意識的に考えないようにしている。それでもやっぱり考えてしまう時は、橋の下で暮らすのもまた面白いかもしれないと、考えるようにしています。契約社員の給料が、正社員の半分以下です。せめてボーナス時の支給率くらい、格差をなくしてほしい。1か月フルに働いて手取り、12万いかない時の方が多い。社員だったらと思うが、年齢的に、その上、このご時世では、今から社員になるのは無理。どうにかならないものでしょうか。</p>
<p>アルバイトで6年間同じ会社にて、今年秋、準社員になりました 長い勤務時間、有給も取らせてくれず、ないと会社から言われ、準社員になっても給料が言っていたものとちがいで2ヶ月歩合が全々払ってもらえず「やめてもいいんだよ」と言われています。生活も苦しいです。やまても即仕事もなく、このまま長くいると、家族生活が出来ない状態が出ます。どうしたらよいのでしょうか</p>

<p>就職に役立つ為にと、パソコンなどの資格を取得しましたが、面接に行くと実務経験がないとダメだと言われてしまい、自分が思う職につくことができません。年齢的にも再就職は大変です。今は自分のあった仕事だと思いますけど、それまでやりたくない営業をして、とても大変でした。後は、子供が小さい時に、病気とかで仕事を休むと、その後会社から明日からこなくていいと言われた時に、頭の中がカラっぽになり、その後の仕事もなかなかみつからない日々もありました。ひとり親だと長い時間働けなく、収入が思ったより上がらないことで、今はたりない分は生活保護のお世話で、肩身が狭い気持です。</p>
<p>現在勤務している会社に定年はないが、自分が60歳くらいになった時果たして働く場所があるかどうか非常に心配である。また給料に見合う仕事が出来よう今後もスキルアップしたいと考えているが（もっと高い収入が得られるよう頑張りたい）勉強する時間の確保、気力を持続させることはなかなか難しく感じています。</p>
<p>児童扶養手当等の支給されないものについての届け出等の手続きの簡素化を願う</p>
<p>女性の高学歴化は男性並み以上に進んでいるのに(女性の6割以上が短大、大卒)ひとり親への資格取得支援などの職種が限定されているのは非常に不愉快だ。4年制大卒業している母親にしたら、大学院等での高等技術職、資格取得のための自治体からの支援が欲しい。ヘルパー、看護師、等、全くジェンダーバイアスのかかった職種限定はこれからの現状に全くそぐわない。支援なら、自由に選択できる様経済支援(現金での支援)をして欲しい。</p>
<p>政治、税金の使い方等、変えていかなければ、本当に駄目になっちゃいます。この国は・・・</p>
<p>40代からの求人が少なく働きたくてもなかなか条件の合う仕事が見つからない。3年生になって今年は学童の待機児童になってしまい、5年別居から離婚になり(私は離婚しなかった)やっと今年から職業訓練校の手当ての出る母子家庭わくで入校できるかと思っただ、時間的に難しく、ギリギリ通学できる16時終りの雇用能力開発機構(無手当)の医療事務コースに合格したが、水曜日が子供が早帰りである事と、冬休みが(今年度に限って)長く、実家(介護中祖父母)に頼むわけにも行かず、やむなく辞退しました。無資格だとパートになってしまい不安定なので、正社員で就職したいと思うが、娘が中学生になるまでは難しい。</p>
<p>地方では資格を持っていても思うように働き口が見つからず、運よく働けても、なかなか正社員になれなかったり、求人内容より給料が低かったりと足元を見られます。でも、この職を失ったらもっと条件の悪い所でしか雇ってもらえないので我慢せざるをえません。離婚・年令・子育てのための時間が必要なことなどが就職に不利な因子にならない社会になって欲しいと願っています。</p>
<p>40を過ぎると仕事が無くなること、などが現実です。元気で経験も有るのに、年だからという理由は悲しいです。</p>
<p>現在、2箇所パートをしています。収入的にはやはり少ないのが現状ですが(将来がとても不安)体が弱いことがいちばん気になっているので、これ以上の勤務は体力的に無理かもと思い、今のままがんばっています。</p> <p>学校のPTAの参加が難しく、かといって、やらないわけにもいかず、とても精神的、肉体的、時間的につらい思いをしています。父親=大黒柱=PTAへの参加はないのに、同じ立場にある母子家庭の母親はPTAへの参加はまぬがれない。大変すぎます。</p>
<p>年齢が40を過ぎてる為、なかなか仕事が見つからず、やっと就職でもパートのためとても不安定です。また、小さな会社で休みが取りにくく、子供の学校行事等に参加できないので子供に申し訳ない気持でいっぱいです。具合が悪くても休んだ分、収入が減るので、つい無理を</p>

<p>してしまいます。自分の生活時間に合わせて仕事ができる在宅の仕事が増えることを希望しています。</p>
<p>家庭福祉員は、ひとり親が多く、皆頑張っています。ただ、地域によって、保育需要に差があり、受託児がいないと収入がなくなってしまうのが困りものです。資格があつて、待機児が多い地域なら、この仕事もよいと思います。</p>
<p>英語を使う仕事に転職したくて、週1回英会話スクールに通っていますが、週2回のコースでないと給付金対象のコースにならないので、自己負担が大きくて困っています。ひとり親のための独自給付金があると良いと思います。正社員でがんばって仕事をして、収入が増えるのと児童扶養手当や医療助成の対象からはずれるので支出ばかり増えています。</p>
<p>○行政手続きが必要な時に、勤務時間を使わなければならない ○子ども（うちの子は小学生）をとりまく環境が悪化しているため、何とかしたいという気持はあるが、時間がとれない。学校の役員など、時間がある人のリズムで動いているので参加が難しい。 ○子どもが病気の時や、仕事がPM8:00, 9:00になる時でも、子どもだけで家にいることに慣れさせてしまった。かわいそうだと思うが、現状では仕方ないと思う。 ○養育費に関する法律は改善されているようだが、例えばDV家庭で離婚を望んだ時に、養育費のとり決めまですることが出来るか?現実にはムリだと思う。とにかくハンコを押してくれというのが現状ではないか?別性での結婚がまだ認められていない現状では結婚による改正で不利えきをこうむる女性が多いと思う ○結婚により or、出産により退職した人も多く生涯賃金で考えるならひどいマイナスだと思う。養育費は、どこかの国のようにまず国が回収して再配し、出した方ももらった方も所得税から（ほかも）きちんとできる形が、「にげ得」の元、夫をつくらないために有効なのではないか。これを確立すると、母子手当予算も減らせるのではないかと思う。</p>
<p>就職当時、本社勤務であったが、分社化され、事務会社に移管された。仕事の内容にはほとんど変化がないのに、身分が不安定(事務会社への派遣)となり、不安を抱えている。会社に対する不満を派遣元にしたメールしたら、派遣先の事務会社に転送され、本社人事部から人を減らせといわれているときに・・・と暗におどされた。</p>
<p>ひとり親家庭をささえている母親がもっと収入を多くもらえるようになってほしい。生活保護をもらっている方が楽にらせる事が非常に不満、がんばって働いている人が低所得なのに。</p>
<p>私は以前の職場2年弱勤めたところで社長に気があると奥さんに思われてやめてくれといわれた。それは私が離婚しているせいで、まだ他からみると女ざかりにみえたようだ。私は離婚してたら男の人ともつきあったことも泣く、社長にそんなことをした覚えもないが、離婚しているだけでいろいろなことを思われるようだ。 今は新しい仕事もみつかったが、傷つけられた心はいやされない。子供にももちろん理由は言うわけにはいかない。世の中が変わってもらいたいと心から願う。</p>
<p>現在勤務している会社は退職金がなく、賃金にかなり男女差があり、女性はほとんど給料が上がることはない。オーナー社長のワンマン経営であるため、機嫌をそこねるとクビになる可能性が高く、この先、子どもの教育費、自分の老後のことを考えると経済的な不安が多さい。転職も考えているが、年齢的にも厳しいものがある。</p>
<p>気にしないようにしていますが、離婚をしたことで、特別な目でみられたり、いたらないと思われたりする。</p>

<p>年齢的に仕事がない。受けても、落ちてばかりで、やはり仕事の安定性がない。やっと、今、入った職場でも1ヶ月おきの契約で不安定です。</p>
<p>年令やヘルニア等正社員の仕事が欲しいけどみつからない…。娘の高校は私立のため奨学金3件受給してやっと通わせているけれど、娘の成績ガタ落ちで受給維持が危ぶまれる～。退学せざるをえないのに～～困った!!</p> <p>どうして経済弱者の児童扶養手当をカットしたり、福祉定期も利率下げられたり、弱いものいじめするのか!?</p> <p>ヘルニア・・・入院しないと治らない、ケド、入院したら欠勤になって収入も得られないし、今回、やっと冬のボーナスもらったのに（といっても¥5万）。欠勤になると夏のボーナスも昇給もカットされるし・・・</p>
<p>仕事で採用にも携わるようになると男女差別を最近強く感じます。能力による給料といいながら、年令、同じ仕事でも給料が違う。均等法はなかなか浸透しませんね。ただ、私の勤め先は母子家庭といって採用の際特別視しなかった点は良かったです</p>
<p>薬剤師という資格はもっているが、転職するにしても年齢的に無理になってきている。これから先、薬剤師が過剰になることが目に見えているので不安（もっと収入がほしいがふやせず）。勉強するにしても、空いた時間にする余裕がない。</p>
<p>看護師という資格を持っていても半年くらいは仕事が見つからなくて苦労しました。業務形態や内容、通勤時間、勤務時間などが希望と一致しないものが多かったためです。子供を抱えての職探しは大変でした。もっと資格の有無に関わらず一人で頑張ろうとしている人達にやさしい社会であってほしい。行政は事務的な対応ではなく、一人一人の立場にたった、心のこもった対応をするべきだと思います。</p>
<p>児童扶養手当収入により出る金額が減額されすぎる!!前夫は養育費も払わずぬくぬくと生活しているのに、きちんと法律で立りたててほしい!!公営住宅 母子にもっともっと優先的に借りられるようにしてほしい!!</p>
<p>子どもが小学校までは就職がいかに難しいかを実感してきました。子ども（子育て）を中心に仕事を選ぶと希望する職にはつげず、何度か仕事を変えることになりました。小さな子どもを持つ母親達が少しでも長く勤められるような就労支援を強く望みます。（保育園での病児保育や学童保育の月謝補助なども）また、住宅支援もぜひお願いしたいです。（家賃が民間は高すぎます。）</p>
<p>自営なので、子供が病気のときに困る。行政にもっとフレキシブルな体制をとってほしい。学校も登校（早退、遅刻等）の送迎を保護者がしなくてはいけないので、何とかしてほしい。老後の年金の保障が心配である。</p>
<p>ひとり親家庭になって 精神的・時間的ゆとりがないことを実感しています。ひとり親家庭でも 自分がやりたいと思うことを実現できるような、育児サポート・精神的支援が充実してくれることを望んでいます。</p>
<p>業績が悪いので昇給、ボーナスはほとんど期待できない。労働時間を短縮してパートさんを使うからしわ寄せがどんどんこちら側に押しつけられる。</p>
<p>私の区では、“全ての区民に”という方針で、小学生以下は医療費が無料等々あります。両親そろって、仕事もある人たちが優遇されていると思います。私たち一人親の仕事が安定しないのに手当でも少しずつ減額されていますし、本当にこの先死ぬまで働かないと生活できないのかなと不安です。年齢だけで人を判断しないで欲しいです。キャリアや経験をみて欲しいで</p>

す!!
離婚している。小学生の子供がいるということは就職するとき不利になるということを離婚後就職する時非常に感じました。今、実家で親と同居しながら働いていますが親の理解も薄く親から毎日のように不満を言われながらの生活です。ひとり親に子供と生活していけるだけの就業先があれば……。親からの不満で子供に嫌な思いをさせず暮らしていければと思います。辛いです。
娘は高校生になったがずっと不登校であった。三交代の夜勤では、娘を1人おいて仕事に行っても登校できる可能性は少なかった。児童相談所で、夜は危険、登校、の意味もあり、養護施設に入れました（娘は家族や友人が出来て安定しています）私は収入の少ない母親はおちつくまで養護施設でも良いのではと思うようになりました。市・県からの補助が少なくなっている今つかえるのは施設かと思います。若い母親の疲れを考えるとそんなにむごい事ではないと思います。
私が勤めているところは個人企業です。のせいか、まだまだ女性に対する差別がひどい職場です。まして、離婚しているものには足元（賃金等で）をみるというか、そういうことが非常に感じられる。いくら一生懸命仕事をしても女だからむくわれない事がほとんどです。もっと女性を認めてくれるような法はないのでしょうか？
中高生を持って一番お金が掛かるのに年齢制限が有って良い仕事に就けない。
3ヶ月契約のパートなので、先の保証はないこと。井戸の多い会社なので、家庭の事情を理解してくれた上司が移動してしまうと、結婚してないことから、子供を扶養してることまで話すのにそういう機会がなくて、なんとなく普通の奥さんと思われているため、仕事環境が改善されない。
ホームヘルパー2級の資格をとったが、施設などでは夜勤があり、子供とすごす時間が減ってしまう。昼の時間にしてもらおうとパートになりボーナスもなかったりする。夜勤をして、夜勤手当をもらってようやく16万くらいの収入になる。この先、児童扶養手当もどうなるかわからない。昼8時間働いて、児童扶養手当なしで生活できるような収入のある仕事につきたい。
会社自体が非常に厳しい状態が続いており、年収も年々減少しているのが実体です。（正直言って、貯蓄どころか、今まで蓄えてきた物を持ち出している・・・）今後のことを考えれば不安で一杯です!!こ～んなに頑張っている、児童手当は「停止」だし、もう少し何とかしてほしいです。（働かないほうがいいの・・・な～んて思ってしまう～）
ひとり親家庭の起業支援やコミュニティビジネスの創業促進があると聞きましたが具体的にとても難しく困難であるし諦める方が多いと聞きました。せつかくの制度も使われずに「絵にかいた餅」で終わるのでしょうか??行政窓口の方にはもっと情報提供をし活用できる様にして頂くように希望します。再度相談に行きます。
離婚を機に東京から福山(実家のある)に転居し、母子3人の暮らしを始めましたが、地方では物価は都会と変わらないのに収入は低く、生活は大変苦しかったです。その苦しい時期を乗り越えたのは、実家や友達のささえがあったからです。でも経済的には結局は自分が力をつけるしかないと思い、子供のため、自分のため、がむしゃらに頑張りました。おかげで少しずつ自分も勉強しながら周りからも認めてもらえるようになり、今があります。
やりたい仕事はあるが、今の収入は捨てられないのでいつかチャンスがあれば転職したいと思っている。子供が社会人になれば自分の老後を考えたい。「共生住宅」について勉強したいと思っている。

<p>夜勤のある仕事の為、子供とのすれ違いが多い。夜勤手当がないと現在の生活が維持できない。いつ迄続けられるか不安に思っている（夜勤手当 月平均 10～12 万円位⇒賃貸料になっている）</p> <p>児童扶養手当が減額され現在の就業体制となった。子どもとのゆとりのある生活への支援がなされるような社会を望んでいる。</p>
<p>児童扶養手当が法改正によりもらえなくなりとても残念です。</p> <p>長子が国立大でなくて私学へ行き学費の負担が大変です。母子家庭は援助がないでしょうか。国公立は授業料減免があるのに、私学は全くない。企業も母子手当てを出してほしい。</p>
<p>世帯主がいて奥様のアルバイト的な仕事の間口は広いですが、賃金は低く生活の全てを担うには程遠いです。他の母子家庭を見ても、やはり正社員の方は、ボーナス、諸手当等で年収も、多いようで生活も安定しているようです。このまま一体何歳迄派遣の仕事が出来るのか毎日不安です</p>
<p>年齢的に再就職が厳しい状況です。派遣の仕事をしていますが、派遣先では就業条件明示書に記載のない業務までさせられて、何でもやって当たり前のように使われています。仕事があるだけ良しとして何でもやらなきゃいけないのでしょうか、ボーナスもカットされて、収入の増える、見込みはなし、頑張っても評価されることもなくむなしいです。求人者の年齢の幅をもっと広げてほしいです。子供達の教育費が一番かかる時です。18 才で、手当の方もなくなります。せめて、仕事があればと思う日々です。子の塾、家庭教師代等で自分にかかる余裕など全くありません。</p>
<p>行政は、就労支援をすと言いながら、ほとんど役に立たないことしかしていないと感じます。子育て支援も、家にいる親子向けのものばかり。今後、ますますシングルマザーは増えると思うので、もっとその力をうまく利用することを考えていくべきだ。宝の持ち腐れ。</p>
<p>青森では、40 歳以上の事務職の募集はほとんどなく、ヘルパーや掃除の仕事も、20～30 代の若い人ばかりで、不安でいっぱいです。</p>
<p>この 2,3 年で急に福祉の切り捨てる風ちょうが出てきたようです。介護ばかりに力が入っているようで、他は見えていない様です。介護保険も今受けている人はいいいですが、支払うばかりの私達はどうなるのでしょうか。政府は議員年金や天下りを無視し、とれる所より取っていくような姿勢にもっと新しい考えを求めたいと思います。</p>
<p>仕事、内容に関しては、もう少し違ったことをしたいと思う時もあるが、学校行事で有給がとりやすい会社だったので結局転職しないで 10 年勤務しています。母子家庭の子どもたちのための奨学金の制度(子供達が社会に出たら返していくような)を作してほしいです。わが家は実家が近いし、養育費も毎月支払われているので恵まれています。高校生 2 人の授業料で月 6 万円近くなり、教育費は大変です。</p>
<p>ひとり親家庭を優先に、在宅で出来る仕事を提供してほしい。また、老後の年金等より厚い保護がなされるよう、福祉をもっと充実してくれたら、老後の心配が少しでも減り、精神的に楽になれると思う。</p>
<p>仕事は満足している訳ではないですが、その中でそれなりに楽しめる部分を少しでもあれば…、と思っています。PC 講座に参加しましたが、なかなか仕事もないようなのですが、これから少しでも副業的にできることを望みます。</p>
<p>在宅の仕事だけでは生活にゆとりがもてない事、在宅の仕事があっても首都圏での面接や説明会等への出席が困難な場合が多い事。</p>

働きたくても企業の募集年令が底すぎ、おぼさんだって若い人に負けないぐらい頑張れる人だって、たくさんいるのに。それに、60才定年って・・・それから年金が支給される数年の間に、働けない、金もないじゃ、数年の間にご飯も食べられなくて死んじゃうわ。
やはり離婚して子どもがいると偏見がある。セクハラも多い。女の敵は女と思う。同じバツイチの女性ですら、ねたみや、いやがらせがある。どうして世の中は人に干渉したがるのか。全く世の中に迷惑をかけていなくても。
民間会社の独身寮の寮母として住み込みで働いています。不況なので3年前から5%カット、ボーナスは0.5ヶ月と収入は減るばかり。他の社員と勤務時間が違うため、時間外の四度とが通常ありますが時間外手当はありません。1人で寮で働いているので、会社の情報が伝わってきません、寮が築30年なので、いつリストラされるかと不安です。現在は少ないけれどもどうにか生活していけますが、何年か先はどうなっているかわからない不安はあります。個人中は、専業主婦だったので、年金は少ないです。離婚の時、夫の退職金の一部分与や、年金分割は認められませんでした。離婚の時、法律がなくても受給年齢になったら応分の金額をもらえないでしょうか。
年令のため転職は正社員ではむずかしく、会社のサービス残業、休日出勤などの強制にさからえない。弱味をにぎられつつ働いているというかんじです。行政に関しては仕事を休んでしかいけない時間帯しか開いていないという状況が腹だたい。
ひとり親であること、かつ障害者であるのですが、かなり毎日無理をしているところがあって、先行きが不安です。無理をせず仕事ができたらいいと思っているのですが。そういう支援があれば助かります。
年収に応じて児童扶養手当が減額される事が気がかりです。母ひとりでどんなに働いても限界があり、将来に備えて貯蓄もできるだけしたいのに、年収が増えれば手当ては削減されます。生活に必死なのに、そんなことまで気にして働かなくてはならない。思いっきり働かせて欲しいです。
ひとり親世帯になってから（40代）働き出した為なかなか選べず、最初の会社は倒産、次の会社も給料カットなど年々厳しい状況に追い込まれていく感じです。仕事が不安定だと、先の見通しも立てられず、精神的にも不安定な状況が続いています。行政でひとり親の母に安定した仕事を斡旋してくれたらどんなによいだろうと願っています。年齢的にも厳しく、パートの面接をしてもご主人等で安定した収入があって、補助的に働く人の方が望ましいなどと言われると、では私たちはどうすればいいのかと思わずにはいられません。
パート、アルバイト採用ばかりなので雇用保険や失業保険に入れて貰えない。保険の関係とかで長い時間雇って貰えない。すぐ首にされるのでいつも不安です。若い時は子供が居るので採用されず、現在は年齢で社員にしてもらえない。将来、貯金なし不安な事ばかりです。（親の面倒も見なくてはいけなし。）3つ仕事をしていても、収入が上がりません。子供の教育費で自分の老後まで考え付かないです。（残るは借金だけかも）
男女雇用均等法が出来ても、相変わらず女性の昇進、昇給は低く抑えられている事を痛感しています。
収入を増やしたいが、副業の紹介がほしい。
残業が多く帰りが遅くなり、毎日の生活にゆとりがない。小3の子供は、一人親家庭ヘルパー制度を利用してみてもらっているが、月12回までしか使えず、4年になると使えない。パー

トだと生活できないし、区職員だとどうしても帰りが遅くなりどちらも大変。
子供が 20 才になると親の立場も母子から寡婦となり児童扶養手当や医療助成等から卒業し、行政の施策等とは縁遠くなります。ひとり親世帯になった時点で経済的に安定した仕事に就業し、寡婦になった時点でも自立しているのが理想です。ですが、大半のひとり親世帯の親は「子育てと就業」問題に悩んでおります。私も平成 8 年までは仕事をしておりましたが、家庭の事情（母親の死去）で退職し、今現在は息子と父親との生活で、勿論！再就職を希望しておりますが年令の壁は高く厚く、未だに「願」が叶いません。先細りの世の中、ひとり親世帯だけが特別では無い！行政等の支援にも限度があり、やはり自己責任で乗り切らなければいけません。私的には、今後パソコン使用した在宅就労が可能であれば、就業の底辺も広がると考えます。
パソコンと使ったのデータ入力、テープお越し等をしたことがあります。1 日、12 時間以上・パソコンにむかっていたために、体をこわし、今では普通の生活にも支障がある在宅仕事は自分で管理できる事も必要であるが、労働者に対する保障（保健・労災・雇用）がなくとても不安定であり、不安である。
年齢が高く失業すると、すぐに働く場所が見つかりません。どうしても、パートとかアルバイトになってしまいます。生活するには、2・3 ヶ所掛け持ちしなければならず大変です。ハローワークの職業訓練を受講して、修了しても、有利な仕事は見つかりません。
離婚して 5 年になりますがその前後からうつ病になり、まだ通院しています。でも見た目では普通に見えて親等知人から、私は働かないのではなくて働けない状態ですがなかなかかわかってもらえません。今まで貯めたお金を崩してなんとか生活していますがやはりこの先不安です。

50 代

離婚後、色々就職探しをいたしましたが、年齢制限が多く（当時 48 歳）非常に困りました。建前だけ年齢制限をはずしている会社も多く、かえって無駄足を運んでしまったと感じたことも多くありました。自分でも子育て中にもっと仕事のことを考えて勉強しておけばよかったと後悔しておりますが、就職のために勉強しているものに対して、もっと扉を広く開けてほしいし、サポートが欲しいと思いました。
年休等休みは契約状は十分充実しているが、仕事の中では実際に使うことはできない。（年休が取りにくい）
生きていく為に仕事がしたい。一生懸命するが、パートしかない。世の中、働きたい人には仕事を下さい。子供をかかえ、不安、収入内では生活は大変です。何とかして下さい。
現在、体調が悪く、仕事を減らして、少ししか働いていない。今迄の貯金をとり崩して生活している状態である。このままの体調が続いた場合、生活保護を受けるしかないと思う。労働意欲がないのではなく、「体調によって働けない」ということを理解して、行政は生活保護が必要であるということを、認めるかどうか、非常に不安である。
子供の成長にともない、教育費の心配と、貯蓄のできない現状に不安です。年令的に転職、などがむずかしく、実労働が多くすると、公的支援を受けずらくなり、そのことで子供がふたんをしいられます。子育てだと就業時間でなやみます。
パート（保育士）なので給料が安定していず収入面でとても不安・・・子供が 18 才になったからと言って我が家のように収入の少ない家でも手当てがもらえなくなるのは納得いきません。1 応決まりなのでしょうがもう少し考慮して欲しいです。健康保険も期間を延ばして欲しい。
50 才という年令で子どもは小 6、高 1、なので時間他で仕事選びもなかなか思うようなところがなく、低い賃金、少しきつい仕事でもあと 10 年は働かなければ・・・と思っています。変

<p>実はとても厳しいです。</p>
<p>資格や技術を取得したいけど、学費がないのでいつまでも向上しないし、年齢が上がるにつれて仕事がなくなってきました。当然、賃金も下がる一方です。長期的展望で資格や技術取得のため勉強しながらも生活費に困らない程度の学校など、ご紹介していただきたくお願い致します。不安でノイローゼになりそうです。</p>
<p>介護職が重労働であること。いつまで続けられるか不安。仕事のストレスが高い。組合はあるが、労働者の立場に立ってない。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・年齢制限の為、正職に就きにくい(たとえ資格があっても・・・) ・母子家庭、45歳以上の雇用促進支援があっても現実には活用されていない状況 ・ワークシェアリングの実施の検討を・・・ ・1人1日6時間程度の労働で若年・高年ともに就労できる施策を・・・ ・ただ座っているだけの人をなくそう(タバコを吸い、お茶を飲んでるだけ) ・自身のことだが転居・転職の度、気持新たに、何かを身につけていっている(資格も) <p>不足を言ったらきりがないので、収入の多少よりも、ある意味、楽しんでやっている。</p>
<p>ほとんどの求人情報が年齢制限をしているので、まず入り口で断られてしまいます。若い人達には負けない意欲と対応力は持っているつもりですが、面接までこぎつける事ができません。在宅の仕事は不安定で収入も少なく、子供たちにも我慢を強いる生活になっています。仕事をしたいです！！</p>
<p>年齢制限がネックになっている。</p>
<p>年金が受給できる年齢まで働けるかが心配</p>
<p>子供が小さいうちは在宅でできる仕事があれば子供の養育もしながら仕事もできるので 子供にさびしい思いをさせることも少ないと思う。もちろん、その為には母親自身も勉強する必要があると思うので職業技術指導はありがたい。</p>
<p>下の子が高校生になり、子育てのドタバタ時期は一応通りすぎましたが、果して自分の子育てはこれでよかったのか、夢中で通りすぎた生活は果して子どもにとってどうだったのか、その時期、行政ができることは何なのかを、皆さんが提案なさっている集会などに参加させていただきながら考えていきたいと思っています。</p>
<p>人件費の削減をするため少ない人数で、今までの何倍もの仕事の内容がふえ、自分に理解できないものでも、教えてもらえず。でもしなければいけなくなり、自分、に心のゆとりがなくなり仕事に行く日は、登社キョヒを起しそう。あと、2ヶ月、3ヶ月と決めがんばっている。</p>
<p>現在、子供二人(就職)が生活費を入れてくれているので生活が成り立っているだけで、将来も年金は少なく(月5万程)どうなるかわからない。節約術を身に付けて、月数万円をパソコンワークで得ていこうと思っている。くよくよしないであれば、道は開けるし、人生を楽しめると思います。</p>
<p>資格を取る為に福祉会館へ通うが札幌市内では1箇所しかなく交通費、時間がかかりすぎる。東西南北近くの区民センターなり、区役所なりで、してほしい。</p> <p>企業については年齢制限があり、応募がむづかしい。男女差とともに、特別な仕事でないかぎり、年齢に対する企業の考えを改めてもらいたい。今、私は子供を預る必要はないが、若い母親であれば、子供が少し熱を出しても安心して預けられる所があるといいと思う。</p>
<p>現在の仕事は60才で定年なのですが、年金支給までの5年間の生活費が用意できるかどうか心配です。65才まで仕事がしたいです。</p>

<p>現在、市の教育委員会からの要請で、週 29 時間以内と制限付の仕事（行政が夫の扶養内で働く人中心の考えなので）なので、身分保障がまったくなく国民年金、健康保険を払うのが非常に負担です。塾の給料、月 6 万と足してやっと 20 万ですがその中から、国民金融公庫の教育ローン（36000 円/月）や、長女の（大学 3 年）大学授業料（年 150 万）ここの家賃 68000 円を払い、長男からの援助が多少ありますが、私の給料がすべて時給制なので私が病気にでもなったら収入は即ゼロです。でも結婚していた時も、元夫からの生活費がないときは私が家での教室の収入で支えていたので、自宅を残してきたこと以外は、元夫からの暴力からののがれられたので今の生活は一応満足はしています。もともとコンピューターなどによる教育には反対なので、パソコンにはまったく興味がありません。将来、在宅でやる仕事としては Z 会などの大学受験生向けの通信教育の手書きの添削、または、外国人に日本語を教える講師（外国での仕事）も考えています。ただし、今まで、かなり無理をして働いて来たので、健康に関しては不安はあります。乱筆乱文で失礼します。</p>
<p>育児教育のコスト、男性の子そだての放棄、住宅政策などを変えるシステム作り、特にこれからの若い人達の仕事と子育ての両立。手助けできる法的システム作りをお願いします。</p>
<p>離婚してからの仕事探しで小さな会社に最初パートで入り 3 年目で正社員になりましたが、個人会社と同じで労働基準法なんてあってないようなものでサービス残業 土曜も祝日もなし、有給もなし、とにかく月給だけは確保できて、年金や保険等がついているのはとにかくましなことと思って暮らしています。自分の健康だけがとにかく心配しています。リストラで仕事がふえるわりには、年とともに大変重圧を感じています。今の若い人達にはお進めできない職場です。20 年以上立ちました。</p>
<p>技術を持っていても、年令制限や性差により、働きづらい社会だと思う。労働入り口が減っていくのが見えているのに、積極的な対応がないことを不満に思っている。SOHO という手もあるが、ある程度の資金がないと働けない。・・・対応、対策を気軽に相談できる機関が欲しい。</p>
<p>現在の日本は、まだまだ男社会である。女性が男性を、肩を並べて仕事をする場合、2 倍の努力が必要である。同時に、女性は、まだ甘えがあって、仕事に対するレベルが低い。一企業に正社員として、30 年勤務し、離職したばかりです。</p>
<p>視覚障害者に対しての仕事が非常に少ないこと 聴かくを生かした仕事などもっと行政に考えてほしいところ</p>
<p>今は正社員なので良いが、あと数年で定年（60 才）になる。子育て後の再就職なので勤続年数も短いし、男性社員のような役職もつかないので、退職金も少ない。定年後の仕事探しに不安がある。</p>
<p>まだ充分働けるのに高年令というだけでことわられる。経験もあり、意欲もあり、若い人と同じ賃金でもかまわないといっても、仕事につけない。</p>

60 代以上

<p>定年制の 60 才となっておりますがわれわれ寡婦、ひとり妻など年金の少ない者など生活して行くのに大変です。光熱費など支払ったら食費代は全然ない位です。なんとか、65～70 位迄雇用してもらわないとこまります。年令不問 高齢になったら年金を増額してほしい。</p>
<p>今、どんどん増えつづけている“グループホーム”という施設で、お年寄りの介護をしている。私は 60 才、ヘルパー 2 級を取ったが、そんなものは、ないのと同じ。上を目ざして勉強しないと、優遇されない。24 時間体制のシフトを制で。人間関係で、悩まされている。気持ちとてもスサンでいる。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 残業手当がつかない。私はパートだが、職員と同じ仕事をしている。2. 労働時間は 9 時間、休けい時間がまったくない。3. 業務以外の仕事は、決められた時間内に書くように言われるが、かけるものでない。が、強いられる、努力がたりないと。4. レポート提出がある。勤務時間内に出来るものでないので、家でやるしかない。いろいろ課題が出され、それについての意見を書かされる。だが、仕事の方がとても忙しく、時間的にも、体力的にも限界を感じつつやっている。それに答えられない物は、排除されて、仕事をしている。重要な仕事は、まかせてもらえない。差別されている。 <p>こうした施設は、まったくの素人がはじめているので、作業現場は、とても大変である。また行政も、無理難題を押しつけ、試行錯誤でやっている。作業現場の生の声を、行政に持って行き、新しい法律を作らないといけないと考えている。どこの現場も同じような問題をかかえていると思う。</p>
<p>年齢制限がネック。本人次第でもありますが勇気を失ってしまいます。離婚による生活基盤本体が母親に責任負担が重く、生活保護の受てのぎりぎりの生活をしているのが事実であり就労の機会はずいぶん少ない。</p>
<p>停年になり、後、子供との生活がかなわず、年金(国民年金)生活ではやっていけない 不安をかかえる年令になりました。</p>
<p>現在遺族年金受給中で 65 才に成ったら自分の年金を選択しようと考え 60 才過ぎてからも時々パートで働いて来ましたが、現在パートも年令制限等でパートの仕事も仲々みつかりません。今後共行政等の力強いご支援の程心からお願い申し上げます。</p>
<p>親の介護して気付いたら、仕事もあまりない 60 才過ぎていて、収入は無収入で 6 年、老後はすべて無にも無く成ってしまった。その間収入があれば 老後の計画通り保険代を払って行けたら 父を介護して居る間、国から保?して預けていたら父が亡くなる迄、交通費はかかるし精神的にも大変でした。おかしく成る寸前迄行きました。でも父との沢山の思い出を頂きました。ありあがとうございました。</p>
<p>ひとり親での生活こまった時など市の方に相談にいてもなんのかいけつにもならないのが残念に思う 役所などに相談に行く時は本当にさいごに行くのです 少しでも耳をかしてほしいです。</p>
<p>ひとり親で子供が独立した後の生活はさんたんたるものです。少しの収入では家賃も払えず、無収入だと行政も話しを聞きますが、少しでも収入があるなら「家賃も払えるような所へ引越せばよい」と平気で言います。仕事を変りたくても、年齢的に使ってくれる所はないです。シルバーとは言え、元気ですし、仕事もきちんとするし、気転もきくのに、企業は、なぜ気付かないんでしょうね。みんな年を取るんです」少しはその後の親の暮らしにも、目を向けて頂けたら、ど</p>

んなに心強いことでしょうか。「ひとり親その後」アンケートも必要かも知れませんよ。。

私の職場では男女とも50～55歳で退職する人が多く、55歳で働いている私は珍しい存在となっています。リストラがすすみ人手不足なので仕事量も10年前と比べ2～3倍になっているので毎日10時間働き土日も出てこなしても残る状態ですが、不平も言えません。健康を気にしつつあと4年を思っ頑張っていますが、非常に疲れを感じています。私を含めて他の職員(若い人も)もサービス残業で何とかしのいでいます。リストラの対象になりたくないで誰も上司には文句を言いません。サービス残業の摘発をもっと厳しくやってもらいたいものです。労働組合もありますが、有名無実の状態になっています。

4. 6 ひとり親世帯の意識分析（就職・転職の際の重視点）

(1) 分析方法

4 択の質問項目に関して、「就職・転職の際に重要であると思われること」の質問項目について、ひとり親世帯の母親が就職や転職を考える際に重視していることがらについて因子分析を行った。

回答結果を基に、以下の検証を行うこととした。

- ・ひとり親世帯の母親の就職・転職の際の重視項目因子の特定
- ・特定した因子をもとに因子得点を用いて属性別の傾向の検証
- ・因子の変数をもとに素点の平均を算出し、属性ごとに素点の傾向の検証

分析に利用した質問項目は以下の通りである。

表 4-2 就職・転職の際の重視点項目

問 3 3 現在、あなたが就職や転職を考える際、以下に挙げる項目をどの程度重要視していますか。

		し重たま いな視くつ	な視りあ いし重ま	す重や る視や	視に非 るす重常
1	就業時間に融通がきくこと	1	2	3	4
2	副業をたくさんこなすこと	1	2	3	4
3	年齢制限がないこと	1	2	3	4
4	日当が出ること	1	2	3	4
5	土日に休めること	1	2	3	4
6	通勤が短いこと	1	2	3	4
7	サテライトオフィスであること	1	2	3	4
8	長期契約をしてもらえること	1	2	3	4
9	知り合いから紹介された仕事であること	1	2	3	4
10	相談すべきところがわかりやすいこと	1	2	3	4
11	身分が安定していること	1	2	3	4
12	専門的な知識が必要なこと	1	2	3	4
13	十分な収入が得られること	1	2	3	4
14	自立支援員から紹介された仕事であること	1	2	3	4
15	自分の直感を優先する	1	2	3	4
16	自分の健康状態が安定していること	1	2	3	4
17	子どもの保育の手立てがあること	1	2	3	4
18	離婚調停が終わっていること	1	2	3	4
19	子どもの健康状態が安定していること	1	2	3	4
20	子どもが小学校に入学していること	1	2	3	4
21	講座を受講しておくこと	1	2	3	4
22	残業が短いこと	1	2	3	4
23	在宅でできること	1	2	3	4
24	広告で紹介されていた仕事であること	1	2	3	4
25	厚生年金・雇用保険に入れること	1	2	3	4
26	労働時間が短いこと	1	2	3	4
27	これまでの経験が発揮できること	1	2	3	4
28	業績が安定していること	1	2	3	4
29	求人数が多いこと	1	2	3	4
30	休暇が取りやすいこと	1	2	3	4
31	技術・技能を身につけられること	1	2	3	4
32	家庭問題が問題視されないこと	1	2	3	4
33	ハローワークから紹介された仕事であること	1	2	3	4
34	自分の持っている資格を活かせること	1	2	3	4
35	インターネットで情報を入手できること	1	2	3	4
36	自分の能力が発揮できること	1	2	3	4
37	どんな仕事でもやる	1	2	3	4
38	たくさんの人に相談すること	1	2	3	4
39	仕事が簡単なこと	1	2	3	4
40	自治体等の支援	1	2	3	4
41	ある	1	2	3	4
42	働かなくても誰かが何とかしてくれると思う	1	2	3	4

②結果の概要

分析結果の全体の傾向として、「労働条件」および「労働環境」の良さを重視し、「能力・スキル」を活用した仕事に就くことを希望していることがわかった。

第1因子：労働条件の良さ

現在の生活に不満を感じている人ほど、身分や経済的安定等の「労働条件の良さ」を求めている。また、現在仕事を持っている人に多い重視項目である。

第2因子：労働環境の良さ

年齢が若いもしくはひとり親歴の短い人ほど労働時間の融通性や休暇の取りやすさ等の「労働環境の良さ」を求める傾向が示された。

第3因子：個人の能力・スキル

現在の暮らしに満足している人ほどこの項目に対して重視している傾向がある。また、現在在宅業務を行なっている人が重視している項目である。

第4因子：公的サービス・知人の活用

ひとり親世帯全体としては重視度の低い項目であるが、ひとり親歴の長い人や現在の生活に不満を感じている人ほど、公的サービスや知人・友人からの仕事の紹介を重視している傾向がみられた。また、現在仕事を持っていない人に多い重視項目である。

第5因子：本人が働ける状況にあること

加齢とともにもしくはひとり親歴の長い人ほど「本人が働ける環境・状況」を重視している。

第6因子：就職のための準備

ひとり親世帯全体の傾向としては重視度は低いが、寡婦世帯や現在の暮らしに不満を感じている人ほど重視する項目である。講座を受講し、資格や技術を身につけることで新しい分野や現状を打開しようとしていると考えられる。

第7因子：融通の利く仕事

ひとり親世帯全体の傾向としては重視度は低いが、現在在宅業務を行なっている人に多い重視項目である。

(3) 因子負荷量

質問項目 36 項目を変数とし、母子世帯の回答者 (419 名) のデータを対象に因子分析を行い、変数の集約を試みた。以下に集約結果のグラフを示す。

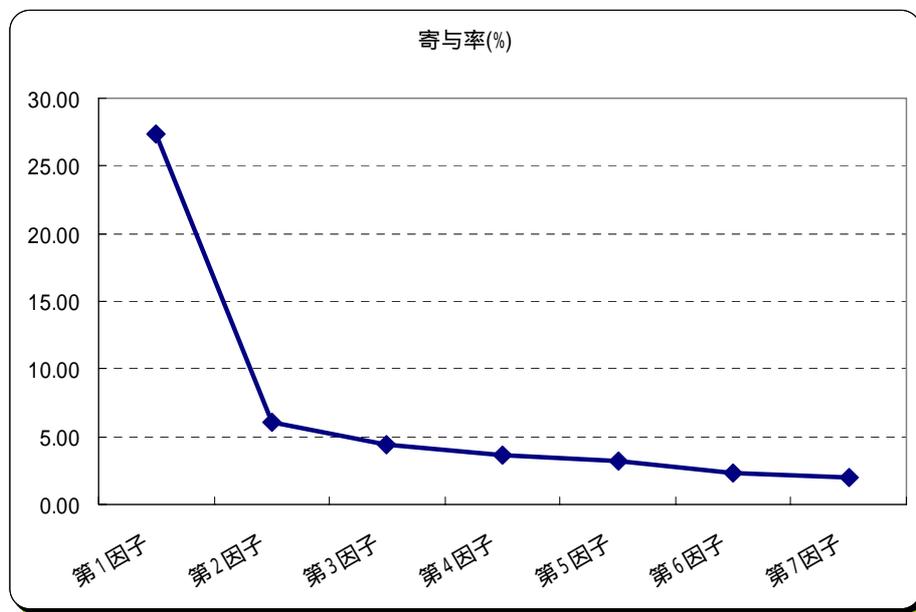


図 4 - 2 1 因子負荷量

集約結果から、第 7 因子で累積寄与率が 49.00 と 50%に限りなく近づいたため第 7 因子を採用することとした。

なお、因子の解釈をやりやすくするためにバリマックス回転を採用した。

(4) 各因子に含まれる変数・因子負荷量

因子ごとの変数と負荷量との関係は以下の表のようになった。

表4-3 就職・転職の際の重視点項目別因子得点

	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6	因子7
q33_11	0.7591	0.1137	0.1875	0.2214	0.1116	0.0495	-0.0192
q33_8	0.7559	0.0874	0.0652	0.1524	0.0676	0.0107	0.0477
q33_13	0.6284	0.2344	0.2902	0.0401	0.1132	0.0078	0.0966
q33_28	0.5878	0.1938	0.3296	0.1073	-0.0131	0.3697	0.0905
q33_25	0.5409	0.2622	0.1642	0.0983	0.0872	0.2457	-0.0915
q33_22	0.1827	0.6454	0.1392	0.0331	0.2392	0.2466	0.0500
q33_26	-0.0218	0.6151	0.1957	0.2494	0.0248	0.1117	0.1000
q33_1	0.1250	0.6065	0.0307	0.0089	0.0945	-0.0539	0.3436
q33_6	0.2967	0.5601	0.1494	0.1836	0.0594	-0.1327	0.0117
q33_30	0.2768	0.5499	0.2032	0.0912	0.0851	0.3230	0.0201
q33_5	0.2183	0.5342	0.1050	0.0158	0.2049	0.0428	-0.1059
q33_36	0.2490	0.2266	0.7689	-0.0046	0.1036	0.0680	0.0940
q33_27	0.1399	0.2380	0.6641	0.0406	0.0149	0.1131	0.0878
q33_34	0.1411	0.0954	0.6249	0.2472	0.1768	0.2555	0.0691
q33_12	0.2036	0.0287	0.6059	0.2255	0.1279	-0.0639	0.0409
q33_14	0.1495	0.0835	0.1149	0.6832	0.1009	0.1325	0.1504
q33_9	0.0634	0.0573	0.1460	0.6567	0.0567	0.0304	0.1048
q33_24	0.0333	0.1544	0.0708	0.5000	0.1133	0.2933	0.2655
q33_33	0.1508	0.0153	0.0708	0.4862	0.1563	0.5164	0.0512
q33_17	0.1098	0.2472	0.1122	0.0743	0.7066	-0.0728	0.1149
q33_20	0.0282	0.1597	0.1067	0.1091	0.6165	0.3200	0.1205
q33_18	0.0480	0.0305	0.1014	0.2455	0.5953	0.0642	0.0058
q33_19	0.3390	0.3466	0.1991	-0.1125	0.4577	0.1771	0.2035
q33_21	0.1134	0.1151	0.1143	0.2513	0.2878	0.4520	0.2635
q33_2	-0.0054	0.0623	0.0799	0.1898	0.0302	0.0159	0.5876
q33_23	-0.0518	0.2843	0.0565	0.2913	0.0395	0.1842	0.5614
q33_7	0.0948	-0.0380	0.1262	0.1091	0.1593	0.0704	0.4155
q33_35	0.1072	0.0299	0.3605	0.3106	0.1552	0.3302	0.3147
q33_3	0.3842	0.3138	0.0461	0.1150	-0.0998	0.1823	0.3016
q33_4	0.1995	0.0619	0.0644	0.3984	0.1193	-0.0512	0.2396
q33_29	0.2732	0.1896	0.0344	0.3750	0.0269	0.2713	0.2240
q33_32	0.2833	0.3537	0.2360	0.0593	0.3023	0.2814	0.1897
q33_31	0.2775	0.2631	0.4400	0.1255	0.1547	0.3763	0.1867
q33_15	0.0959	0.2171	0.2735	0.1754	0.1051	-0.1014	0.1314
q33_16	0.3741	0.3389	0.2628	0.0263	0.1155	-0.0417	0.1151
q33_10	0.3988	0.1188	0.1704	0.4017	0.0969	0.0376	0.0732

質問項目と集約結果から、各因子軸の解釈を以下の通りにした。

- ・ 第1因子：労働条件の良さ
- ・ 第2因子：労働環境の良さ
- ・ 第3因子：能力・スキルの活用
- ・ 第4因子：公的サービスや知人の活用
- ・ 第5因子：本人が働ける環境にあること
- ・ 第6因子：就業のための準備
- ・ 第7因子：融通の利く仕事

以下に、因子軸の解釈について記載する。

①第1因子（労働条件の良さ）

第1因子に負荷が高い項目は以下の通りである。

- 身分が安定していること (0.7591)
- 長期契約をしてもらえること (0.7559)
- 十分な収入が得られること (0.6284)
- 業績が安定していること (0.5878)
- 厚生年金・雇用保険に入れること (0.5409)

第1因子の負荷量の高い項目は、身分が安定している、長期契約をしてもらえる、十分な収入が得られるなどの、労働条件に関するものである。したがって、第1因子を「労働条件の良さ」と解釈した。

②第2因子（労働環境の良さ）

第2因子に負荷が高い項目は以下の通りである。

- 残業が短いこと (0.6454)
- 労働時間が短いこと (0.6151)
- 就業時間に融通がきくこと (0.6065)
- 通勤が短いこと (0.5601)
- 休暇が取りやすいこと (0.5499)
- 土日に休めること (0.5342)

第2因子で負荷が高い項目として、「残業が短いこと」、「労働時間が短いこと」、「通勤が短いこと」、「休暇が取りやすいこと」などの、労働条件に関係する項目があった。したがって、第2因子を「労働環境の良さ」と解釈した。

③第3因子（能力・スキルの活用）

第3因子に負荷が高い項目は以下の通りである。

- 自分の能力が発揮できること (0.7689)
- これまでの経験が発揮できること (0.6641)
- 自分の持っている資格を活かせること (0.6249)
- 専門的な知識が必要なこと (0.6059)

「自分の能力が発揮できること」、「これまでの経験が発揮できること」、「自分の持っている資格を活かせること」などの、自身の能力に対する項目に関して、負荷量が高かった。したがって、第3因子を「能力・スキルの活用」と解釈した。

④第4因子（公的サービスや知人の活用）

第4因子において、負荷が高い項目は以下の通りである。

- 自立支援員から紹介された仕事であること (0.6454)
- 知り合いから紹介された仕事であること (0.6151)
- 広告で紹介されていた仕事であること (0.6065)
- ハローワークから紹介された仕事であること (0.5601)

第4因子での負荷が高い項目は、「自立支援員から紹介された仕事であること」、「知り合いから紹介された仕事であること」など、公的サービスや知人に対する項目があった。したがって、第4因子を「公的サービスや知人の活用」と解釈した。

⑤第5因子（本人が働ける環境にあること）

第5因子において、負荷が高い項目は以下の通りである。

- 子どもの保育の手立てがあること (0.7689)
- 子どもが小学校に入学していること (0.6641)
- 離婚調停が終わっていること (0.6249)
- 子どもの健康状態が安定していること (0.6059)
-

第5因子での負荷が高い項目は、労働を行うにあたり自身以外のものに対しての項目である。したがって、第5因子を「本人が働ける環境にあること」と解釈した。

⑥第6因子（就業の為の準備）

第6因子において、負荷が高い項目は以下の通りである。

- 講座を受講しておくこと (0.4520)

第6因子での負荷が高い項目は、「講座を受講しておくこと」の項目が高かった。このことより、第6因子を「就業の為の準備」として解釈した。

⑦第7因子（融通の利く仕事）

第7因子において、負荷が高い項目は以下の通りである。

- 副業をたくさんこなすこと (0.5876)
- 在宅でできること (0.5614)

第7因子での負荷の高い項目は、「副業をたくさんこなすこと」、「在宅でできること」の項目が高かった。このことから、「融通の利く仕事」として解釈を行なった。

(5) 回答者の因子傾向の分析

因子分析の結果、特定した因子をもとに、抽出された因子得点を用いて、回答者の因子ごとの傾向を分析した。因子得点は、回答者個人に与えられるもので、その因子の傾向を強く持つ被験者はその因子にプラスが大きな値になり、逆に弱い傾向を持つ被験者は、その因子にマイナスが小さい値になる。

本報告書では、属性別（年齢層別、ひとり親経験年数別、暮らしの満足度別）に因子得点の平均値を算出し、因子ごとの被験者の傾向を分析した。

以下に、属性ごとの分析結果を記載する。

①年齢層別

年齢層別にみた因子傾向を下図に示す。

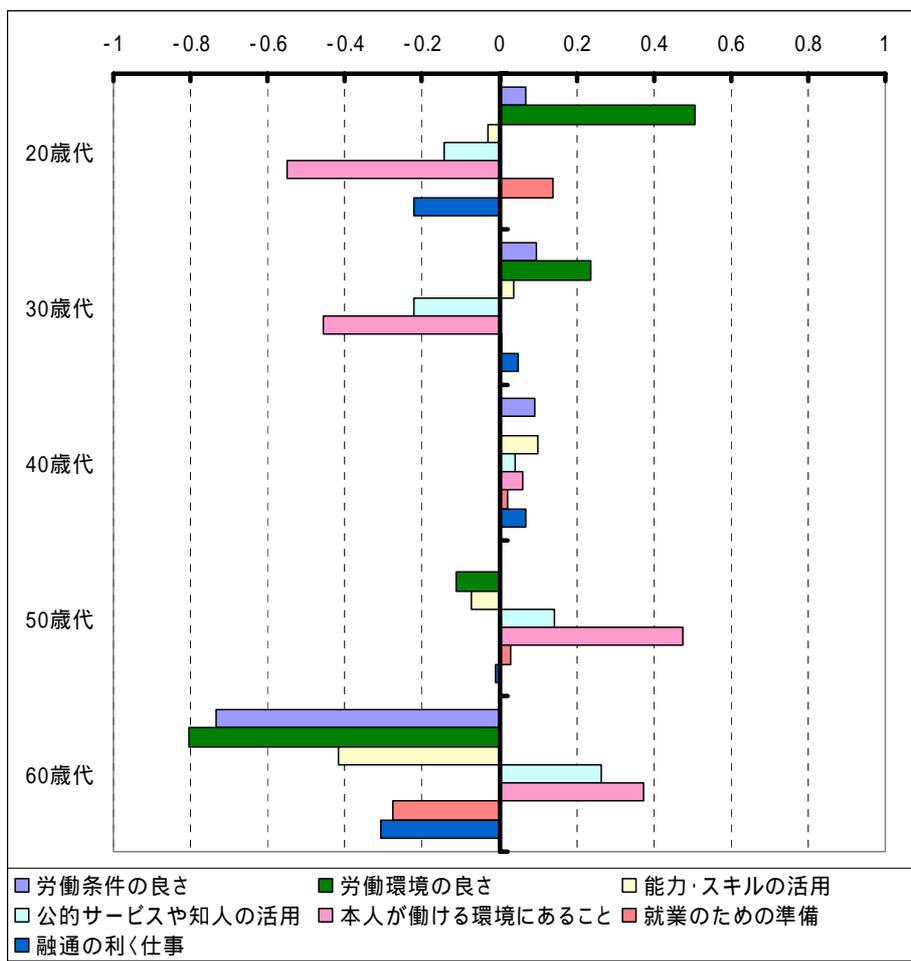


図 4 - 2 2 年齢別因子負荷量

分析の結果、第 2 因子に関しては、加齢とともに傾向を示さなくなることがわかった。

これは、子育てをしながらの勤労であるため、収入面の待遇よりも、勤務時間等の労働環境を重視しているからではないかと考えられる。

逆に、第 4 因子および第 5 因子に関しては、加齢とともに傾向を示すことがわかった。

年齢を重ねるにつれて、子育てが一段落した層が、労働を行なうに際し時間や環境などの要因から、収入面などの労働条件に重きをおくようになったものと考えられる。また、年齢制限などの求職の減少から、就業をするにあたり知人に頼る傾向も見せている。

②ひとり親経験年数別

ひとり親経験年数別にみた因子傾向を数に示す。

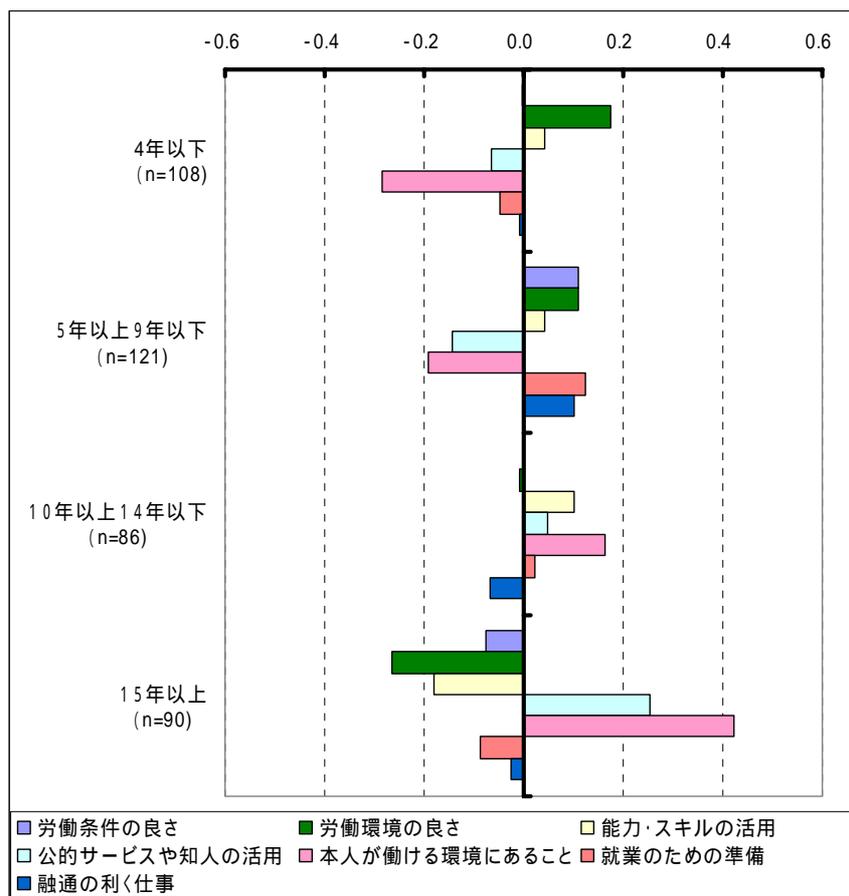


図 4-2-3 ひとり親経験別因子負荷量

分析の結果、第2因子に関して、ひとり親経験年数が短いほど傾向を示すようになった。これは、子育てとの兼ね合いを考慮した結果、収入面での待遇よりも時間に都合がつく等の、環境面での要因を重視しているからだと考えられる。

ひとり親歴が長いほど傾向を示す項目として、第4因子および第5因子が挙げられる。これは、年齢別で見た傾向と同様に、年齢を重ねるにつれて、子育てが一段落した層が、労働を行なうに際し時間や環境などの要因から、収入面などの労働条件に重きをおくようになったものと考えられる。また、年齢制限などの求職の減少から、就業をするにあたり知人に頼る傾向も見せているのではないかと考えられる。

③暮らしの満足度別

暮らしの満足度別にみた因子傾向を下図に示す。

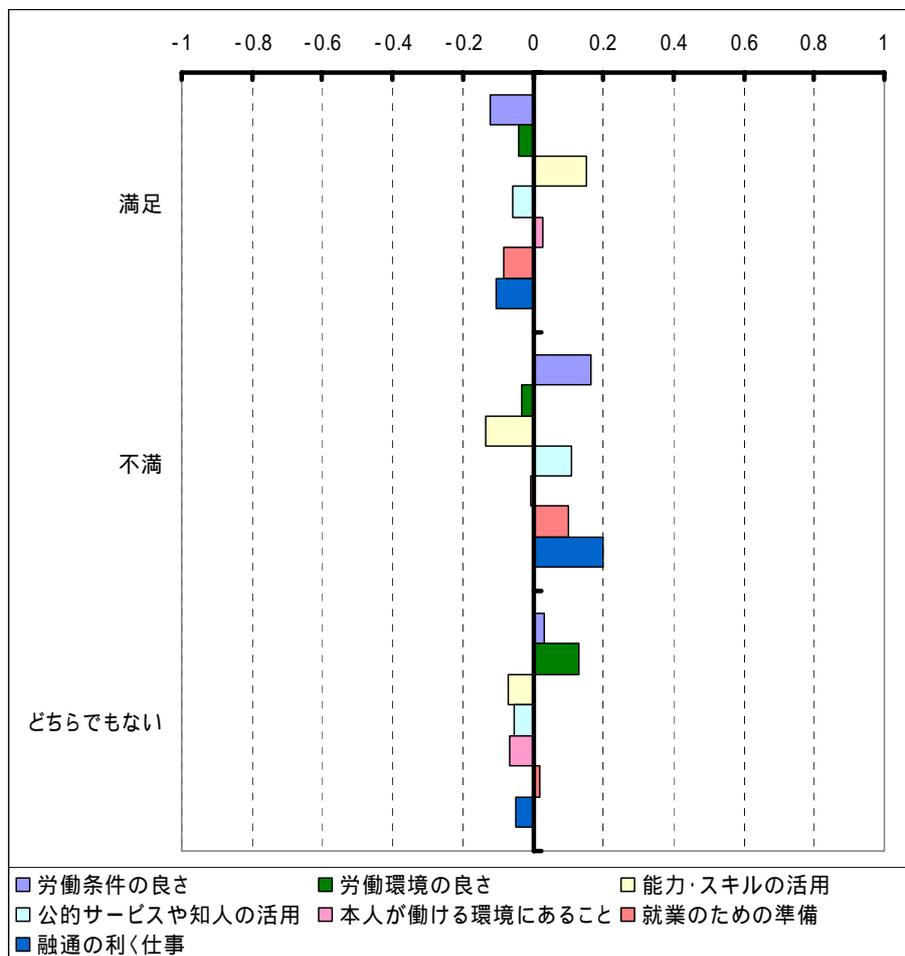


図 4-24 暮らしの満足度別因子負荷量

分析の結果、暮らしに対する不満度が高いほど、第1因子、第4因子、第6因子に傾向を示すことがわかった。

暮らしの不満が高まると、収入等の条件面を求める傾向にある、また、労働条件にこだわらない傾向や、就業のために講座の受講や知人・友人からの紹介を重視する傾向があると見られる。

また、暮らしに対する満足度が高いほど第3因子に傾向を示すことがわかった。

満足度が高いと、ほとんどの因子に対し傾向を示さないが、自分の能力や経験を仕事に活用したいとする欲求が生まれてくるのではないかと考えられる。

(6) 因子ごとの素点の分析

ここでは、因子ごとの素点の分析を行ない、因子を構成する変数（質問項目）をもとに、被験者が回答した変数の評価（素点）の平均値を取り、因子傾向を比較することで、ひとり親世帯の就職・転職に係わる重視点の違いを考察する。

素点の分析は、全体の傾向、母子・寡婦別にみた傾向、ひとり親別にみた傾向、就業の有無別にみた傾向について考察する。

①全体の傾向

全体を対象とした素点の分析結果は下図のようになった。

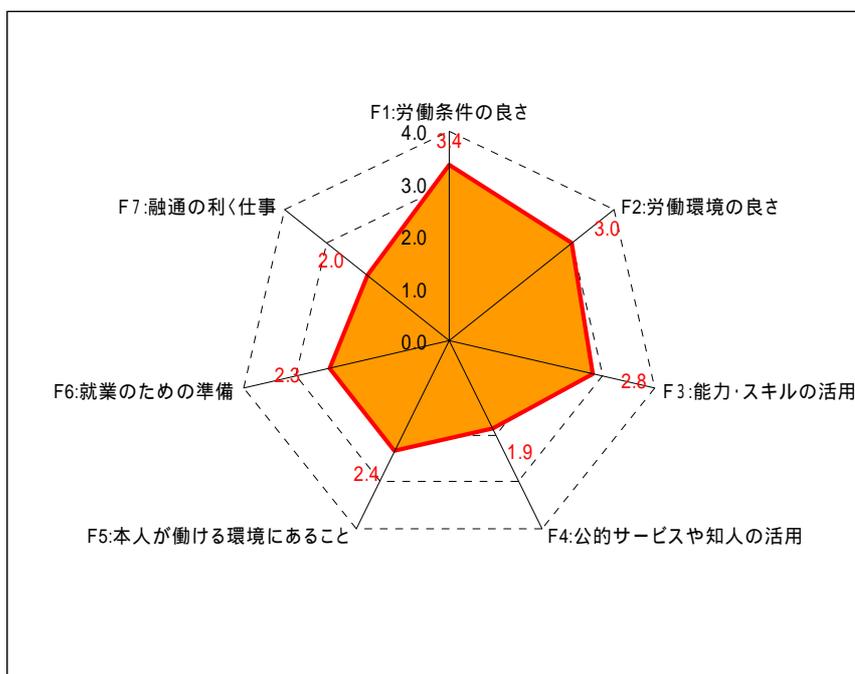


図 4 - 2 5 因子の全体的傾向

全体の傾向としては、「労働条件」および「労働環境」の良さ、「能力・スキル」の活用に重点をおいた就業を希望していることがわかる。反面、「公的サービスや知人の活用」、「融通の利く仕事」に関しては、あまり重視していない結果となった。

②母子・寡婦別にみた傾向

母子・寡婦別にみた素点の分析結果は下図のようになった。

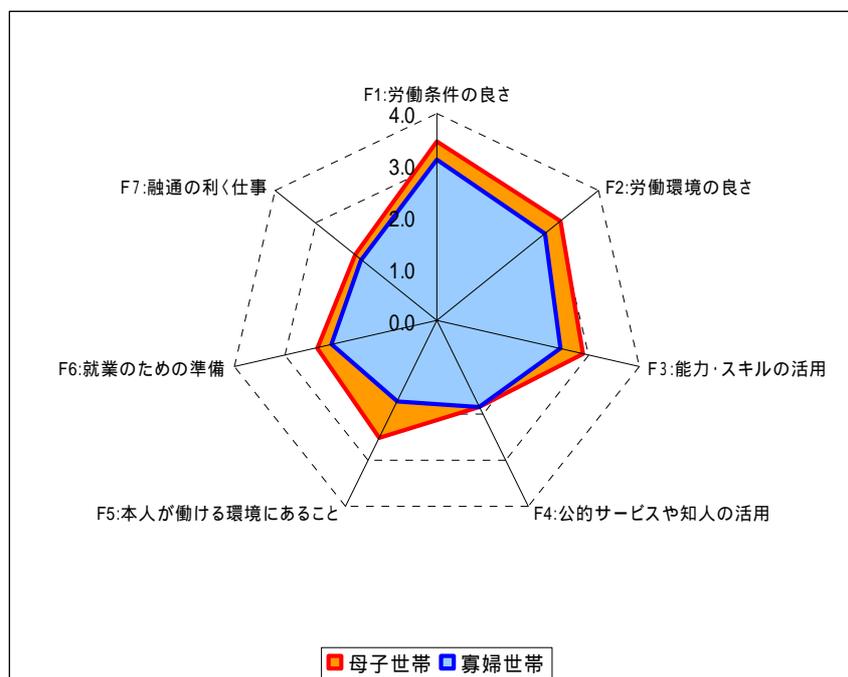


図 4 - 2 6 因子の全体的傾向（母子・寡婦別）

母子世帯に比べ、寡婦世帯は就業にあまり関心を示していないことがうかがえる。

特に「本人が働ける環境にあること」に対する意識は、平均の差の検定結果からも明らかな有意差がみられ、特に重視しない項目であることがわかった。

このことは、寡婦世帯が育児から解放され、既に働ける（あるいは自身が働かなくても良い）状況にあることから関心の程度が低いと考えられる。

③ひとり親経験年数別にみた傾向

ひとり親経験年数別にみた素点の分析結果は下図のようになった。

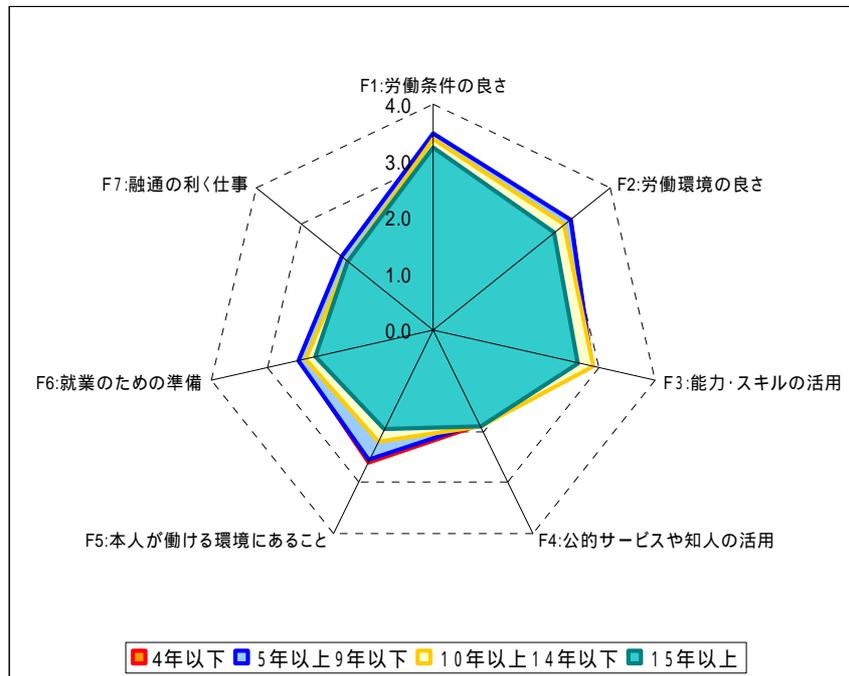


図 4 - 2 7 ひとり親経験年数別にみた傾向

「本人が働ける環境にあること」に関して、平均の差の検定結果から、ひとり親歴が短い人ほど重視する項目であることがわかった。

④ 就業の有無別にみた傾向

就業の有無別にみた素点の分析結果は下図のようになった。

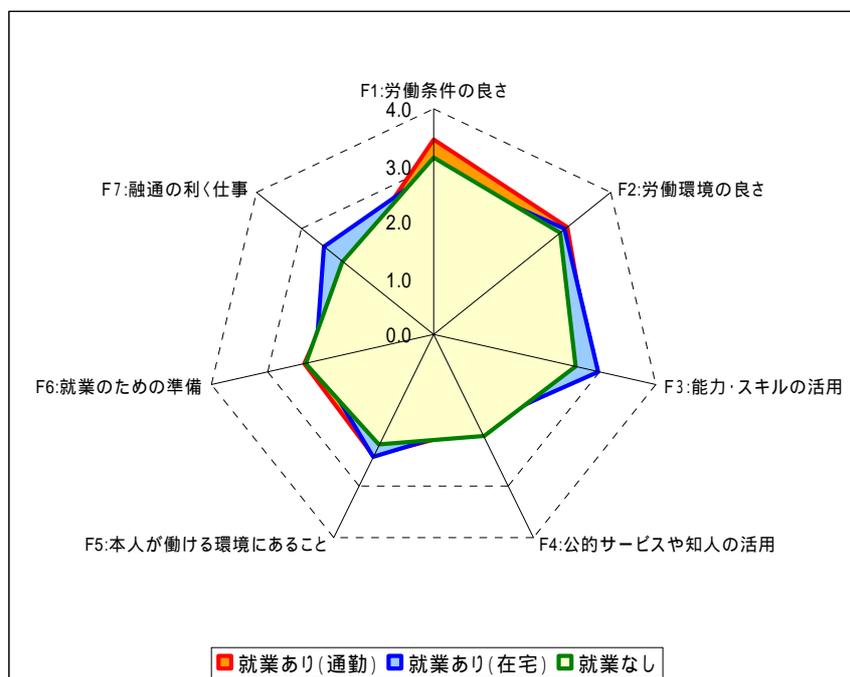


図 4 - 2 8 就業の有無別にみた傾向

通勤の仕事を持っている人は、現在の仕事に身分的・経済的安定を求めていることがわかる。

在宅での仕事を持っている人は、身分的・経済的安定よりも能力やスキルを活かせることや業務の融通性を求めていることがわかる。

仕事を持っていない人は、自分の資格や知識は重視せず、就職や転職の際、公的サービスや知人等からの紹介を重視する傾向にあることがわかる。

(7) ひとり親世帯の就職・転職の際の重視点についてのまとめ

就職・転職の際の重視点に関して、以下に、因子ごとにまとめを記載する。

・全体の傾向

「労働条件」および「労働環境」の良さを重視し、また、「能力・スキル」を活用した仕事に就くことを希望していることがわかった。

・労働条件の良さ

労働条件の良さに関しては、現在の生活に不満を感じている人ほど、身分や経済的安定等の「労働条件の良さ」を求めている。また、現在仕事を持っている人に多い重視項目である。

・労働環境の良さ

年齢が若い、もしくはひとり親歴の短い人ほど、労働時間の融通性や休暇の取りやすさ等の「労働環境の良さ」を求める。母子世帯の特徴的な考え方といえる。

・個人の能力・スキル

現在の暮らしに満足している人ほどこの項目に対して重視している傾向がある。また、現在在宅業務を行なっている人が重視している。

・公的サービス・知人の活用

ひとり親世帯全体としては、重視度は低い項目であるが、ひとり親歴の長い人や現在の生活に不満を感じている人ほど、公的サービスや知人・友人からの仕事の紹介を重視している。また、現在仕事を持っていない人に多い重視項目である。

・本人が働ける状況にあること

加齢とともに、もしくはひとり親歴の長い人ほど、「本人が働ける環境・状況」を重視している。母子世帯の特徴的な考え方と言える。

・就職のための準備

ひとり親世帯全体の傾向としては、重視度は低い項目であるが、寡婦世帯や現在の暮らしに不満を感じている人ほど重視する項目である。講座を受講し、資格や技術を身につけることで新しい分野や現状を打開しようとしていると考えられる。

・融通の利く仕事

ひとり親世帯全体の傾向としては、重視度は低い項目であるが、現在在宅業務を行なっている人に多い重視項目である。

4. 7 ひとり親世帯の意識分析（母子家庭になって感じること）

（1）分析方法

4 択の質問項目に関して、「母子世帯になって感じること」の質問項目について、ひとり親世帯の母親が母子世帯になって感じていることがらについての分析を行った。

回答結果を基に、以下の検証を行う。

- ・ひとり親世帯の母親がひとり親世帯についてどう感じているのか。意識の強い項目因子の特定
- ・特定した因子をもとに因子得点を用いた属性別の傾向の検証

表 4 - 4 母子家庭になって感じることの項目

問 3 4 あなたがひとり親世帯になって感じることは何ですか。

		まったく 思わない	あまり 思わない	多少 思う	非常に 思う
1	減った	1	2	3	4
2	ひとり親世帯になって自分が働かなくてはというプレッシャーを感じるようになった	1	2	3	4
3	ひとり親世帯になって経済的に不安定になった	1	2	3	4
4	ひとり親世帯になって経済的に無理をしても子どもの教育は十分にしたいと思うようになった	1	2	3	4
5	もう結婚したいと思わなくなった	1	2	3	4
7	う	1	2	3	4
8	減った	1	2	3	4
9	ひとり親世帯ゆえに周囲の人との付き合いに気を遣うようになった	1	2	3	4
10	ひとり親世帯になってから自分の健康がより気になるようになった	1	2	3	4
11	ひとり親世帯になってできるだけ貯蓄をしたいと思うようになった	1	2	3	4
12	ひとり親世帯になってあまり外出しなくなった	1	2	3	4
13	ひとり親世帯になって付き合う人が変わった	1	2	3	4
14	ひとり親世帯になって自治体等の施策に関心を持つようになった	1	2	3	4
15	ひとり親世帯になって、老後のことを気にするようになった	1	2	3	4
16	ひとり親世帯になって親の健康状態が気になるようになった	1	2	3	4
17	ひとり親世帯になって子どもがいてくれてよかったと思うようになった	1	2	3	4

(2) 結果の全体的傾向

全体的に、配偶者の有無、生活満足度、就業の有無とも、ひとり親世帯について感じる4因子とは関連性が低い。ひとり親世帯は老後や育児、労働に関しての経済的負担の影響が大きいこと等から、「将来に対する不安」を強く意識しているが、「周囲に対する意識の変化」の意識度は低い。

①第1因子：将来に対する不安

ひとり親世帯の傾向として、意識度の最も高い項目である。逆に、配偶者のいる世帯や同居といったように、育児や労働の面で生活状況が安定しているほど意識度は低くなる。

②第2因子：生活に対するゆとりの減少

就業あり（在宅）と答えた者は意識が弱い。また、60歳代、配偶者有り、同居など生活が安定している者ほど意識は弱い因子である。

③第3因子：周囲に対する意識の変化

ひとり親世帯全体の傾向として意識度は低い項目であるが、母子世帯の場合は意識が強く、反対に同居しているものほど意識が弱い項目である。20歳代で強く意識される因子で、特に育児や労働環境などにおける付き合いの変化により影響を受ける項目であると考えられる。

④第4因子：社会的風潮への不満

ひとり親世帯全体の傾向として意識度の高い項目である。世間体の問題の影響が大きく、就業の有無や離婚調停中である者ほど意識が高い。

(3) 因子負荷量

質問項目 16 項目を変数とし、母子世帯の回答者 (419 名) のデータを対象に因子分析を行い、変数の集約を試みた。以下に集約結果のグラフを示す。

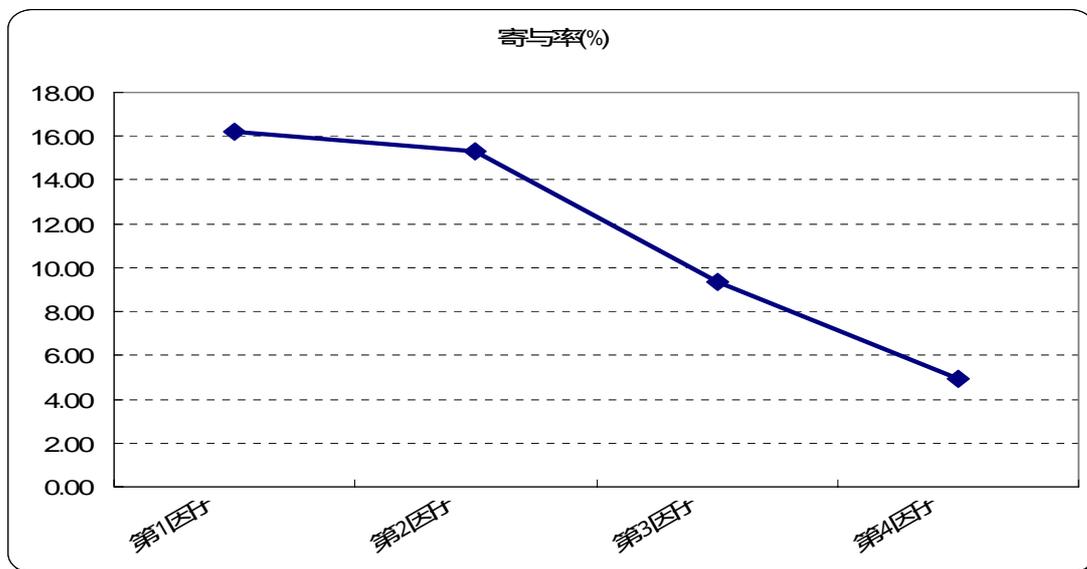


図 4 - 2 9 因子負荷量

集約結果から、第 4 因子で累積寄与率が 45.86%と 50%に限りなく近づいたため、第 4 因子までを採用した。

上図より、各因子と寄与率の推移のグラフより、第 1 因子の寄与率、第 2 因子の寄与率が 15%以上ということから、成分項目の特性はほぼ第 1 因子、第 2 因子に現れているとわかる。

因子の解釈をやりやすくするためにバリマックス回転を採用した。

(4) 各因子に含まれる変数・因子負荷量
 因子ごとの変数と負荷量との関係は以下の表のようになった。

表4-5 母子家庭になって感じるこに関する項目別因子得点

Q34	ひとり親になって感じるこ	因子1	因子2	因子3	因子4
q34.10	ひとり親世帯になってできるだけ貯蓄をしたいと思うようになった	0.7116	0.1692	0.1455	0.1185
q34.9	ひとり親世帯になってから自分の健康がより気になるようになった	0.6550	0.1013	0.1345	0.0850
q34.14	ひとり親世帯になって、老後のことを気にするようになった	0.6271	0.1791	0.1760	0.1281
q34.15	ひとり親世帯になって親の健康状態が気になるようになった	0.5683	0.2232	0.1390	0.1192
q34.16	ひとり親世帯になって子どもがいてくれてよかったと思うようになった	0.5149	0.0165	-0.0562	0.2049
q34.13	ひとり親世帯になって自治体等の施策に関心を持つようになった	0.5063	0.0919	0.2264	0.0622
q34.1	ひとり親世帯になって自分の時間的なゆとりが減った	0.1605	0.7699	0.1398	-0.1136
q34.7	ひとり親世帯になって自分の精神的なゆとりが減った	0.0563	0.7434	0.2238	0.1192
q34.2	ひとり親世帯になって自分が働かなくてというプレッシャーを感じるようになった	0.2667	0.6203	0.1193	0.1994
q34.3	ひとり親世帯になって経済的に不安定になった	0.1566	0.5850	0.1309	0.2424
q34.12	ひとり親世帯になって付き合い人が変わった	0.2165	0.0526	0.7198	0.0005
q34.8	ひとり親世帯ゆえに周囲の人との付き合いに気を遣うようになった	0.0713	0.3369	0.6228	0.1990
q34.11	ひとり親世帯になってあまり外出しなくなった	0.2235	0.3403	0.5139	-0.0249
q34.5	もう結婚したいと思わなくなった	0.1970	0.0307	-0.0027	0.4363
q34.6	ひとり親世帯にとって暮らしにくい世の中だと思う	0.1227	0.3271	0.2856	0.4301
q34.4	ひとり親世帯になって経済的に無理をしても子どもの教育は十分にしたいと思うようになった	0.3757	0.3357	0.0465	0.3882

質問項目と集約結果から、各因子軸の解釈を以下の通りにした。

- ・第1因子：将来に対する不安
- ・第2因子：生活に対するゆとりの減少
- ・第3因子：周囲に対する意識の変化
- ・第4因子：社会風潮への不満

以下に、因子軸の解釈について記載する。

①第1因子（将来に対する不安）

第1因子に負荷が高い項目は以下の通りである。

- ・ひとり親世帯になってできるだけ貯蓄をしたいと思うようになった
(0.7116)
- ・ひとり親世帯になってから自分の健康がより気になるようになった
(0.6550)
- ・ひとり親世帯になって、老後のことを気にするようになった (0.6271)
- ・ひとり親世帯になって親の健康状態が気になるようになった
(0.5683)
- ・ひとり親世帯になって子どもがいてくれてよかったと思うようになった
(0.5149)
- ・ひとり親世帯になって自治体等の施策に関心を持つようになった
(0.5063)

第1因子の負荷量の高い項目は、貯蓄をしたい、自分の健康が気になるようになった、老後のことが気になるようになったなど、将来に対するものだった。このことから、第1因子を「将来に対する不安」と解釈した。

②生活に対するゆとりの減少

第2因子に負荷が高い項目は以下の通りである。

- ・ ひとり親世帯になって自分の時間的なゆとりが減った (0.7699)
- ・ ひとり親世帯になって自分の精神的なゆとりが減った (0.7434)
- ・ ひとり親世帯になって自分が働かなくてはいという
プレッシャーを感じるようになった (0.6203)
- ・ ひとり親世帯になって経済的に不安定になった (0.5850)

第2因子の負荷量の高い項目は、自身に対する時間的、精神的なゆとりの減少、経済的に不安定になったなどの、生活に対するゆとりの減少についてであった。したがって、第2因子を「生活に対するゆとりの減少」と解釈した。

③第3因子（周囲に対する意識の変化）

第3因子に負荷が高い項目は以下のとおりである。

- ・ ひとり親世帯になって付き合い人が変わった (0.7198)
- ・ ひとり親世帯ゆえに周囲の人との付き合いに気を遣うようになった (0.6228)
- ・ ひとり親世帯になってあまり外出しなくなった (0.5139)

第3因子の負荷の高い項目は、「ひとり親世帯になって付き合い人が変わった」、「ひとり親世帯ゆえに周囲の人との付き合いに気を遣うようになった」などの、周囲の意識に対する変化の項目であった。したがって、第3因子を「周囲に対する意識の変化」と解釈した。

④第4因子（社会風潮への不満）

第4因子に負荷が高い項目は以下の通りである。

- ・ もう結婚したいと思わなくなった (0.4363)
- ・ ひとり親世帯にとって暮らしにくい世の中だと思う (0.4301)

「もう結婚したいと思わなくなった」、「ひとり親世帯にとって暮らしにくい世の中だと思う」などの、社会風潮に対しての項目について負荷が高かった。したがって、第4因子を「社会風潮への不満」と解釈した。

(5) 回答者の因子傾向の分析

因子分析の結果、特定した因子をもとに、抽出された因子得点を用いて、被験者の因子ごとの傾向を分析した。因子得点は、被験者個人に与えられるもので、その因子の傾向を強く持つ被験者はその因子にプラスが大きな値になり、逆に弱い傾向を持つ被験者は、その因子にマイナスが小さい値になる。

本報告書では、属性別（年齢層別、配偶者の有無別、暮らしの満足度別）に因子得点の平均値を算出し、因子ごとの被験者の傾向を分析した。

以下に、属性ごとの分析結果を記載する。

①年齢層別

年齢層別にみた因子傾向を下図に示す。

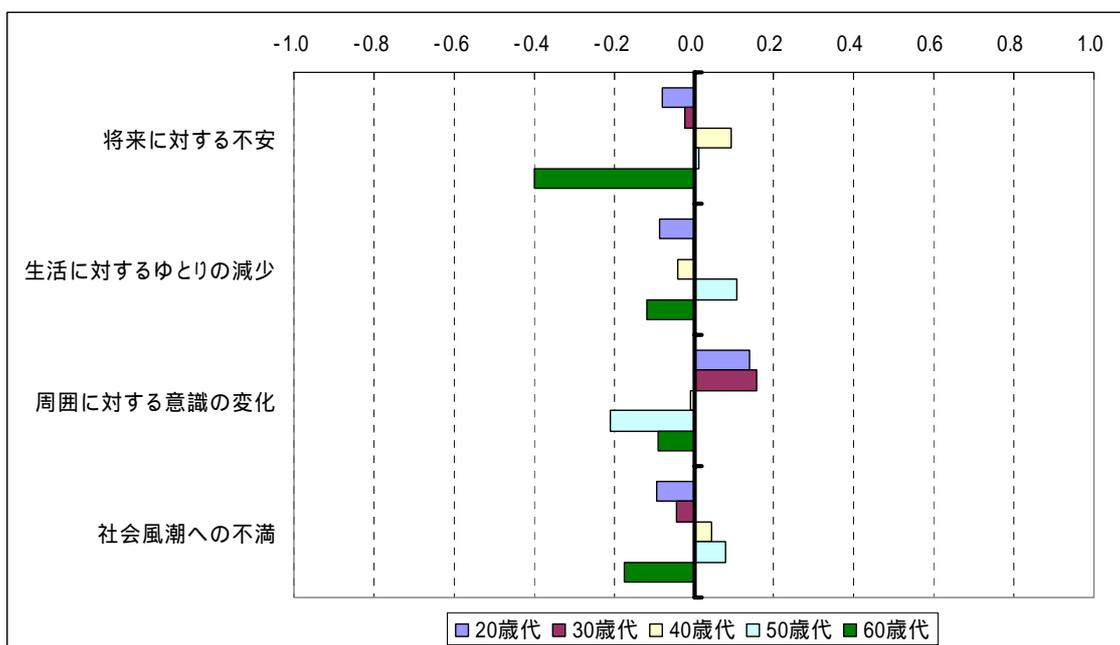


図 4 - 3 0 年齢別傾向因子負荷量

分析の結果、以下の傾向があるとわかった。

- 全体的に60歳代は4つの因子に関して傾向が弱いとわかる。60歳代は、子供が自立し、社会的労働から解放された世代であり生活が安定しているため、このような結果を得たと予想できる。
- 20歳代は「第3因子：周囲に対する意識の変化」を除いて60歳代と同様、全体的に因子の傾向が弱い。これは、若さゆえに将来について期待を抱いており、生活や社会に関する経験・意識が少ないということからもうかがえる。

「第3因子：周囲に対する意識の変化」に関して、20歳代と30歳代は因子の傾向が強く、40歳代から60歳代は弱い傾向を示している。前者は労働環境の変化や付き合いの幅も広がるということから周囲に対する意識変化が大きいこと、後者は40歳、50歳代はある程度労働環境や条件が統一されること、60歳代は定年退職により労働より開放されることなどから、周囲の付き合いが安定してくるため周囲への意識変化も乏しくなると考えた。

②配偶者の有無別

配偶者の有無別にみた因子傾向を下図に示す。

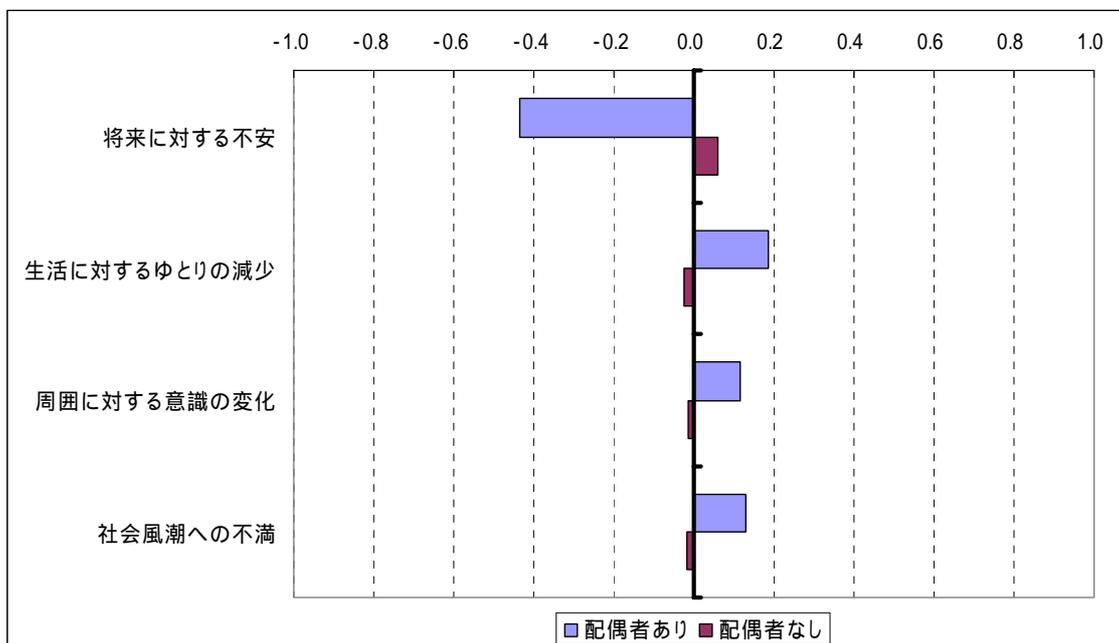


図 4 - 3 1 配偶者別傾向

分析の結果、以下の傾向があるとわかった。

- 配偶者なしと答えた者は、因子に関する傾向がほとんど見られない。このことから、ひとり親世帯について感じるものの因子項目について、配偶者の有無の依存度は小さく、別の要因が大きいとわかる。
- 配偶者ありと答えた者、なしと答えた者で因子得点は逆の傾向を見せている。また配偶者のいる世帯ほど強い傾向を見せている。配偶者のいる世帯は生活が安定しており、自身の老後について、子供の将来などの経済的負担が軽くなるということから、図の結果が予想できる。

③暮らしの満足度別

暮らしの満足度別にみた因子傾向を下図に示す。

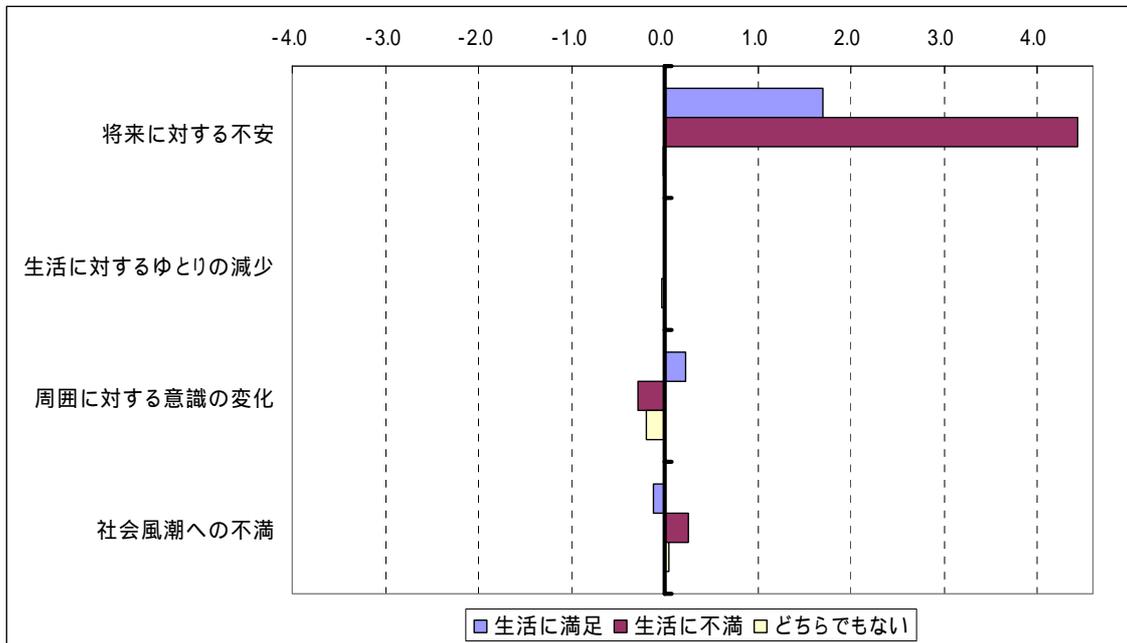


図 4-32 暮らしの満足度別傾向

分析の結果、以下の傾向があるとわかった。

- ・ 「将来に対する不安」に関して、生活に満足している者、不満な者ともに強い傾向を示しており、不満な者は、満足している者の2.5倍以上の値を示している。このことから、生活に対する不満は将来に対する不安につながる、ということを示している。
- ・ 「生活に対するゆとりの減少」に関しては、生活満足度に対してほとんど傾向を見せていない。このことから、生活に対するゆとりは生活満足度にほとんど依存しないということがわかる。
- ・ 「周囲に対する意識の変化」、「社会風潮への不満」に関して、前者と後方で、生活に満足している者と、生活に不満な者とどちらでもない者でその値は小さいものの、逆の傾向を示している。これは、生活に満足している者ほど、周囲の付き合い等の変化は少なく、ひとり親世帯であるということに経済的な不満を抱いていないという現われだと予想できる。
- ・ 全体的にひとり親世帯について感じるものの因子項目について、生活満足度の依存度は小さく、別の要因が大きい。

(6) 因子ごとの素点の分析

ここでは、因子ごとの素点の分析を行ない、因子を構成する変数（質問項目）をもとに、被験者が回答した変数の評価（素点）の平均値を取り、因子傾向を比較することで、ひとり親世帯の就職・転職に係わる重視点の違いを考察する。

素点の分析は、全体の傾向、母子・寡婦別にみた傾向、就労の有無別にみた傾向、配偶者の有無別にみた傾向について考察する。

①全体の傾向

全体を対象とした素点の分析結果は下図のようになった。

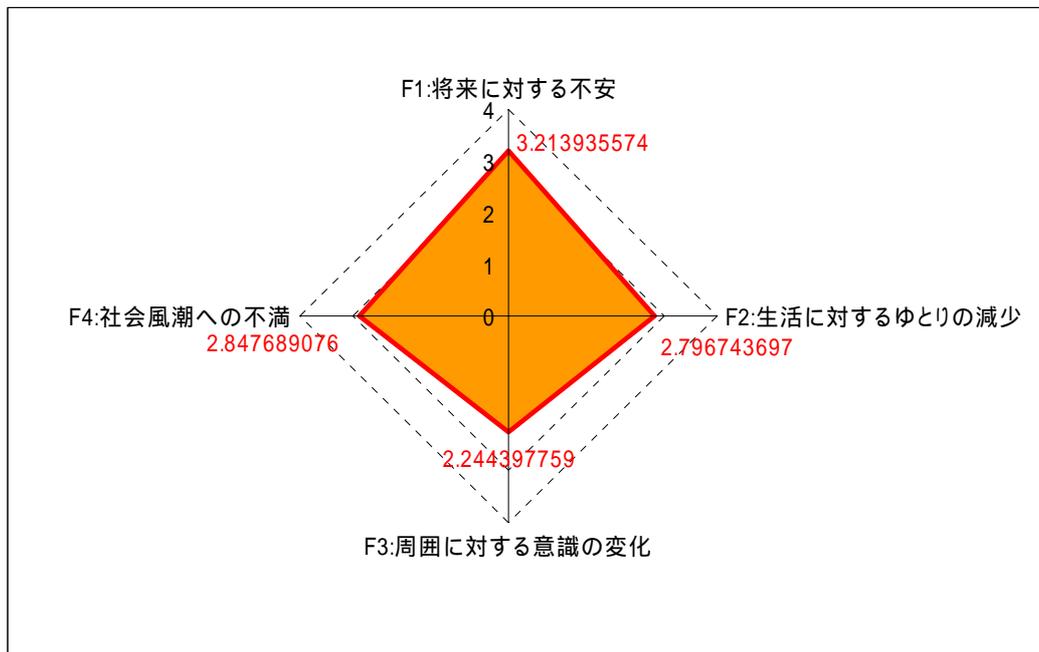


図 4 - 3 3 全体の傾向

結果より、「将来に対する不安」が **3.21** と最も大きい値であり、ひとり親世帯では最も意識されている。次いで、「生活に対するゆとりの減少」や「社会風潮への不満」も **2.80**、**2.85** と高い値を示していることからこれらの意識も強いとわかる。ただ、「周囲に対する意識の変化」は **2.24** であり、全体的にはあまり意識されていない。

②母子・寡婦別にみた傾向

母子・寡婦別にみた素点の分析結果は下図のようになった。

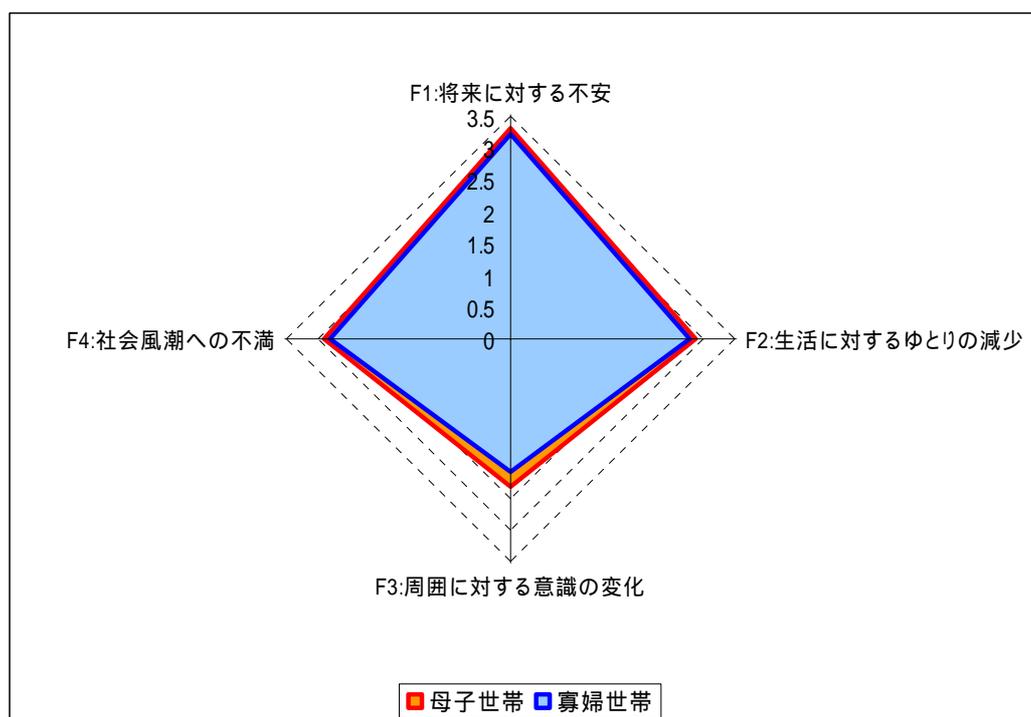


図 4 - 3 4 母子・寡婦別にみた傾向

母子世帯と比べると、寡婦世帯は、ひとり親世帯に関しての意識はやや弱いとうかがえる。中でも「周囲に対する意識の変化」に対する意識は特に重視していない項目だとわかった。これは寡婦世帯が育児の負担のない労働環境にある、という状況から付き合いなどの周囲の変化が少ないため意識が弱いと考えた。

ただ、両世帯とも、「将来に対する不安」に対しては、特に強く意識する傾向があることがうかがえる。

③就労の有無別にみた傾向

就労の有無別にみた素点の分析結果は下図のようになった。

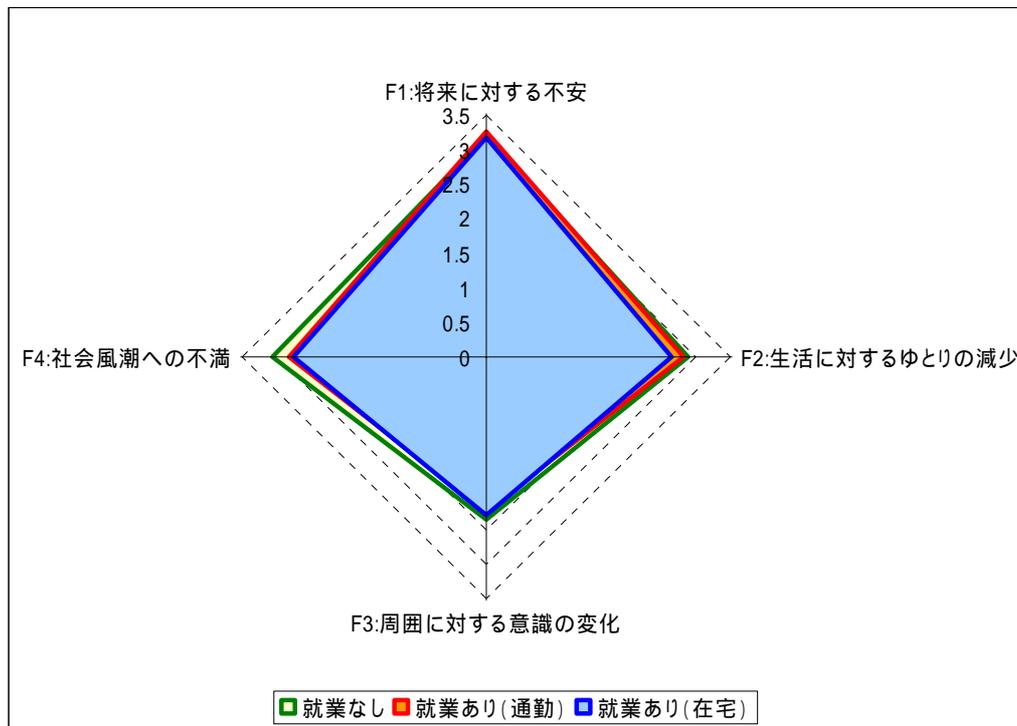


図 4 - 3 5 就労の有無別にみた傾向

- ・ 就業の有無による傾向の変化はほとんどみられない。
- ・ 「社会風潮への不満」に関して、就業なしと答えたものが若干強い意識を示している。この結果を得たのは、就業していないということに関して世間体の問題等の要因の影響があらわれているため、または、年齢制限が厳しい等、就業に対するハードルの高さが原因ではないかと考えられる。
- ・ 「生活に対するゆとり」に関して、就業あり（在宅）と答えたものがもっとも意識が弱い。

④配偶者の有無別にみた傾向

配偶者の有無別にみた素点の分析結果は下図のようになった。

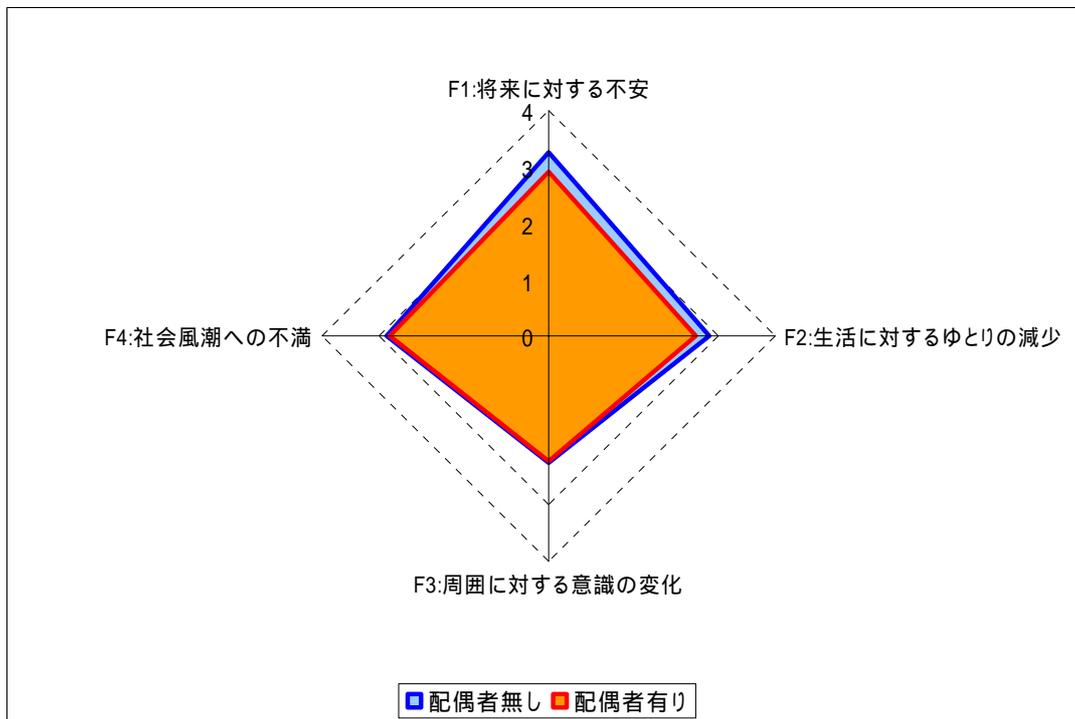


図 4 - 3 6 配偶者の有無別にみた傾向

- ・ 就業の有無による傾向の変化はほとんどみられない。
- ・ 「将来に対する不安の意識」「生活に対するゆとりの減少」は配偶者無しのほうが多少意識が強い。配偶者がいないことにより強いられる育児や労働の負担が大きいことから、このような結果を得たと考えられる。

(7) ひとり親世帯の母子世帯になって感じた重視点についてのまとめ

母子世帯になって感じた重視点に関して、以下に因子ごとにまとめを記載する。

- 全体的傾向
全体的に、配偶者の有無、生活満足度、就業の有無とも、ひとり親世帯について感じる4因子とは関連性が低い。
ひとり親世帯は老後や育児、労働に関する経済的負担の影響が大きいこと等から、「将来に対する不安」を強く意識しているが、「周囲に対する意識の変化」の意識度は低い。
- 将来に対する不安
ひとり親世帯の傾向として、意識度の最も高い項目である。逆に、配偶者のいる世帯や同居といったように、育児や労働の面で生活状況が安定しているほど意識度は低くなる。
- 生活に対するゆとりの減少
就業あり（在宅）と答えた者は意識が弱い。また、60歳代、配偶者有り、同居など、生活が安定している者ほど意識は弱い。
- 周囲に対する意識の変化
ひとり親世帯全体の傾向として意識度は低い項目であるが、母子世帯の場合は意識が強く、反対に同居しているものほど意識が弱い項目である。
育児や労働環境などにおける付き合いの変化により影響を受ける項目である。
- 社会的風潮への不満
ひとり親世帯全体の傾向として意識度の高い項目である。
世間体の問題の影響が大きく、就業の有無、離婚調停中である者ほど意識が高い。

4. 8 調査結果の考察

本アンケートの調査に関して、年齢層や年間の勤労収入等から、結果的に比較的年齢の高い、裕福な母子世帯が対象となった。

暮らしの実態に関しては、母子世帯の半数近くが暮らしに満足と回答しているにもかかわらず、配偶者のいる世帯が、暮らしに不満を感じていると回答をしている。

満足度の違いに関しては、詳細の把握が今後の課題である。

ひとり親世帯の母の就業状況に関しては、他の調査結果に比べて、就業率、特に正社員としての就業率が高い。勤労収入に関して、全国平均を大幅に上回っているのは、就業率の高さが要因と考えられる。

非就業者の就業をしていない理由として、自身に対する問題や、技術・スキルの不足を挙げており、仕事を始める動機として前述した問題の解決が上位にある。

在宅就労への意識に関しては、母子世帯のうち、4分の3が在宅就労に関心を示している。

関心の理由としては、時間的要素の強い項目が挙げられており、子育てなどで時間の都合がつかない母子世帯や、低所得の母子世帯が副収入源として、非常に関心を持っているのではないかと考えられる。また、在宅就労に対する不安として、金銭面に関する項目が上位を占めている。

母子世帯のパソコン保有率に関しては、長崎県内の実態調査に比べ、本調査での保有率が圧倒的に高い。本調査の対象者が児童扶養手当受給者に比べれば、比較的裕福な母子世帯であるためと考えられる。

パソコンに対する習得意欲は非常に高く、習得理由も仕事や就職・転職のためと回答した人が多かった。これは、母子世帯になって、将来に対する不安や、就職のための準備に強い傾向を示しているためだと考えられる。

[.謝辞]

本実態調査に協力していただいたNPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ、ハンド・イン・ハンドの会、札幌市母子寡婦福祉連合会、大阪府福祉人権センターヒューマインド、NPO法人Wink、NPO法人あごらの各団体および会員の皆様に深く感謝いたします。

5. 在宅就労の事例調査

5. 1 調査方法

(1) 調査対象

事例調査としては、以下の3つを取り上げた。

- ①NPO法人あごらの就業紹介を受けている母親（地図業務）
- ②NPO法人あごらの就業紹介を受けている母親（データエントリー業務60人）
- ③大阪地区にてNPO法人あごらが実施したキャリアアップ事業参加者（50名）

(2) 調査方法

NPO法人あごらから就業紹介を得ている母親に対しては、電話による面接ならびにメルマガ（eff）発行事務局に寄せられた意見などを集約した。

また大阪地区でのキャリアアップ事業参加者については就業支援の実施時での聞きとり、並びにアンケート調査とした。

(3) 調査期間

平成16年11月～平成17年3月

5. 2 NPO法人あごらの在宅就労者の事例（地図入力）

（1）地図入力技術の習得方法

NPO法人あごらでは、あごらの実施している技術研修講座に受講者に対する就業支援を行っている。技術研修の方法は、eラーニングを採用しており、修了までに約70時間を要する。

表5-1 地図講座カリキュラム

1	地図業務の内容	地図データエントリーとは
2	GIS入門	GIS基礎入門
3	入力操作の基礎	エントリー操作の基礎
4	地形図入力	地形地図データの基礎知識
		地形データ入力システムの基本操作 演習1
		地形データ入力システムの基本操作 演習2
5	水道地図入力	水道地図データの基礎知識
		水道データ入力システムの基本操作 演習1
		水道データ入力システムの基本操作 演習2
6	下水道地図入力	下水道地図データの基礎知識
		下水道データ入力システムの基本操作 演習1
		下水道データ入力システムの基本操作 演習2
7	ガス地図入力	ガス地図データの基礎知識
		ガスデータ入力システムの基本操作 演習1
		ガスデータ入力システムの基本操作 演習2

(2) 仕事の紹介方法

NPO法人あごらが2週間に一回発行しているメルマガ「e f f」にて下記のような要領で募集している。

WN04011 地図データ入力業務要員を募集します

ガス事業用マッピングシステムの地形図データの入力業務があります。
在宅で、入力作業を行ってくださる方を募集します。

< 募集要項 > (〃-〃)人(〃-〃)

- | | |
|--------------|--|
| 1.対象者 | 地図データ入力講座の合格者 |
| 2.人数 | 10名
(応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。) |
| 3.募集締切 | 11/24(水) 17:00
(11/26(金)頃、抽選結果をお知らせします。) |
| 4.作業開始 | 11/29(月)(予定) |
| 5.作業納期 | 12/10(金)
(この日までに入力した結果をアップロードしてください。
また入力結果によっては、データ修正をしていただく場合があります。) |
| 6.作業量 | B1版図面1枚/人(B1版図面10枚を当選者で分担)
(今回は、地形、家形などの入力です。場所によって地形の濃淡があるため図面により入力量に差が出る場合がありますが、割り当ては完全に無作為抽選にしますので、予めご了解下さい。) |
| 7.報酬 | 4,000円/枚 |
| 8.パソコン等の仕様条件 | この入力業務をスムーズに行うための推奨仕様です。下記の仕様未満の場合は種々の作業に時間がかかりすぎるなどの不具合が発生する可能性があることをご了解いただければ、ご応募いただいても結構です。 |

-
- | | |
|---------------|-----------------------|
| ・CPU | : PentiumII 300MHz 以上 |
| ・OS | : WINDOWS98 以上 |
| ・メモリ容量 | : 128MB 以上 |
| ・ハードディスクの空き容量 | : 100MB 以上 |
| ・画面解像度 | : 1024×768 以上 |
| ・通信回線スピード | : 64kbps 以上 |
-

なお、通信回線スピードが1Mbps未満の場合、入力ソフトをCD-Rに入れて郵送した方がよいので、CD-ROMの読取ができることを推奨します。

9. 注意事項 この入力業務を行う方には秘密保持(知りえた情報を外部に漏らさない)の誓約をしていただきます。
また本作業をお受けいただくにあたり、パソコン等の条件を満たしていない場合、不具合発生などのための作業不能により報酬を得ることが出来なくなることに對して事前に承諾していただくことになります。ご理解ください。
10. 応募方法 上記募集要項をよくお読みの上、エントリーページより応募をお願いいたします。なお、通信回線スピードが不明の場合、接続形態(ダイヤルアップ、ADSL、CATV 等)を目安にチェックしてください。

(3) 就業者の声

地図講座経験者ならびに地図入力業務経験者の声である。

技術研修の受講修了者からのメール

正直言って、あれだけのトレーニングでは収入に結びつく仕事をするにはまだまだ足りないのではと思います。さらなるステップを勉強したいし、もっと技術をブラッシュアップしたいです。独習をするには何かテキストとかはありますか？もしくはあごらの方で何か考えていらっしゃいますか？effでOJTに触れていましたが、具体的にはどういうものになるのでしょうか？仕事を発注していただく前に、この待機期間を有効に使って、もう少し勉強しておきたいです。

地図入力の在宅業務を納品した人からのメール

私の入力作業の感想は「納期に間に合ってたよかったです。eラーニングで学習したものより簡単に入力できるソフトであることは確かでしたが、突然「ちがうソフトで入力してください」はかなりショックでした。入力方法を理解するまでにかなり時間がかかり、しかも入力作業が夜間だったので、疑問点が出てきた場合、メールで質問して、回答を確認できるのがその次の夜、ということで問題解決に時間がかかることが難点でした。ということで、始めのうちは少々パニック気味で、くだらない質問も何度かしてしまいましたが、丁寧に答えてくださった事務局の方にはホントに感謝しています。入力操作自体は簡単なので、理解してしまえばどんどん作業も進み、どうにか納期に間に合いました。性格的に向いている作業なので、これからもたくさんのお仕事が来ることを期待しています。

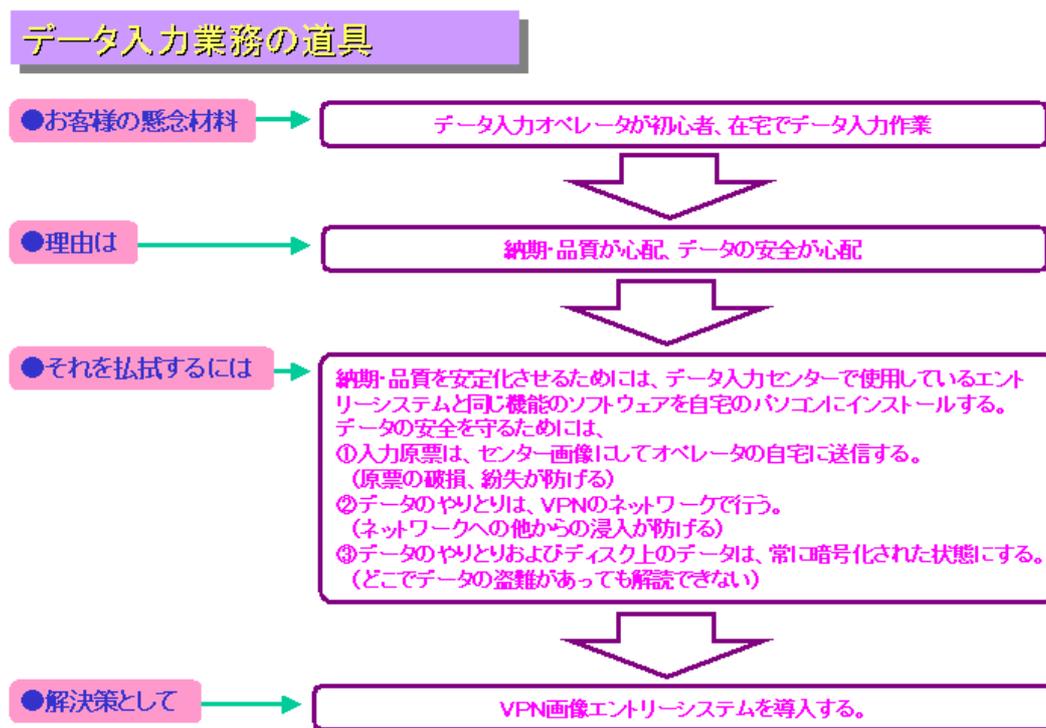
地図入力の在宅ワーカーからのメール

初めての在宅の地図入力ということで、果たして大丈夫かしらという思いがとても強くありました。パソコンを使うのが、慣れているほうではなかったもので、1人でやっているととても不安になりました。無事？納品することができたときは、とてもほっとしましたが、デモ、納品を終えても自分の作成した地図の入力の状態がとても気になっています。これからの為にも修正箇所を教えていただければと思っていたのですが、とても残念です。いろいろ親切にご指導いただいて本当にありがとう

5. 3 VPN画像エントリーシステムでの在宅データエントリー事例

(1) VPN画像エントリーシステムとは

データエントリー業界では、以前から在宅オペレータによるデータエントリーが行われていた。しかしながら、業務を委託する企業からすると在宅入力に対する不信感が根強い。特にこの事例では、母子家庭の母親でしかもデータエントリー初心者を対象にしたプロジェクトなので、納期、品質、データの安全などが懸念材料となっている。



1

図5-1 VPN画像エントリーを導入する意義

それらの懸念材料を払拭するには、ソフトウェア面とデータ移送の方法に工夫が必要である。

① データエントリーマシンと同じ事ができるソフトウェア

データエントリーは、通常、専用のマシンで入力する。専用マシンには、早く、正確に入力する工夫がなされている。パソコンでのWORD、EXCELでの入力では、入力する人によって結果が違ってくるのがほとんどである。専用のマシンは、誤入力以外は、同じ結果が実現できる。VPN画像エントリーシステムでは、自宅のパソコンでデータエントリー専用マシンと同じ機能が実現できる。プロのデータエントリー・オペレータも使用できる環境になっている。習熟度が増せばセンターと同様の生産性を上げることができる。

② 入力原票は、スキャニング画像

入力原票を見ながら入力する場合は、在宅のオペレータに入力原票を引き取りに来てもらわなければならない。自宅につくまでの間や自宅での安全性が100%とはいえない。そのような危険性を回避するために入力原票は、スキャニングして画像にしネットワークで送付する方法をとっている。この方法により、入力原票に輸送がなくなり、破損や紛失の危険がなくなっている。オペレータは、画像を見ながら入力する。

③ インターネットVPNによるデータ送受信

VPNとは、多くのユーザーによって利用されるネットワークを用いながら、それがあたかも専用回線であるかのように利用できるサービスや、このサービスを実現するための技術のことで、分割されたデータを暗号化するなど、第三者にはわからない形態へ変更し暗号化することで、万が一盗聴されたとしても、情報自体が漏洩する可能性が低くなる。ファイヤーウォールやウイルス駆除ソフトも含まれている。センター側は、ハードウェアVPNを採用。オペレータ側は、費用がかからないソフトウェアVPNを採用している。

④ 送受信データの暗号化

センターとオペレータのデータのやり取りは、入力原票画像も成果物であるデータも暗号化されていてデータエントリーシステムでしか表示することができない。外部にデータを取り出すことが不可能な仕組みになっている。

VPN画像エントリーシステムとは？

下图は、最終的に目標とする姿です。
それぞれの機能をご覧下さい。
最小限の機能から順次機能を整えていく予定です。

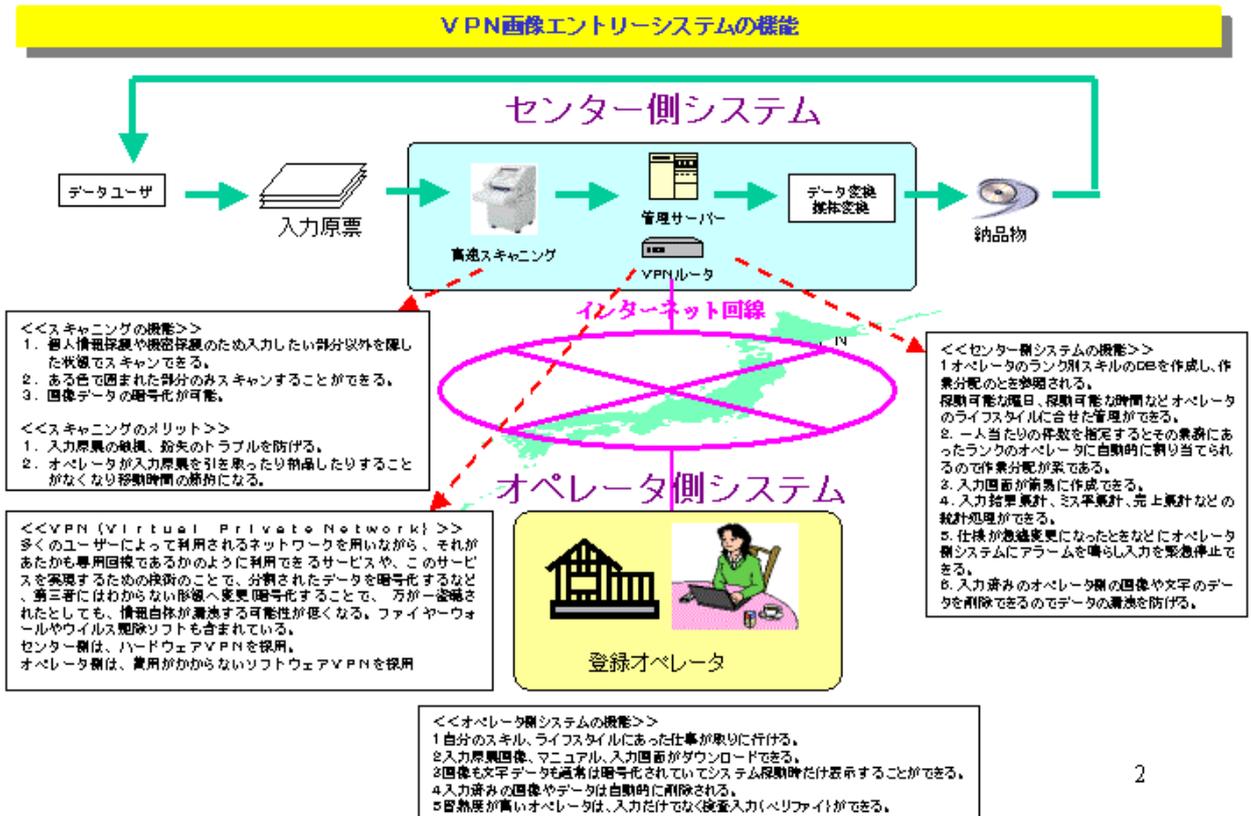


図 5 - 2 VPN画像エントリーシステムの仕組み

(2) 仕事の紹介方法

①早いもの勝ち方式

仕事の発注は、あごらデータセンターの中のVPNサーバから自分で行いたいジョブを選ぶという仕組みになっている。

データエントリーの作業単位はバッチという。VPN画像エントリーシステムでは、オペレータにネットワークで仕事を取りに来てもらう仕組みになっている。作業開始の連絡は、Eメールや電話で行うが、業務を開始するにあたっては、VPNネットワークを接続して、一覧表示されているバッチを早いもの勝ちで受信できる。業務の進捗が上がれば上がるほど収入が得られる。

データ入力オペレータの育成は、サンプル画像で入力させて管理者が実業務に対応できると判断した人から仕事を始めてもらう方式をとっている。

②加入オペレータ数

現在、100名のオペレータが登録されているが6ヶ月で58名が業務を開始している。

(3) あごらデータセンターの実績

平成17年2月を例にとって、あごらデータセンターの実績を示す。

①支払額ランキング

あごらデータセンター入力実務経験1年以上の熟練者

<<支払額上位10名>>

1. ¥300,430
2. ¥285,474
3. ¥275,200
4. ¥259,229
5. ¥242,171
6. ¥176,991
7. ¥157,665
8. ¥148,377
9. ¥129,729
10. ¥110,426

あごらデータセンター入力実務経験の無い初心者

<<支払額上位10名>>

1. ¥28,140
2. ¥27,877
3. ¥21,538
4. ¥19,896
5. ¥13,213
6. ¥11,880
7. ¥8,370
8. ¥7,857
9. ¥7,582
10. ¥7,522

②データセンター支払い総額

2005年2月度 ¥3,365,962
2005年1月度 ¥2,877,708
2004年12月度 ¥2,329,888

③「あごらデータセンター」サポート体制

A.あごら会員の状況

1.データ入力業務希望者数	=98名
2.VPNシステムインストール完了者数	=69名
2.本番稼動中	=30名
3.本番データ練習段階	=35名
4.練習用データ練習段階	=4名
5.VPNシステム未インストール者数	=22名
-インストール作業サポート継続中	=14名
-インストール作業困難にてクレーム	=1名
-連絡とれず	=1名
-VPNシステム返却希望	=2名
-その他	=4名
6.VPNシステム返却済み	=7名

B.サポート体制

1.データセンタースタッフ	=3名
2.VPNシステムメーカーからの支援スタッフ	=2名
3.入力検証作業オペレータ(専任)	=1名

※上記のサポート要員が、日常業務の支援作業及びVPNシステムインストール作業のサポートを、メールと電話を利用した形で行っている。

C.2005年2月現在、本番データの入力を行っている業務

- 1.C社通信販売申込書データ入力業務
- 2.TD社公立中学校教育データ入力業務
- 3.TD社公立小学校教育データ入力業務
- 4.NS社契約書データ入力業務
- 5.AT社交通量・歩道橋データ入力業務
- 6.NK社ナンバープレートデータ入力業務
- 7.DG社アンケートデータ入力業務

D.2005年3月以降追加予定業務

- 1.S社通信販売申込書データ入力業務
- 2.C社通信販売カタログ請求データ入力業務
- 3.S出版コミック読者カードデータ入力業務
- 4.H財団慰労金請求書データ入力業務

(2005年3月120,000件以上予定)

5. 4 母子家庭の就労を支援するキャリアアップモデルの適用事例

(1) キャリアアップモデルとは

キャリアアップモデルの詳細は次章にて記述するが、概略以下のようなモデルである。

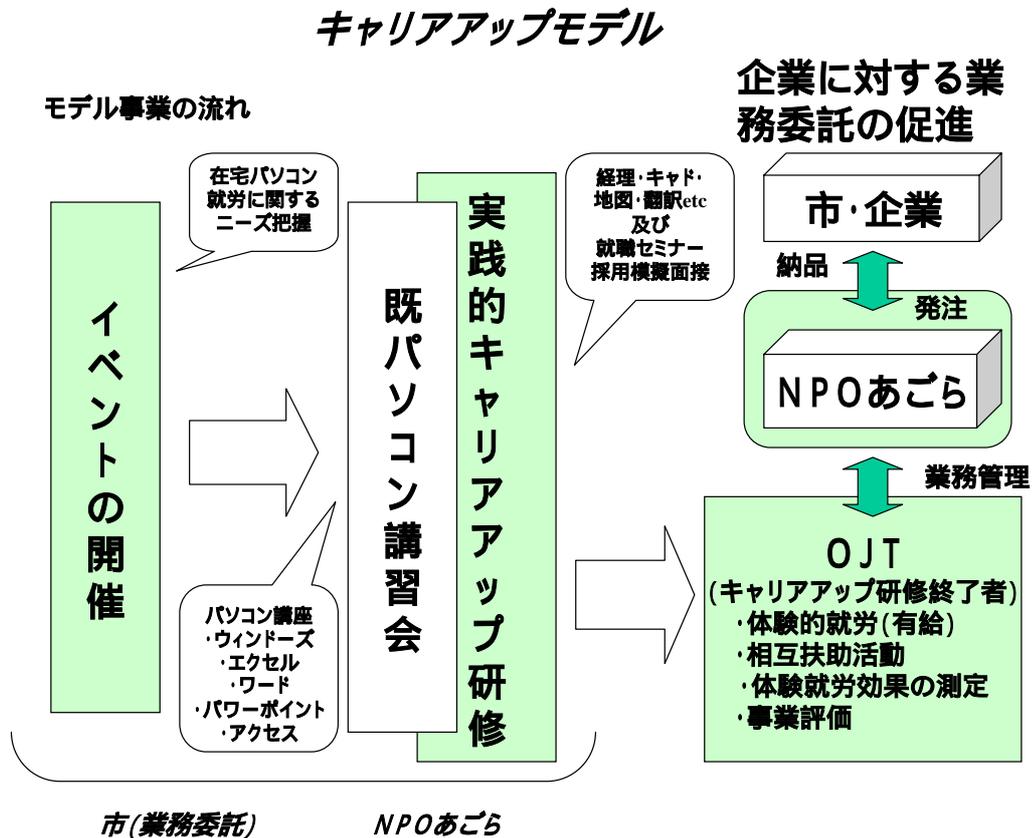


図5-3 キャリアアップモデルの概要

このモデルを、本年度は大阪府貝塚市と川西市に適用し、そこでの実態調査を事例とした。

(2) 貝塚市キャリアアップモデルの評価

①母子家庭世帯ニーズ

キャリアアップモデルの最初のフェーズにおける母子世帯ニーズについて、「キャリアアップ講習会事前アンケート」の結果をもとに、就業に対するニーズ、パソコン操作技術に関するニーズなどを評価考察した。

本アンケートは、貝塚市に在住する母子家庭世帯に対し、2004年8月の現況届けの際に行ったアンケート結果を基とする。調査数は640世帯となっている。

調査対象者の就業状況としては、全体の83%が「就業している」と答えており、「就業していない」は16%、「無回答」は1%という結果となっている。また、「就業している」と答えた人の従業上の地位については、以下のグラフのとおりとなっている。働いている人の27.3%が正社員及び正規職員として雇用されており、61%がパートまたはアルバイトとして就業している結果であった。

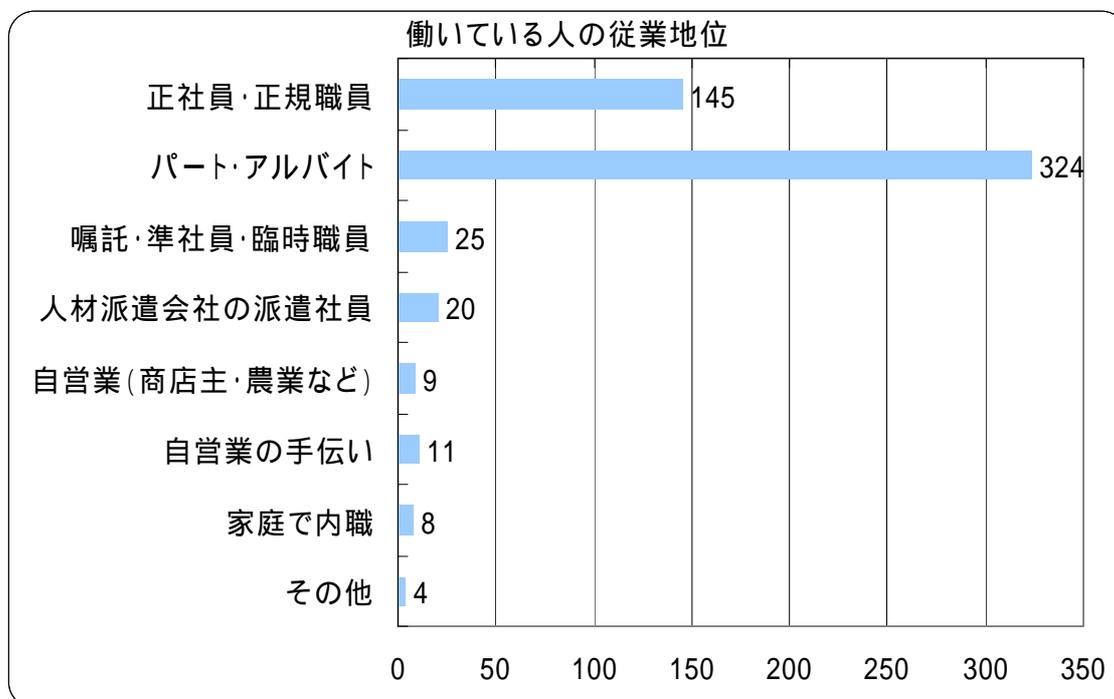


図5-4 従業上の地位 (貝塚市)

また、現在「就業している」と答えた人のうち、53%は「現在の仕事を続けたい」と回答しており、「仕事を变えたい」・「仕事を辞めたい」と答えた人は、28%の水準となっていた。母子世帯にとって「仕事を続ける」、「変える」、「辞める」の就業の継続や変化を起こす理由としては、「厚生年金や雇用保険に入れる」ことを理由としてあげる人が33.2%と最も多く、続いて「通勤時間が短い」、「休暇が取り安い」など就業にかかる時間に対する理由が高い結果となっている。

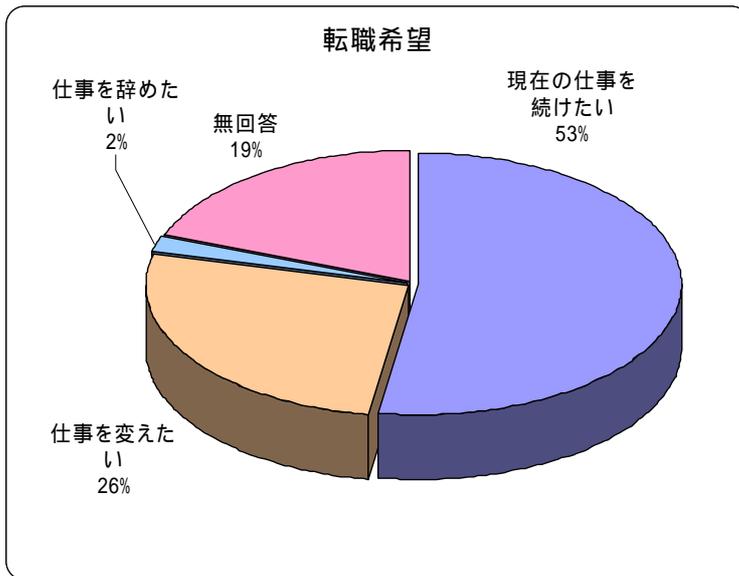


図 5 - 5 就職希望 (貝塚市)

就業へのスキルアップとしてパソコン操作をどのように考えているかという質問に対しては、「転職や再就職のために使えるようになりたい」と答えた人が31%、「使えるようになりたい」と答えた人が27%となり、「今後転職や再就職をする」、「今働いている仕事の中で職域を広げる」など仕事としてのパソコン操作への関心は全体の58%と半数以上が持っているニーズであることが分かる。

パソコンの保有状況については、「ネットに接続されたパソコンを保有している」と答えた人が全体25%であり、「ネットに接続していないがパソコンは保有している」と答えた人と合わせると36%がパソコンを保有していた。

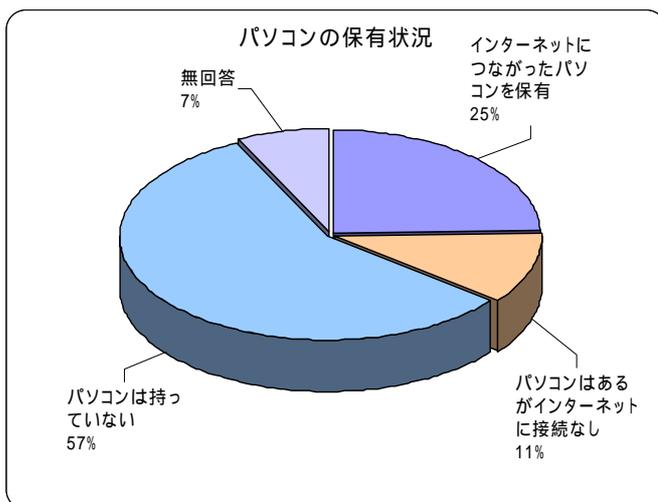


図 5 - 6 パソコンの保有状況 (貝塚市)

②パソコン講習会に対するニーズ

キャリアアップ講習会の受講者を対象に、パソコン操作及び講習会に対するニーズを調べたアンケートをもとに、現状での潜在ニーズについてまとめる。

キャリアアップ講習会を受講した56名のうち、83%は自宅にパソコンを保有していると答えている。このことから、キャリアアップ講習会などを就業に役立たせる目的として講習会を受講する人は、高い比率でパソコンを保有していることがわかる。

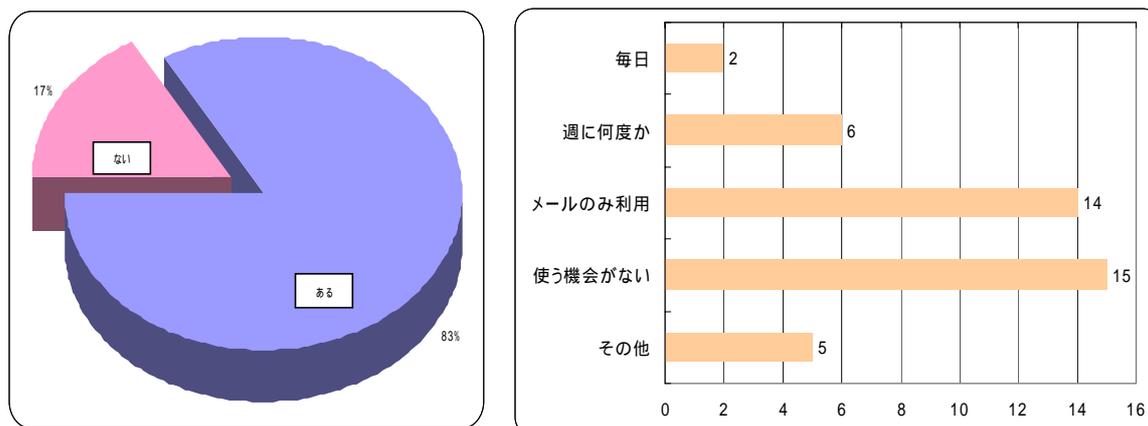


図5-7 パソコン保有状況 (貝塚市)

また、受講者のパソコンに接する頻度について質問した結果を見ると、「何らかの形で毎日パソコンを使っている」と答えた人は全体の3%であり、「週に何度か使っている」・「メールのみ使っている」と答えた人は全体の35.7%であった。

講習会への要望として自由記入形式で質問したところ、「仕事としてのパソコン操作を身につけたい」、「趣味・日常生活の中でのパソコン操作を身につけたい」、「基礎的なパソコン操作を身につけたい」の3グループに大別される傾向があらわれた(表)。

要望・意見	
仕事としてのパソコン操作を身につけたい	<ul style="list-style-type: none"> 会計報告書や案内文等を作成できるようになりたい。 事務職に就くために必要なパソコン操作を身につけたい 現在のデータ入力の仕事だけでなく、幅広い業務がこなせるようパソコン操作を身につけたい
趣味・日常生活の中でのパソコン操作を身につけたい	<ul style="list-style-type: none"> デジカメで写した画像をメールで送信できるようになりたい 圧縮・解凍についての知識を身につけたい。特にダウンロードしたファイルの開き方を覚えたい。
基礎的なパソコン操作を身につけたい	<ul style="list-style-type: none"> 頻繁にパソコンに接することができるようになりたい ワードやエクセルの使い方を身につけたい

③キャリアアップ講習会の評価

キャリアアップ講習会終了後に受講者に答えてもらったアンケート結果をもとに、キャリアアップ講習会の評価について考察する。

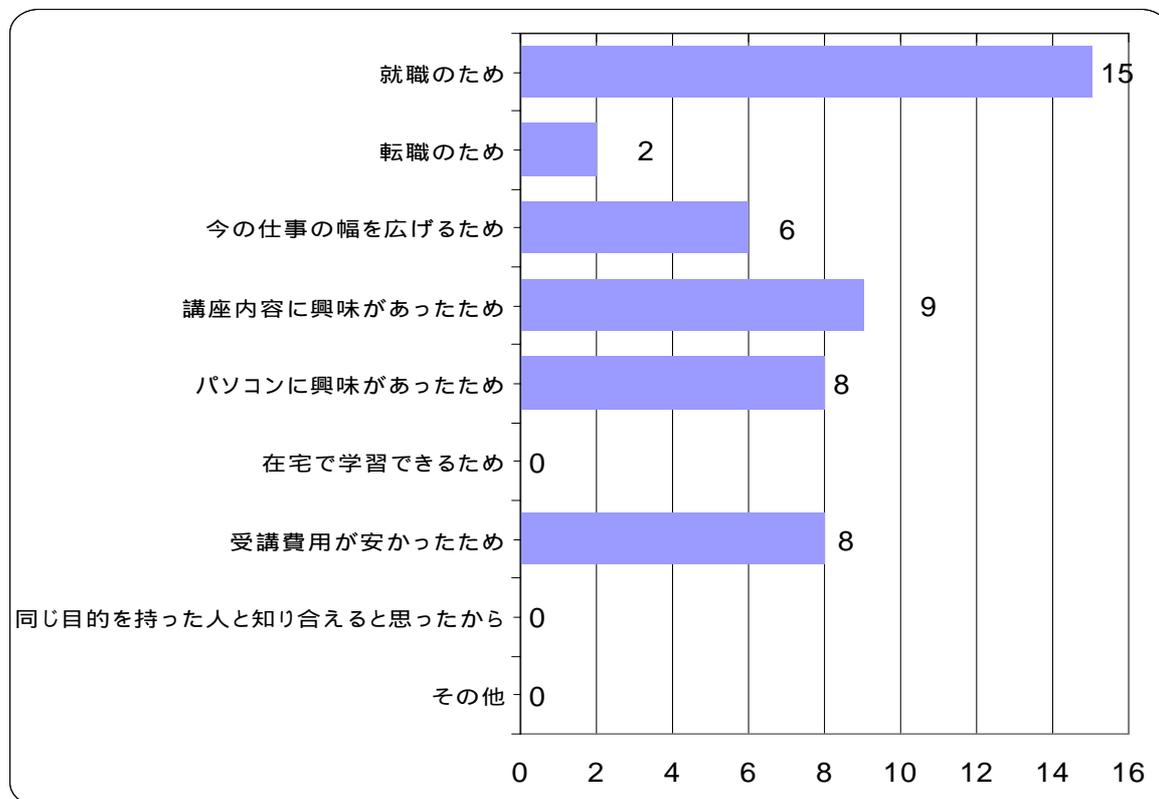


図5-8 講習会の評価（貝塚市）

キャリアアップ講習会を受講する目的については、「就職・転職のため」と答えた人が17人であり全体の30.4%であった。また、「今の仕事の幅を広げるため」と答えた人が6人であり、就業に関連する目的から受講した人は全体の41.1%という結果であった。その他の目的としては、講座内容に興味がある、パソコンに興味があると答えた人が全体の30%を占め、受講費用が安いからと答えた人も14.3%いた。

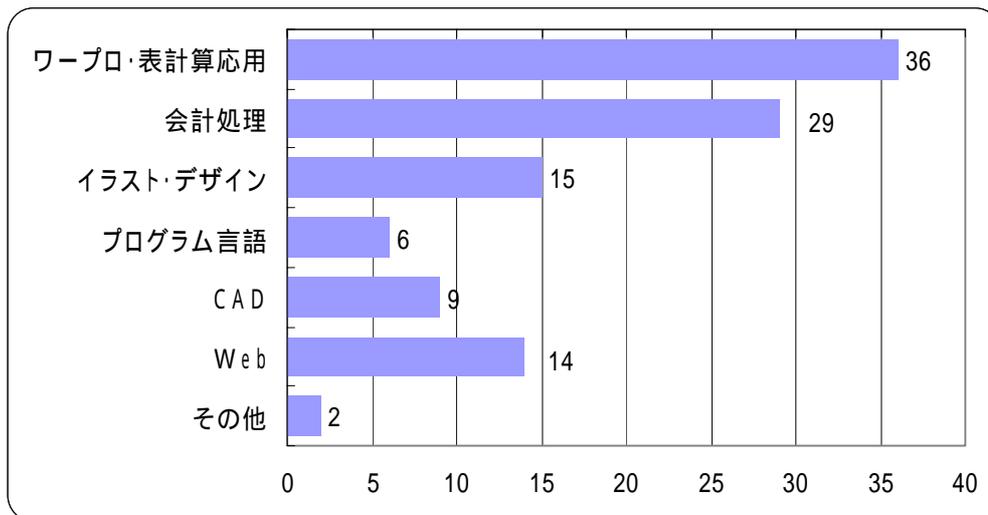


図5-9 講習会选择する場合のポイント（貝塚市）

就職のための講習会选择の際のポイントとしては、「受講費用」と答えた人が35.7%と最も高く、「就職のための必要性」と答えた人が28.5%という結果であった。また、就業とパソコン操作の関係については、ワープロ・表計算ソフトの応用操作を身につけたいと考える人が64.2%であり、会計処理を身につけたいと答えた人も51.7%いた。これらの結果から、貝塚市でのキャリアアップモデルの実証では、事務系職種を希望することで講習会を受講した人の比率が高いことがわかる。他方で、イラストやデザイン・CAD・WEBなど、現状での求人要件の中で収入面が優遇されているパソコンスキルへの関心も高く、講習会の受講費用さえ低額であればすぐにも受講したいといったニーズがあることがわかった。

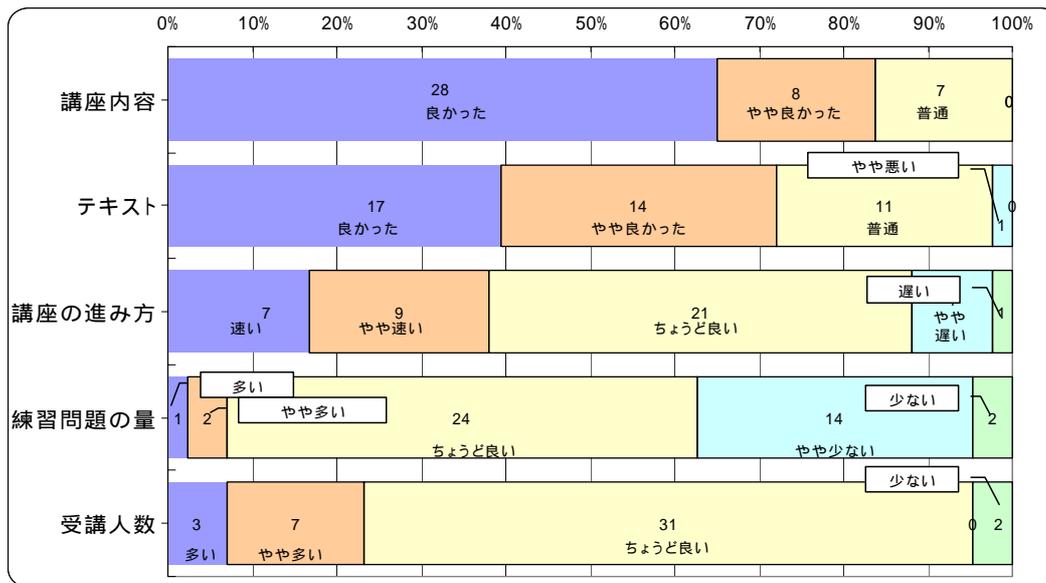


図5-10 講習会に対する質問（貝塚市）

キャリアアップ講習会の講習内容・教え方に関する質問に対しては、上のグラフのような回答結果であった。

実務に沿ったパソコン操作を身につけることを主眼として、「業務支持」→「情報収集」→「情報整理」→「資料の作成」→「報告」といった一連の流れを盛り込んだ講座内容については、全体の50%が「良かった」と答えており、「やや良かった」を合わせると64.3%の受講者からの評価を得ることができた。

講座内容に照らしたテキストへの評価としては、全体の55%が良かったまたはやや良かったと答えており、テキストの説明箇所の不足、受講内容を復習するに当たっての不備が不満の内訳であった。

講座の進み方については、全体の37.5%が「丁度良い」と答えており、「早い・ややはやい」と答えた人は28.5%、「やや遅い・遅い」と答えた人は9%という結果であった。講座の進み方については、講座開始時の各人のパソコンスキルが均一でなかったため、基本的なパソコン操作に慣れていない人は講座のスピードが速いと答え、既にある程度のパソコン操作が身につけている人は講座のスピードが遅いと答える傾向が見られた。

練習問題の量及び1回の講習会における受講人数に関する質問では、半数の受講者が丁度良いと答えたものの、上述の質問項目同様に、初期段階での各人のパソコン操作スキルによって受講者の数や練習問題の量が多い／少ないと感じる傾向があることがわかった。

キャリアアップ講座のような、就業のためのスキルを身につける講座を今後も受講していきたいですかとの質問にたいしては、すべての受講者から受講したいとの回答を得ることができた。このことから、費用が低額であれば、就業の為にスキルを身につける講習会へは参加したいニーズがあり、より実践的な講習会であれば何度も参加して自身のスキルアップにつなげたいと考えていることがわかった。

キャリアアップ講習会に対する事由記入式の意見・要望を取ったところ、次のような意見が寄せられた。

【パソコンアレルギーの軽減】

- 今までパソコンは” わけが分からなくてこわいもの” でしたが、” 便利で楽しい” ものにかわりました。講習会で教えて頂いたことが一人でできるかどうか不安ですが、パソコンに触れる機会をどんどん増やして行きたいと思います。
- 難しいことが多く、ついていくのが大変でしたが4日間無事受講することが出来ました。これからは、復習しながら身に付けたく思います。
- まず基本から教えてもらったので、無理なく受講できてよかったです。少人数のほうが教えてもらう機会がより多くなるので夜間コースの方が結果的には良かったと思います。
- メールとインターネットしかパソコンをしたことがなくてエクセルやワードも覚えたいとずっと思っていたのですが、自分で学習する方法が分からなかったのもとても良かったです。子供がいるので、なかなか一人で出かけられないのですが実務トレーニングも、絶対参加したいです。

【就業へ向けてのキャリアアップ】

- 気軽に質問できる雰囲気よかったです。パワーポイントは初めてで、エクセル、ワードは少しできる状態でしたが、少し自分の中で知識が整理できました。
- すごく初歩のことから始まるのかとっていて受講してみると興味がわきそうな所から始まったのもとても楽しく、パソコンのおもしろさを覚えて帰る事ができたのもとても良かった。忘れない前にパソコンにもっと慣れたいと思います。
- 今回の講座のステップアップ講座があれば受講したいです。一人一人の質問に丁寧に答えて下さってあいがとうございました。とても役に立ちました。
- まだ、実務講座を受けてないので、実務に就くにはどのようなことが必要なのか良く分かりませんが、4日間楽しく受講させて頂きました。気軽に質問できる雰囲気よかったです。パワーポイントは初めてで、エクセル、ワードは少しできる状態でしたが、少し自分の中で知識が整理できました。

上記の、「パソコンアレルギーの軽減」や「就業へ向けてのキャリアアップ」に対するニーズ以外にも、「今回の講習会で学んだ内容を再度復習できるテキストや方法があれば教えてください」など、更なるステップアップを図りたい方からの意見も見られた。

④実務トレーニングの評価

キャリアアップ講習会を受講した人を対象に、講習会の延長戦として位置づけた実務トレーニングを実施した。実務トレーニングでは、市より提供してもらったアンケート（640部）をEXCELに入力する電子化作業を実施した。作業には、入力及びチェックの対価として「¥100/枚」を支払い、パソコンでのデータ入力業務の実践トレーニングの形式を取った。

実務トレーニングに参加した受講者からのアンケート結果をもとに、キャリアアップモデルにおける実務トレーニングの評価についてまとめる。

実務トレーニングに参加した人のキャリアアップ講習会のコース別の比率は下のグラフのとおりであった。

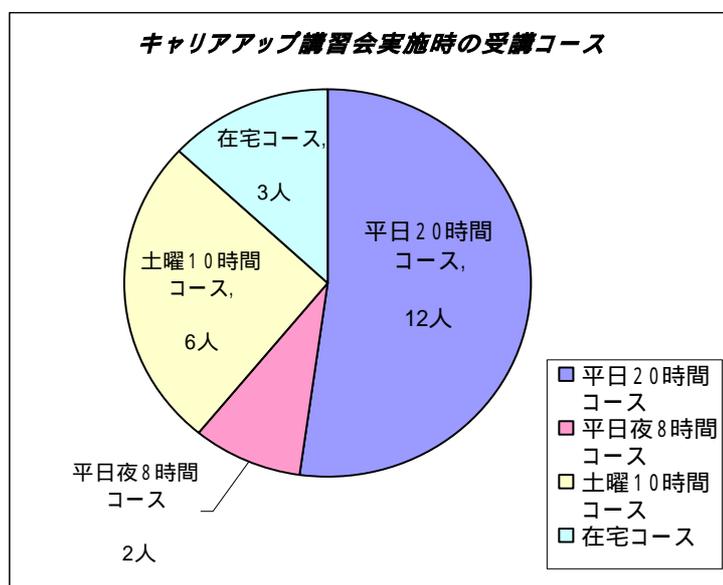


図5-11 キャリアアップ講習会のコース別の比率

各コースともに受講者の45%以上が実務トレーニングに参加している。在宅コースにおいては、受講者の60%が実務トレーニングに参加しており、在宅で学習したことをインストラクターと接することで確認したい（在宅コースでは講習会と違い自宅でテキストを見ながら一人で実施している為、講習会受講者よりも講座終了後の実践の場が必要と考えている人が多いと思われる）というニーズがあらわれている。

実務トレーニングの作業レベルについての質問では、参加者の約半数が「丁度良い操作レベル」であると回答しており、残りの40%は「操作のレベル的には簡単」若しくは「少し簡単」であると答えている。キャリアアップ講習会の講座内容にあわせ、一般的なデータ入力業務より「事前の説明」「ファイル操作の簡略化」を図ったため、当初の意図したとおりキャリアアップモデルの流れに沿った実務トレーニング内容であるとの結果が得られた。

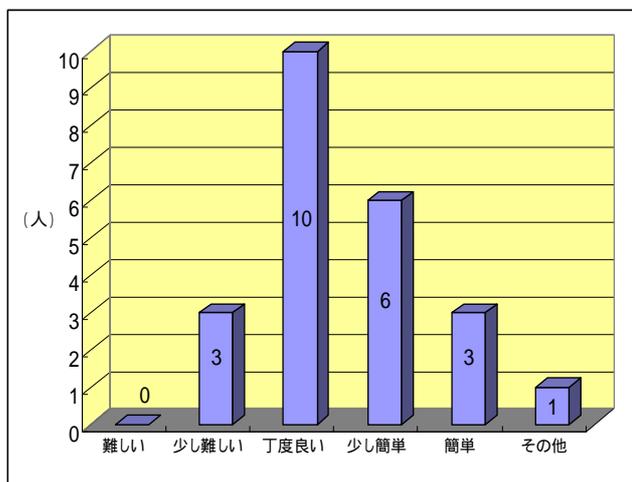


図5-12 実務トレーニングのレベル

「キャリアアップ講座後にこのような実務トレーニングを受けてどのように感じましたか」との質問に対しては、大半の受講者が「キャリアアップ講座終了後に実務トレーニングを受講することで、実務経験が積めてよかった」と回答しており、講座受講後のフォローアップとして実務トレーニングが大きな役割を果たしているとの評価が得られた。

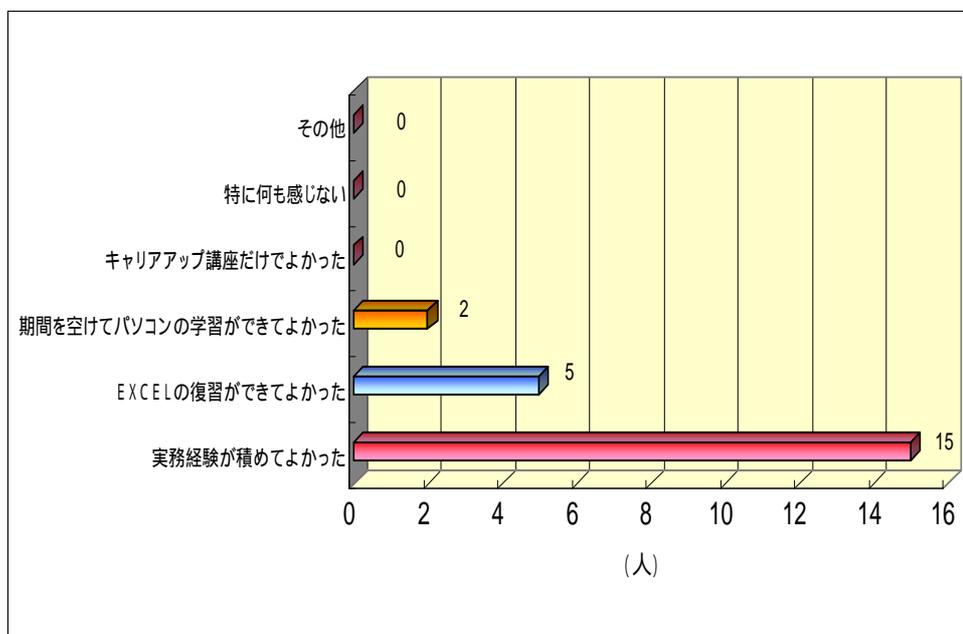


図5-13 実務トレーニングの印象

「キャリアアップ講座と実務トレーニングを通して受講してどのようなものを得ることができましたか」という質問に対しては、受講者の半数以上が「パソコンが身近になった」と回答しており、講座受講後に当初よりもパソコンに対する抵抗感を感じなくなる変化がみられた。また、26%の受講者が「自信を持てるようになった」と答えており、全体的にみると80%の受講者に対して良い意味でのパソコンに対する意識改革を図ることができたといえる。

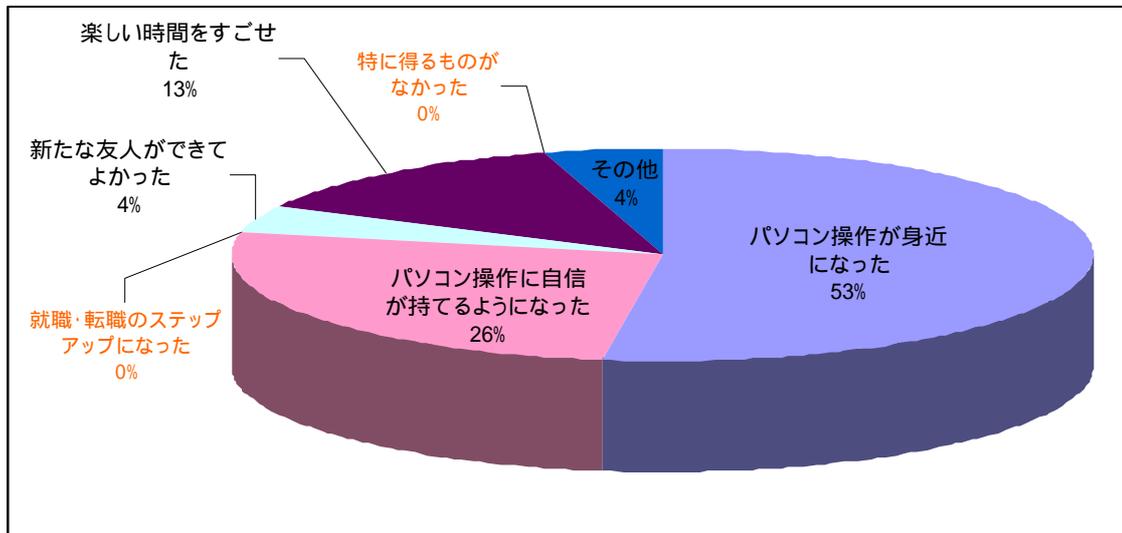


図5-14 受講から得たもの（貝塚市）

他方で、「同じ目的を持った友人が出来た」などパソコン操作などの技術面以外にも得るものがあり、自信がつくと同時に楽しく講座を受講することが出来たと感じる受講者の比率が高く、就業への助言や生活全般での相談など精神面で支えあうことができるネットワーク作りにもキャリアアップモデルが寄与していることがわかった。

「就職・転職のために今後どのような催し物があれば参加してみようと思いますか」という質問に対しては、全体の84%が就職のための資格・パソコン操作の講座を受講したいと答えており、就業のための自身のスキルアップへのニーズが継続的にあることがわかる。回答はキャリアアップ講座の上級版とパソコン以外の資格講座が大半を占めており、就職・転職のために資格の取得や技術を身につけたいといったニーズを汲み取ることが出来る。同時に就職・転職セミナーの実施へのニーズもあり、資格だけでなく、就職・転職の仕方についてもフォローアップすることが就業支援のなかで求められているといえる。

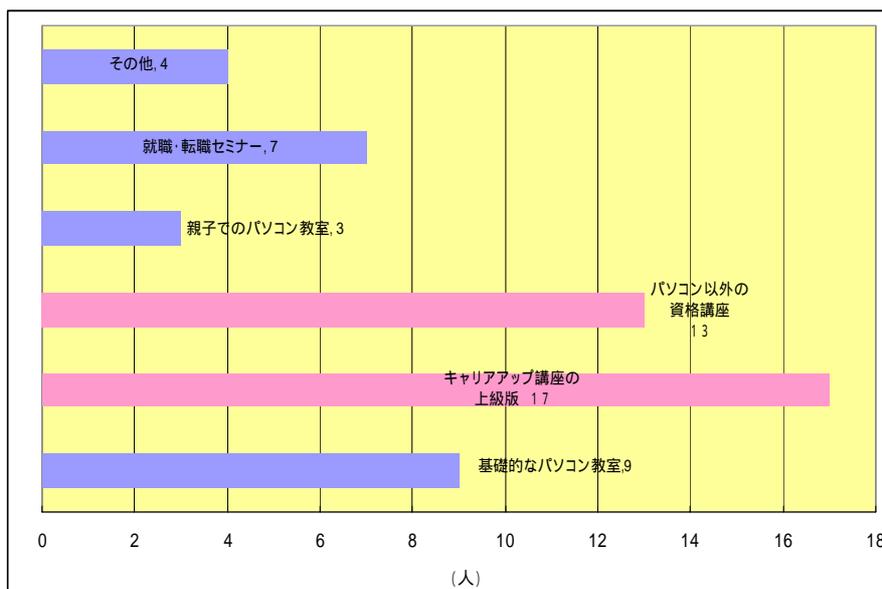


図5-15 就職・転職のために身につけたいもの（貝塚市）

実務トレーニングに対する自由記入式の意見から、参加者の就業に対するニーズをみると、パソコンを使った具体的な業務が経験できてためになった、キャリアアップ講習会で受けた内容を再確認できたなど就業へ向けての前向きな意見が得られた。

- 「最後には報酬を頂くことができうれしくもあり、いいのだろうかと少々不安も感じながら実務トレーニングを受けました。こんな形のお仕事が定期的であればもっと自分もステップアップができ、心にもゆとりができるのにと考えた。」
- 「実務トレーニングのような講座の受講をしたいのでこれからも続けていきたいと思う。」
- 「実務トレーニングで作業に対する給与のようなものをもらえたことで、働く喜びを再び実感できつつある自分を感じた。できれば仕事につなげていきたい。就労支援もしてほしい。」
- 「今まではメールとインターネットくらいしか触ったことがなく、エクセルもワードも初めてだったがとても分かりやすく楽しかった。子供がまだ小さいので働きたい（上の子は大きくてお金がかかる）のだがまだ外に働きに出られない。在宅でパソコン入力などの仕事はどうやって見つけるのか良ければ教えてほしい。」

(3) 川西市キャリアアップモデルの評価

①母子世帯のパソコン講習会に対するニーズ

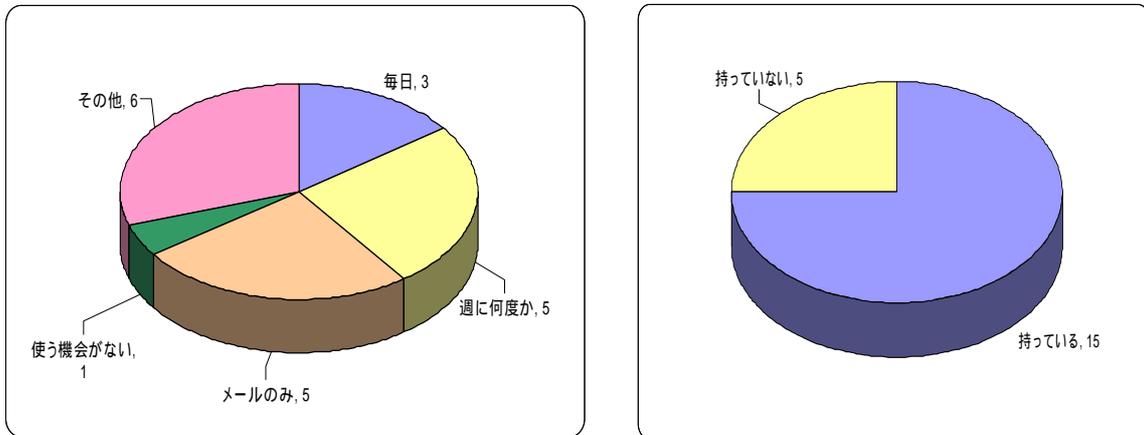


図 5 - 1 6 講習会に対するニーズ (川西市)

川西市でのキャリアアップモデルの実証において、講習会の事前アンケートの結果から母子世帯の就業に対する講習会への潜在ニーズについてまとめる。受講者の40%は「頻繁にパソコンを利用している」と答えており、キャリアアップ講習会の趣旨と合致したセグメントであることがわかる。他方で、受講者の35%は「ほとんどパソコンを触ったことがない」と答えており、パソコン初心者のセグメントに当たりキャリアアップ講習会の内容では若干ハードルが高いことがわかる。母子世帯の自宅でのパソコン保有率は75%となっており、パソコンの利用操作方法を学ぶキャリアアップ講習会を受講する層はパソコンの保有率が高いことがわかる。

自由記入式の要望からは、以下のニーズが明らかになった。

【パソコンの基本操作に対するニーズ】

- パソコンを買ったばかりで分からないことが多く今日勉強して知識を向上させたいです。
- 家でパソコンをしているとき、「パソコンが動かなくなる」、「変な文字が出てくる」、「起動しなくなる」、「データが消えてしまう」などが起きた際、壊れたのかコンピューターウイルスにやられたのか何が原因か分からないので、そういうときの対処法を教えていただきたいです。
- 今まで全くパソコンに触れたことがないのでまず慣れることが出来たらと考えています。
- 全くの無知識なので、これを機に幅を広げてこれからの先の為に自分のキャリアにむすべたらいいなと思っています。

【高度なキャリアアップへのニーズ】

- より専門的な講座（CAD）も受けたいです。
- 決まった操作（打ち込みのみ）だけでなく、イメージした形を表せるようになりたいと思っています。

②キャリアアップ講習会の評価

川西市のキャリアアップ講習会を受講した受講者を対象に、就業・転職に対する意識、パソコンの操作など就職の為に身につけたいスキルを質問したアンケート結果をもとに、母子世帯がキャリアアップモデルをどのように評価しているかをまとめる。

キャリアアップ講習会を受講した理由は、「就職・転職のため」と答えた人が全体の23.1%であり、「今の仕事を広げるため」、「講座内容に興味があったため」を含めた就業のために受講したと答えた人は全体の57.7%であった。その他の理由としては、「パソコン操作を身につけたい」や「受講費用が安い」などの理由が高い比率となっている。

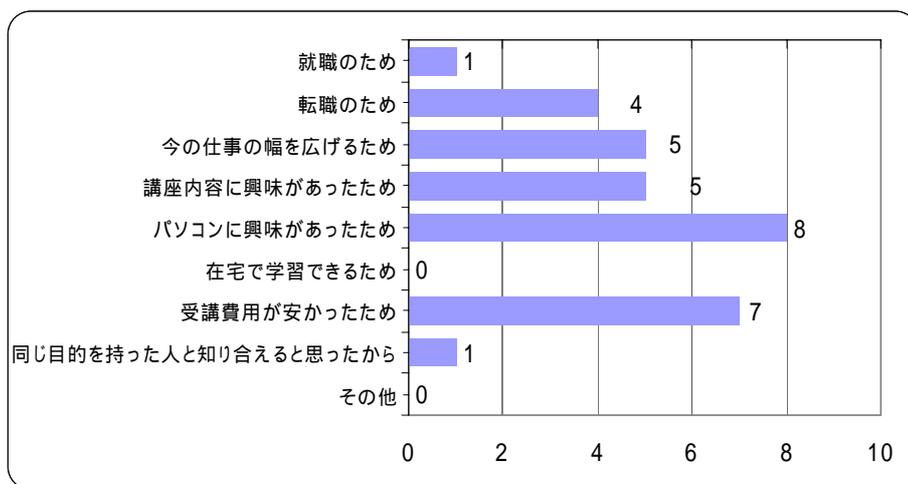


図5-17 受講理由（川西市）

今後身につけたいパソコン操作についての質問では、事務職系のパソコン操作スキルを身につけたいと答えた人が73.1%、Webなどのデザイン系のスキルを身につけたいと答えた人が65.3%いた。

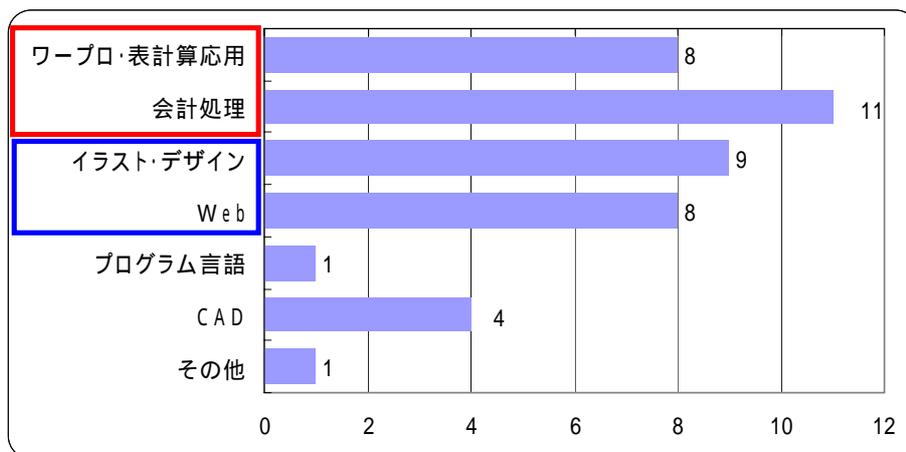


図5-18 講習会を選ぶ場合のポイント（川西市）

キャリアアップ講習会の講習内容・教え方に関する質問に対しては、下のグラフのような回答結果であった。

貝塚市でのキャリアアップ講習会と比較して、受講者の初期段階でのパソコン操作になれない層の比率が高かったため、講座の進み方や練習問題の量において「ハードルが高い」、「なかなかついていけなかった」と答える人の割合が多くなっている。

講座の内容に対しては、全体の70%が「良かった」または「やや良かった」と答えており、全体的に見てキャリアアップ講習会の内容への満足度は高い結果が得られている。

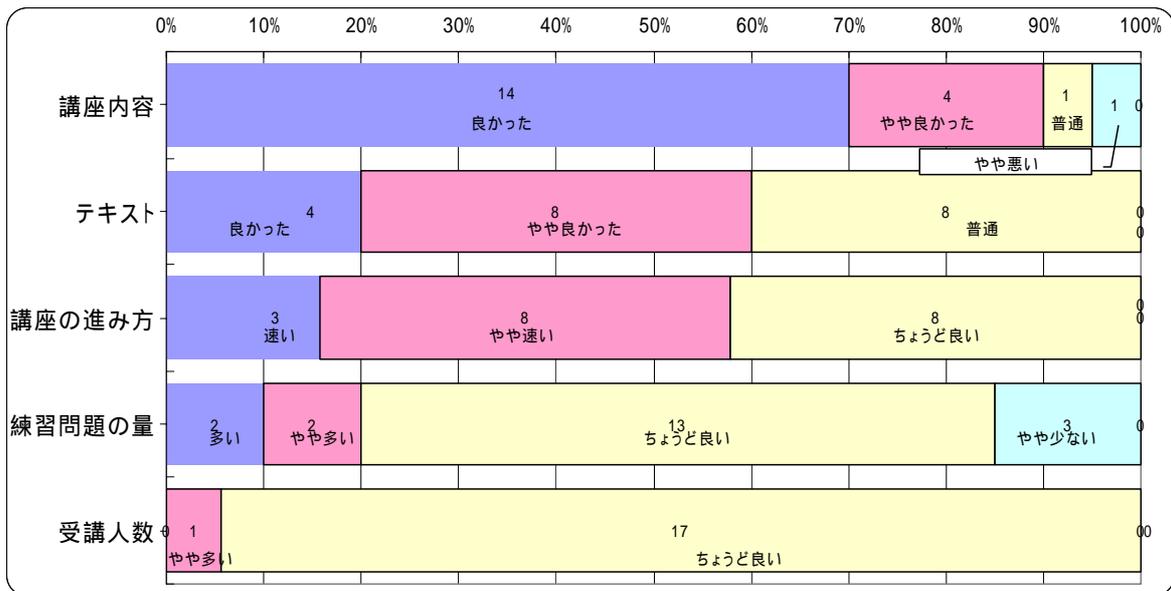


図5-19 講習会に対する質問（川西市）

「今後、キャリアアップ講座のような実務に沿った講座があれば受講したいと思いませんか」という質問に対しては、受講者全員が「受講したい」と回答しており、講座の内容・進み方には個人のスキルによって過剰・不足があったものの、講習会自体への満足度は高く、今後も同様の機会があれば就業のためのキャリアアップとして受講したいという結果が得られた。

最後に自由記入式の意見・要望から、キャリアアップ講習会を通して母子家庭世帯の就業及び講習会の評価を見ると、「就職、転職、仕事の幅を広げる」など即戦力として仕事につなげていきたいといった「キャリアアップへの評価」と、「パソコンでいろいろなことが出来るのがわかった」や「今までとは違った形でパソコン操作を考えることが出来るようになった」など「パソコンアレルギーが軽減した」の2つの評価を得ることができた。

【キャリアアップとしての評価】

- エクセルを他の講座で勉強したことはあったが、ワードやパワーポイントは初めてだったのでとても勉強になりました。今回の講座を活かして家でも勉強して使いこなせるようになりたいです。
- 今までやったことのないパワーポイントの操作ができてとても楽しかったです。1回だとなかなか覚えられないけれど今後なるべく忘れないように使っていきたいと思います。
- いろいろと勉強になってとても楽しかったです。デザインとかを選ぶのは結構好きで、どちらかといえば得意分野なのですが、プレゼンテーションとかまとめるのが難しいです。根本的にビジネスマナーがなっていないので、そこから勉強しなおしたいと思いました。パソコンはとても楽しいです。
- こんな機会が多くあって、それが資格取得につながるためにそれまでの工程までつないでくれたらもっともっと幅が広がるのではないかと思います。
- 年をとるといすに座ってすることが出来ればよいなと思います。またレベルが同じくらいの人達と一緒に勉強できれば張り合いになります。
- 今回の講座は初心者の私にとっては、レベルが高すぎて苦勞しました。でも、いろんな資格につながる講座があれば参加したいと思います。
- 自分で考えて作っていく作業が難しかった。何をどのようにすればよいか、決めるのに時間がかかりました。他の方々の発表を見てすごいなと思いました。

【パソコンアレルギーの軽減】

- あまり機会がないので、出来の悪さに途中いやになりかけましたが、熱心に教えていただけてありがたかったです。今後も拒否せず受け入れてチャレンジしたいと思います。
- 参加でき、大変勉強になることだったので感謝しています。初心者だったので不安はいっぱいありましたが、楽しく分かりやすく勉強できて良かったです。やはり2日間だけとなると、早足気味になるので、ついていくのが精一杯で理解しきれていない自分が悲しいですが、これからも機会があればまた受けてみたいです。
- パソコンでいろんなことができる、すごいです。これからも頑張っていこうと思います。
- 2日間で自分でも驚くほどの操作を体験することができました。本で読むだけではなかなか理解できなかつたことも、目で見るとわかりやすくよかったです。後は操作を忘れないように作っていきたいと思います。

(3) キャリアアップモデルの考察

大阪府貝塚市及び兵庫県川西市の2市の協力のもと、母子世帯の就業を支援するためのキャリアアップモデルを多角的に実証することが出来た。キャリアアップモデルでは、「潜在的な就業へのニーズの把握」から始まり、「キャリアアップ講習会の実施」、「実務トレーニングの実施」を行うことでこれまで地方自治体が提供してきた無料パソコン教室以上の就業支援施策として位置づけていくことを目的としている。

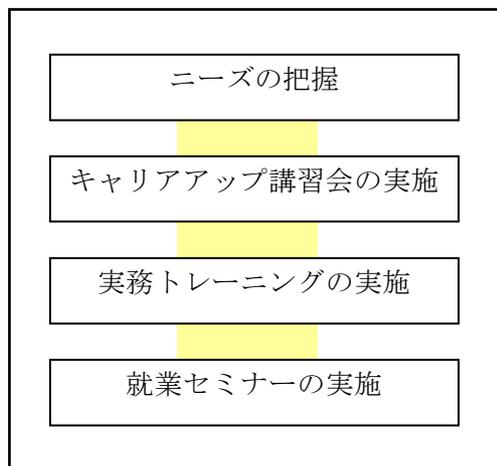
母子世帯の就業に対する潜在的なニーズとしては、就業環境（労働時間や収入面・福利厚生面）から転職及び再就職を希望する層が現在就業している母子世帯の中で30%弱を占め、パソコンなど身近な就業につながるスキルを求めていることがわかった。しかしながら、自宅でのパソコン保有率が30%弱であること、現状での働きながら資格の講習会に通うには「金銭的な負担」、「時間的な負担」、「保育面での負担」が障害となり、なかなか1歩を踏み出せない状況であることも明らかとなった。

上記の母子世帯を取り巻く環境から、キャリアアップモデルの中では、受講者の負担を低減させた「キャリアアップ講習会」の実施と、受講生に対してより実践的な経験機会を設けた「実務トレーニング」の実施という2つの実証を行った。

「キャリアアップ講習会」においては、自治体がこれまでに実施してきた無料パソコン教室では学ぶことの出来なかつた「実務としてのパソコン利用」を受講することで、パソコンアレルギーの除去や事務系職種に対するパソコン必要レベルの認知、求職活動時における自らのパソコンレベルの認知など転職・求職活動時に必要とされる要件を網羅している評価を得られた。また、受講費用や講習会の時間・保育の有無などが気軽に講習会に足を運び就業活動に前向きになったり、キャリアアップ講習会受講後にはより高いスキルを身につけ就業にいかしたいと考える意識改革に結びついていくことがわかった。

「実務トレーニング」においては、キャリアアップ講習会で身につけた実務的なパソコン操作技術を復習する機会となり、「働くことで報酬得る喜び」、「高いスキルを身につけることで自らの収入を増やしたい」など、積極的な就業意欲に結びつく項目であったことがわかった。従って、キャリアアップ講習会後の実践的なフォローとして、実務トレーニングは非常に大きな役割を果たしているといえる。

キャリアアップモデルは、初期段階でのニーズの把握から始まり、取得したニーズを盛り込んだキャリアアップ講習会の実施、講習会の内容を盛り込んだトレーニングの実施、就業へ向けての最終フォローであるセミナーの実施を一連の流れとして行い、「就業に対する意識の改革」、「同じような境遇の仲間と相談できるネットワークの構築」に寄与するモデルであり、費用や講習時間など負担面を軽減することでより参加への意識が高い就業支援モデルであるとまとめることが出来る。



6. 在宅での就労支援モデル

6. 1 在宅でのIT活用就労支援モデル

(1) モデルの仕組み

当あごらでは、在宅就労のモデルとして、インターネットを利用したデータ・エントリーシステムを開発し、VPNサーバを用いた遠隔での就労支援を行っている、下図はその仕組みである。

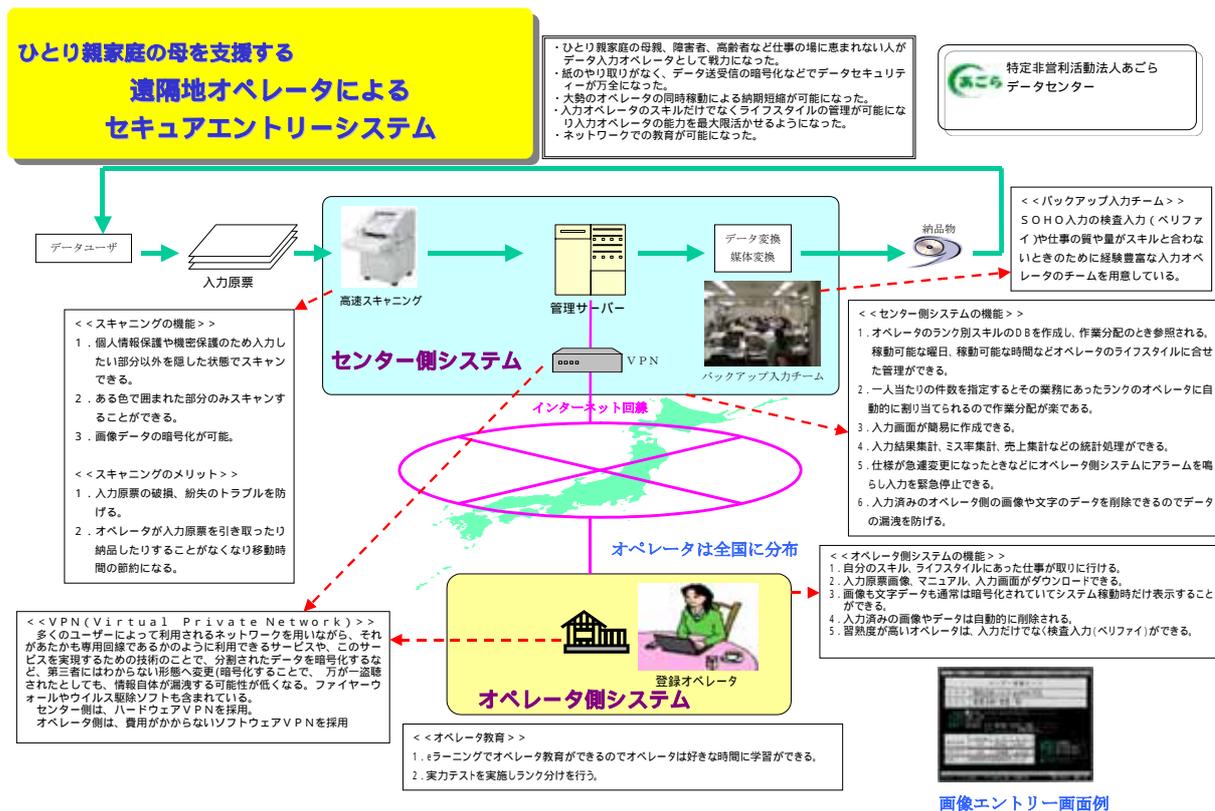


図6-1 在宅でのIT活用就労支援モデル

本入力システムの特徴は、入力端末側にて行う入力・修正操作はインターネットエクスプローラー等のWebブラウザと、インターネット上で公開されているフリーウェア(※)を使って行い、地図データへの登録等、操作によって生じた処理はサーバ側で行うという仕組みとなっている。

これにより、地図入力専門のソフトを個々の端末に入れる等の費用が大幅に削減される。また、インターネットを使用できる環境であれば、場所を問わず、入力作業が可能になる。

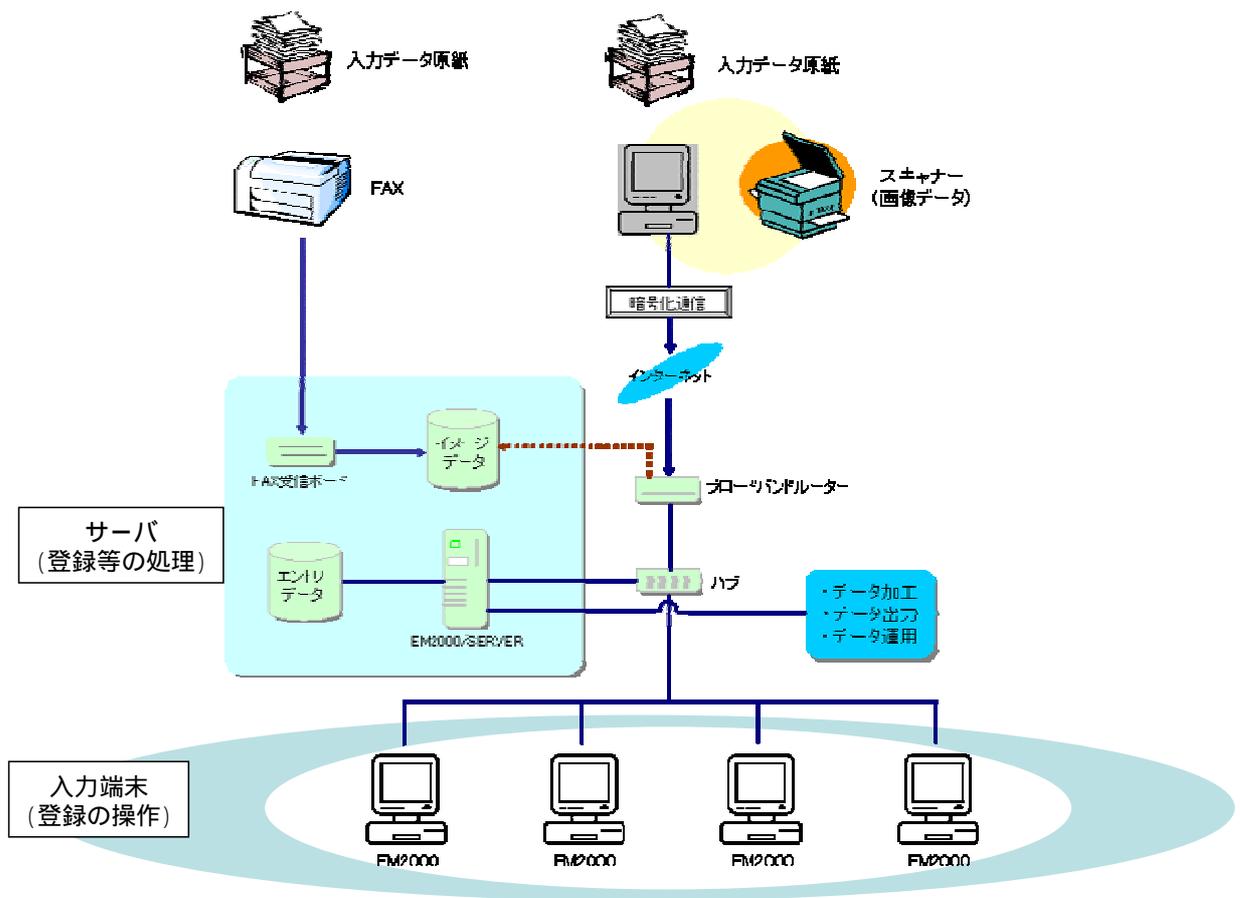


図 6 - 2 データ・エントリーシステム概略図

(2) データセンターの整備

当あごらでは、このシステムを運用するのに、データセンターを設置し、機能の整備を図っているところである。データセンターの持つべき機能は以下のように考えられる。

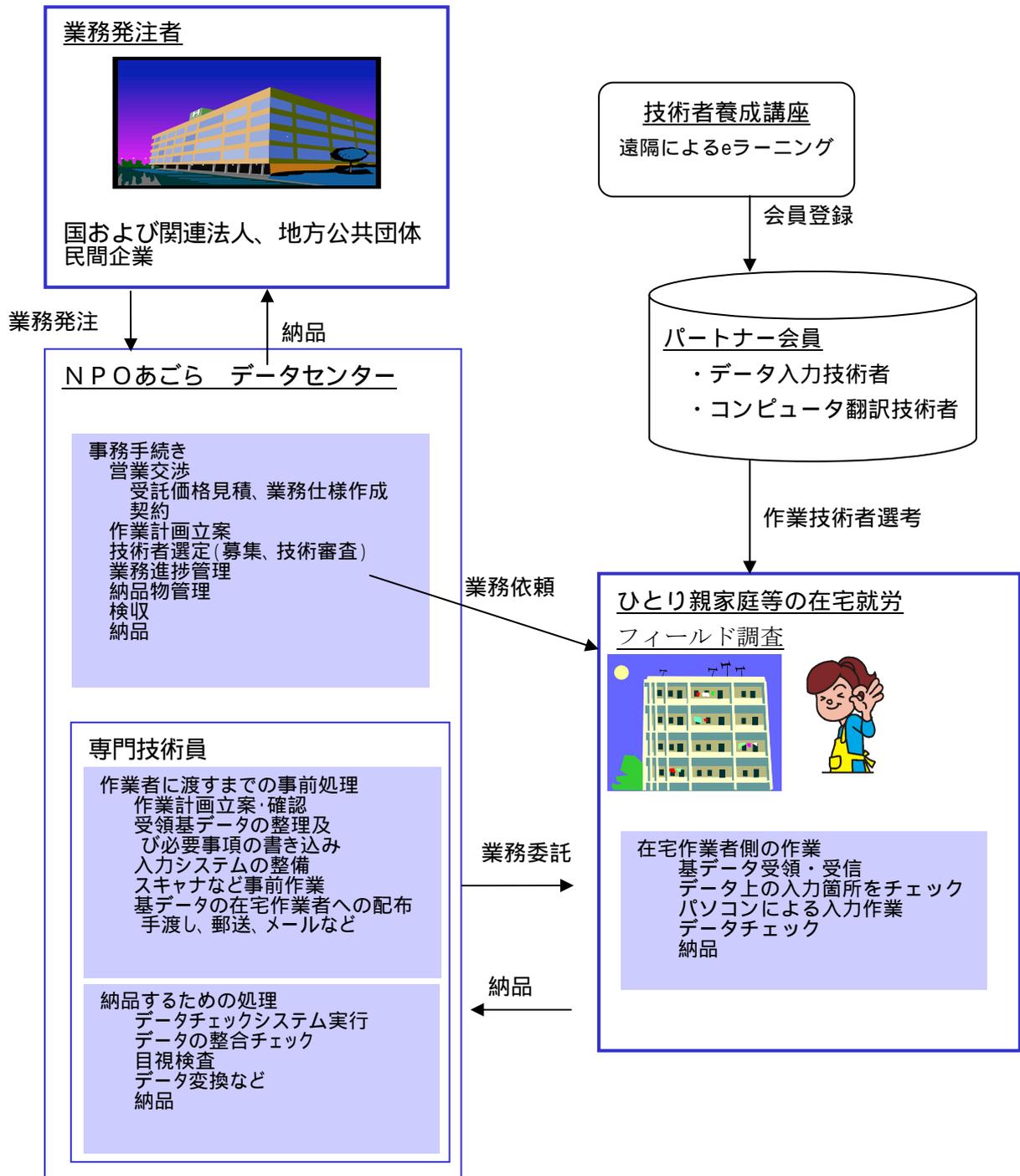


図 6 - 3 データセンターの機能

(3) データ入力業務の特性

データ入力業務の市場では以下のような課題があり、あごらデータセンターにおいても考慮すべき事項となっている。

表 6-1 データ入力業務の課題

課題	内容
(1) 納期	① 9割の仕事が発生から2～3日で納品しなければならない。したがって現行の募集方法では間に合わない。 ② 急に発生し納期の短いものがほとんどである。
(2) 単価	① 単価との折り合いがつくまで3年の経験が必要である。 ② 安価な労働力でなければ企業側のメリットがない。
(3) 品質	① 現在抱えている在宅ワーカーでもそのまま納品できるのは約2割である。ミスパンチをつぶす策を工夫しなければならない。 ② 質問がすぐできないのでマニュアルの精度も必要間違いが許されない。
(4) 個人情報保護	① 入力するデータは個人情報が多い。 ② 仕事を取りに行くとき在宅という言葉を使えないことが多い。 ③ 個人情報保護が厳しいユーザの場合は原票をスキャニングし画像を作成し、その画像を分割してそれぞれの画像で別のパンチャーに入力してもらう形態をとる。
(5) 作業者のスキル管理	① 作業者（会員）のスキルレベルを把握しなければならない ② 納期が短いので個々の作業者の作業量、正確性を把握し、業務個々の事情にあった仕事の出し方をしなければならない

(4) データ入力の方法

①募集

NPO法人あごらのメルマガ e f f での募集を基本とする。ただ通常データ入力業務は発注から納期までが数日間のことが多く、データセンターが個別に仕事を出す形態を常備しておくことが必要。そのため、事前の募集と、事前の作業確保も必要。

②作業の方法

フィールド調査：

入力マニュアルに従って、携帯端末を使ったフィールドでの入力

センター側ジョブ：

ジョブをダウンロードしモニターに映った原票の画像を見て入力する。

③業務の進め方

- ① 作業方針策定
- ② マニュアル作成
- ③ 入力システム作成
- ④ 原票の整理、コーディング、スキャニング
- ⑤ 配布先、配布量の決定
- ⑥ マニュアル、入力システム、原票画像アップロード
- ⑦ ダウンロード→入力作業→アップロード（通信データは暗号化）
- ⑧ チェック
- ⑨ 納品

※ 在宅作業は、⑦のみ。

④在宅での入力のパターン

- ① 在宅パンチ→在宅自己ベリファイ
- ② 在宅パンチ→在宅他人ベリファイ
- ③ 在宅パンチ→センターベリファイ
- ④ OCR入力→在宅ベリファイ

(5) 作業環境

①当面

フィールド調査：入力画面はWEB上で見られるので、特定の入力フォーマットにデータを入力する

在宅での入力：パソコンの画面入力プログラムを配布

②将来（現在整備中）

携帯電話によるデータ入力

SOHO WEBシステムを導入。

(6) 個人情報保護対策

- ・個人情報保護についての資料をホームページにリンク。
- ・誓約書をかかわす。
- ・必要に応じてFD、CDの読み書きができないパソコンを配布。

6. 2 データ・エントリー業務モデル

ここで取り上げるデータ・エントリー業務は、書類で管理されている情報をコンピュータで管理できる形式にデジタルデータに変換する作業である。業務の範囲は、文字データ・エントリーからワープロ入力、表計算ソフトの入力、地図データ・エントリー、CADなどの図面入力など広範囲に渡る。それぞれ、正確に速く入力することを目的とする点に関しては同じであるが、それぞれ別々に作業方法が工夫されている。本報告では、地図データ・エントリーを在宅で行う場合の方法論について提示する。

(1) 入力方法の変遷

紙の地図をコンピュータで処理するためには、絵の情報（ラスター情報）を座標情報（ベクターデータ）に変換しなければならない。コンピュータ技術の進歩とともに方法論も変遷を重ねている。

①汎用コンピュータの時代

1985年頃までは、地図で管理するデータの量を処理するには、汎用コンピュータを使用しなければならなかった。入力もデジタイザという貼り付けた紙の地図をたどって座標を拾っていくような方法であった。この時代ではデータ・エントリー作業は、システムの仕様をよく理解している人でないと行うことができなかった。

②ワークステーションの時代

1985～1995年頃は、ワークステーションが普及する時代になりコンピュータの小型化やグラフィック機能の発達などの条件が重なり、入力技術は、現在の技術の基礎となる発展を遂げている。しかしながらまだハードウェアの価格が高価であったため、広く普及することができなかった。

このころから、地図を大型スキャナーで読み込み、ラスターからベクターへの自動変換などのソフト技術が登場して、機械処理でできない部分を人間が作業して補完するといった方法となってきた。

③パソコンの時代

1995年以降は、パーソナルコンピュータの機能が飛躍的に進歩して、ワークステーションの機能は、ほぼ完備してきた。さらに2000年以降は、自宅にパソコンを持つ人も増え、インターネットの普及により自宅で作業が可能になった。さらに、現在では携帯端末が開発され、調査と入力が同時にできる環境が整備されつつある。

入力の方法論については、以上のような変遷で発展してきたが、作業するオペレータの能力においては、教育訓練などまだ解決しなければならない課題が多い。

(2) 地図データ・エントリー・オペレータの資質

パソコンと入力ソフトの普及によって、データ・エントリーの操作は、かなり容易になってきたが、実際に作業するオペレータにとっては、基礎知識として知らなければならないことが多い。特にパソコン操作に熟練していない母親にとっては、初めての経験であることが多く、パソコンの基本操作からの訓練が必要となることが多い。

①パソコンの操作知識

データ・エントリーは、パソコンを道具として使用し、入力専用ソフトで入力作業を行うが、入力専用ソフトウェアの操作を習得する前に、パソコンの基本操作を知らなければ作業進捗に影響が出るだけでなく、管理者側の時間を浪費してしまう結果になってしまう。従って、以下のような最低限の知識は必要である。

表6-2 データ・エントリーに当たってのパソコンの基礎知識

パソコンの基礎知識	内容
インターネットの操作	ソフトウェアのダウンロードなどができる。
電子メールの操作	添付ファイルの操作ができる。 ファイルのサイズを見て送信可能・不可能の判断ができる。
基本的なソフトウェアの操作	ワープロ、表計算ソフトが操作できる。 日本語入力ができる。
画像操作	画面を画像ファイルで保存できる。
ファイル操作	エクスプローラの操作（フォルダ管理、コピー、削除、リネーム）ができる。
マウス操作	クリック、ダブルクリック、ドラッグの操作が理解できる。

②地図データ・エントリーの基礎知識

地図データ・エントリーは、画面に表示されている元図に書き込まれている内容を判断して入力する作業であるため、図面認識の知識が必要である。正確に速く入力するためには、入力する部分を即時に判断できるスキルが要求される。地図を読めるようになるための訓練が必要であるが、NPO法人あごらでは、eラーニングによる「地図データ入力支援技術者養成講座」を開設しており、この講座を受けることによって、地図データ・エントリーで必要な最低限の知識を得ることができる。

表6-3 地図データ・エントリーで必要な知識

地図データ・エントリーで必要な知識	内容
地形図の読解力	境界線、道路、河川、鉄道など、地図の骨格を表現している図面の記号を見ただけで内容を判断できる。
入力対象設備の知識	上水道、下水道、ガス導管網などの設備の知識が必要な入力対象の知識を理解している。

③管理者とのコミュニケーションを正確にとる方法

母親に業務を発注する側（管理者側）と請ける側（母親：作業側）は、正しい情報の伝達ができないと、効率のよい作業ができない。在宅作業になると成果の信頼性は、作業側側の自己管理やモラルに依存する部分が多い。また、管理者側提供する

マニュアルが作業側側に正確に理解されることも重要である。業務を進める上では、管理者側と作業側との間で、最低限の約束事を決めてそれに従って作業を進めることが肝要である。

表 6 - 4 業務遂行上での約束事

約束事	内容
機密保持	業務で得た知識は外部に公開しないような誓約書を交わす。
用語の統一化	地図データ・エントリーでは、特殊な用語が多いためマニュアルで使用する用語は統一するべきである。
その他の約束事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疑問点は、すぐ問い合わせる。 2. 納期が間に合わないときはすぐ連絡する。 3. マニュアルは精読する。

(3) 地図データ・エントリーについて

地図データ・エントリーで作成されるデータは、地理情報システム（以下GISという）で使用される。GISは、位置情報をキーとしたデータベースシステムであり、レイヤーと呼ばれる個別の地図を重ねあわせて表現している。それぞれのレイヤーは、入力方法も違って来る。

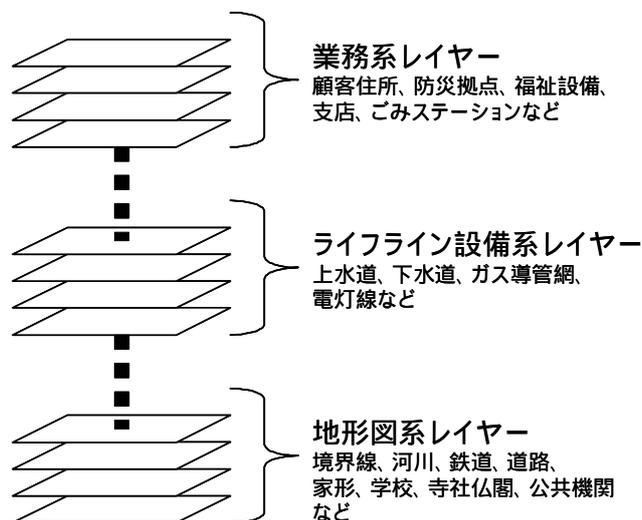


図6-4 地図のレイヤー構造

地図のデータベースは、上図のように、複数のレイヤーを重ね合わせて地図を表現している。それぞれのレイヤーは、目的にあわせて組合せをすることができるが、常に改廃があり定期的に更新する必要がある。

データの入力方法は、図面上に点（ポイント）、線（ライン）、多角形（ポリゴン）などを入力し、それぞれの属性情報を入力する。属性情報の入力、データベースの表データ入力に似ている。写真などの画像ファイル名なども格納する場合があります。GISで写真を参照することを可能にしている。属性情報の項目数が多い場合は、地図を表示しているパソコンとは別途、文字入力のみを別作業として行い、完成後に位置情報とリンクする方法を採っている。

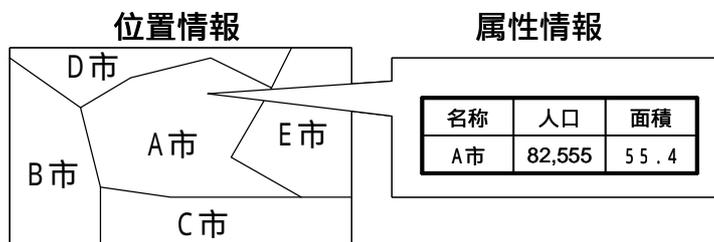


図6-5 地図に対応した属性情報

(4) 現地調査業務の革新

従来のデータ・エントリーの現地調査業務は、持参した紙の地図に位置情報を記入するものであり、持ち帰った紙の地図を基にデータ・エントリーする方法である。現在では、デジタルカメラや携帯端末の発達により現地で入力を完了することが可能になっている。



図6-6 携帯端末例(PDA)

(東京ガスエンジニアリングの携帯端末TUMSYBOY)

PDA携帯端末は、GPS機能による位置認識、通信、デジタルカメラからの写真取り込みなどの機能を有しており、従来、事務所内でしかできない作業を屋外で実現できるようになった。

通常の携帯電話でもGPS機能がついており、簡単な属性入力は携帯画面上から入力し、サーバーに登録することが可能となった。ただし携帯電話の場合にはGPSの精度が十分ではなく、位置の入力は確認程度であり、それ自体で緯度経度などを確定してデータに反映させるにはまだ問題がある。従って、現場での携帯端末によるデータ入力と、別途センター側でGISを利用したソフトによる入力とを組み合わせた入力方式を検討する必要がある。

調査する地域の近所に住んでいるオペレータを動員するような業務が計画できるようになることで入力の効率化、低価格化を実現するツールとして有効であると考えられる。

現地調査での携帯端末を利用した入力は、具体的には以下のような業務に適している。

表6-5 現地調査での携帯端末を利用した入力

適している業務	業務内容
道路付属物の現況調査	道路照明などの往路付属物の位置入力や写真撮影を行う。
道路緑化台帳現況調査	道路脇の植樹帯に植えられている植物の位置の入力や写真撮影を行う。
バリアフリーマップの作成	障害者のための設備のある位置を調査し、設備の写真撮影を行う。

(5) 在宅データ・エントリーシステムの要件

在宅で不特定多数の作業者に業務を委託するためには、個別の能力も把握し、在宅作業者のライフスタイルのあった業務を選別して委託をしなければならない。在宅作業員に対しては、本人のスキルレベルに応じた発注が必要であるが、可能な限り平等な作業条件にする必要があると考えられる。

下図は、在宅でのデータエントリーを実現するための仕組みであり、本研究の成果をNPO法人あごらでは採用しており、すでに実用段階に入っている。

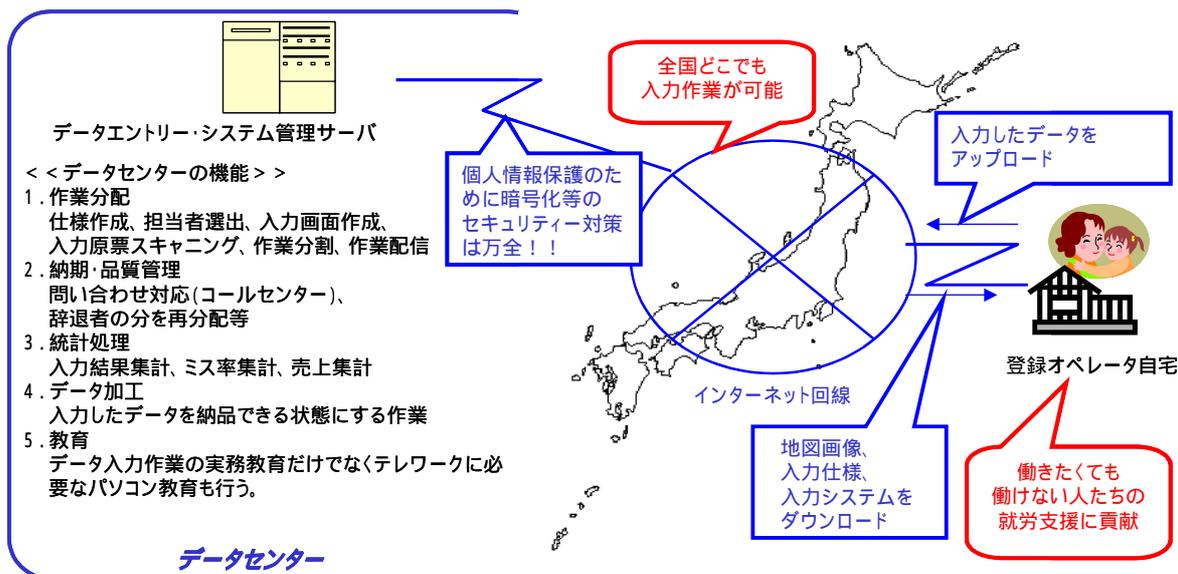


図6-7 在宅データ・エントリーシステム

作業員が業務を受託するときは、作業単位であるJOBファイルの一覧の中から取っていく形態となり原則的にあるスキルランクのグループの中で早い者勝ちである。作業中は別のJOBは取りに行くことができない。業務が出来高払いなので、やればやるだけの報酬が得られる。

また、その他に

- ① 報酬の支払い
- ② スキルを把握
- ③ 教育

の仕組みもシステムの要件となる。

ただし、JOBの一覧を提供し、作業員（母親）がWEB上で業務を選択できる方式はまだ検討中で、NPO法人あごらでは来年度においてこの方式を採用した業務発注を計画している。

6. 3 母子家庭の就労を支援するキャリアアップモデル

(1) キャリアアップモデルの目的

ここ数年の雇用環境は益々厳しさを増しており、景気の長期低迷による企業のリストラや常駐雇用者数を抑え、パートタイマーを増加させるワークシェアリングの普及などにより、1ヶ月に得られる収入額は低い水準で横ばいとなっている。こうした状況は、母子家庭の生活にも大きく影響しており、不安定な雇用契約で働く母子家庭は更に苦しい生活を強いられている。

このような環境下にある母子家庭世帯に対し、地方自治体では自立支援の一環として「これまでパソコンに触れたことがない人」、「仕事でパソコンに接する機会のない人」を対象に、基礎的なパソコン操作技術の習得を目的とする無料パソコン教室が定期的に開催され、初心者がパソコンに慣れ親しむ効果は上がってきている。

しかしながら、企業の求人要件は、大半の職種においてパソコン操作は必要最低限のスキルとして考えられ、経験者が優遇されるなど、より専門的な処理が可能か否かが、「賃金」、「雇用形態」といった待遇に反映されており、既存の無料パソコン教室における講習範囲以上に実践的な操作技術や能力が求められている。こうした企業のニーズに応じた研修システムを構築することが、母子家庭の就業を支援するうえで重要となっている。

本キャリアアップモデル事業では、パソコン操作の入り口として一定の効果をあげている無料パソコン教室の延長線上に、キャリアアップ講座を付加することで実態に即した就業支援策となることを目的としている。具体的には、就業支援ニーズの把握、キャリアアップ講座および実務経験の機会提供、収集した情報を政策に活用する仕組みの構築の3つの活動を柱としてキャリアアップ研修を実施する。また、パソコンの実務を体験してもらうためのOJT (On The Job Training) の実施、就業・子育て・健康など生活全般の情報交換のためのセミナーの実施など、複数の活動項目を一連の事業として行うことにより、母子家庭の就労による自立を促進しようとするものである。

(2) キャリアアップモデルの概要

このモデルは、母子家庭世帯のニーズに沿った自立支援体制の構築として次の5点を検証することにある。

当該自治体内に在住する母子家庭世帯のニーズや生活状況を把握するため、母子世帯を対象としたアンケート調査を実施し、就業状況・勤労収入などキャリアアップ政策を実施するために必要な基礎情報を収集する。

セミナーの開催によって母子家庭世帯の生計・子育て・地域とのかかわりなど各々の環境や経験に関する情報を収集するとともに、参加した各人が話のできる仲間づくりの場となるような地域環境づくりを行う。

これまでに開催されてきた無料パソコン教室の講座内容を発展させ、実業務に即したパソコンの操作方法が身につく講座を開設するとともに、現在の日常生活の状況に配慮し、集合研修には参加することが困難であった家庭を対象として「eラーニング」による講座も併せて開設し、在宅学習(復習)の機会を提供し、パソコン技能の習得に対するモチベーションを高める。

キャリアアップ講座を受講した受講者には、アンケートの入力など単純なOJTを実施し、求職活動時に役立つ簡易的な実務経験の機会を提供する。

収集した情報(アンケートやセミナー時に集まった意見・要望)を体系的に整理し、すぐに改善できる課題・中・長期的な課題などの枠組みに振り分け、今後の施策展開に反映させる。

(3) キャリアアップモデルの概要図

このモデルの概念図を示す。

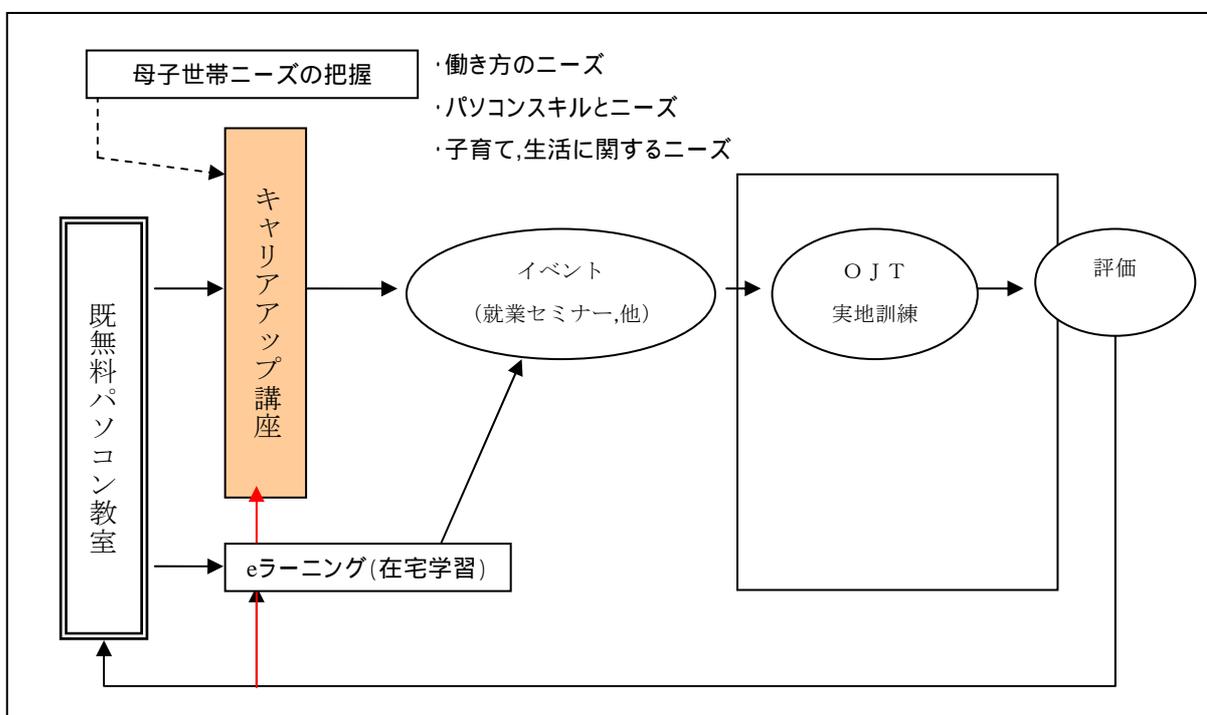


図 6 - 8 キャリアアップモデルの概要図

当NPO法人あごらでは、本年度実験的にこのモデルを大阪地区にて実施した。

キャリアアップモデル

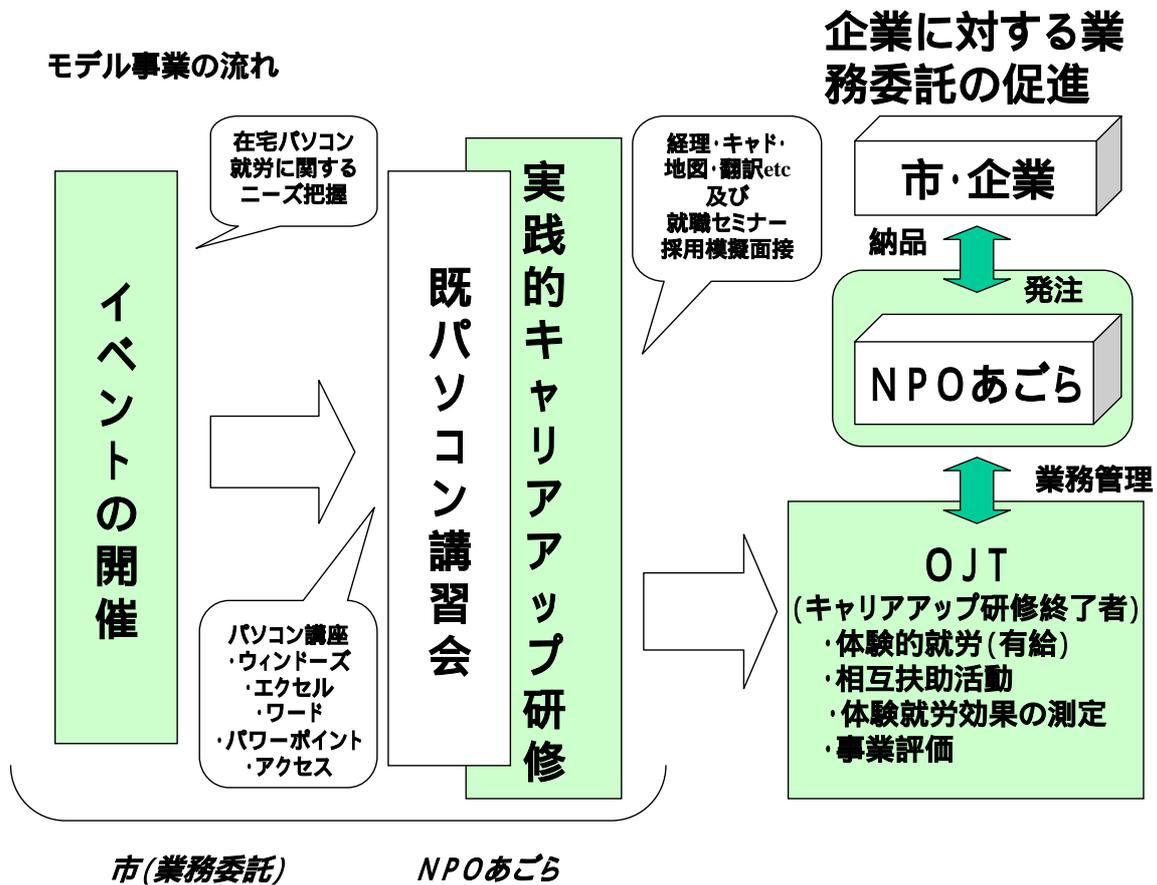


図6-9 キャリアアップモデルの構造

(4) キャリアアップモデルの実施計画
母子家庭世帯ニーズの把握

キャリアアップ事前アンケート実施の開催

ひとり親世帯(母子家庭世帯だけでなく父子家庭世帯も含む)および求職者を対象に(セミナー参加者及び母子会会員)、以下の項目を網羅するアンケートを実施する。

- 現状での就職・転職の要望
- キャリアアップ講座・OJTに関する意見・要望
- 現在の基礎的なパソコン操作スキル

キャリアアップ講座および実務経験機会の提供

キャリアアップ講座の実施

キャリアアップ講座は、無料パソコン教室の延長として位置づけるため、実際に事務系の職場で行われる業務を「起・承・転・結」の各パートに分解し、業務に沿ったパソコンの操作方法を研修する構成とする。具体的なイメージとしては以下ようになる。

< 講習会の想定カリキュラム >

起	商品開発のための情報収集		アンケート調査の実施	
承	・ 情報収集	【インターネット】 情報の検索・収集	・ 情報収集	【インターネット】 情報の検索・収集
	・ 情報の整理	【表計算ソフト】 データの整理 【ワープロソフト】 文字データの整理	・ アンケートの作成	【ワープロソフト】 アンケートの調査票を作成する
転	・ 情報の活用	【表計算ソフト】 グラフの作成 【プレゼンテーションソフト】 フローチャートの作成	・ アンケートの集計	【表計算ソフト】 アンケート結果(データ)を集計する
	・ 情報のまとめ	【ワープロソフト】 報告書の作成	・ 情報の活用	【表計算ソフト】 グラフの作成 【プレゼンテーションソフト】 フローチャートの作成
結	・ 報告	【プレゼンテーションソフト】 プレゼンテーション資料の作成と報告	・ 報告	【ホームページ作成ソフト】 アンケートの集計結果を掲載するホームページを作成する

< 講習会の提供形式 >

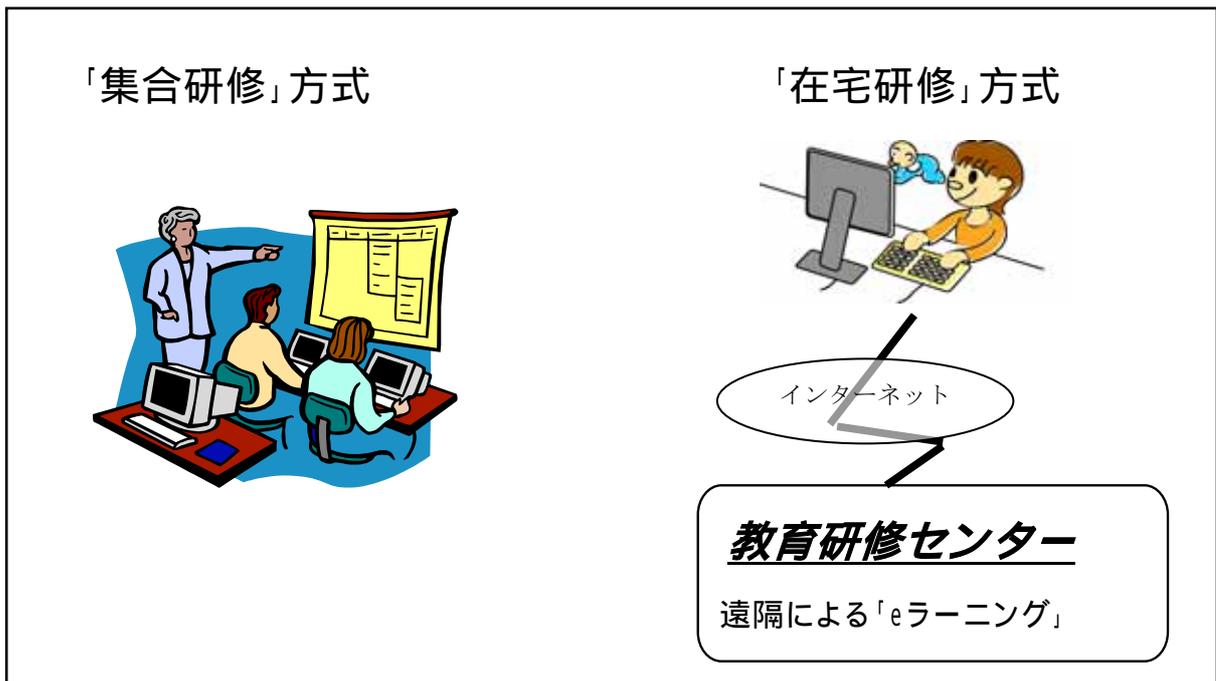


図6 - 10 キャリアアップモデルの¥での研修方法

○J Tの実施

キャリアアップ講座(情報の整理 / アンケートの集計)にて研修した内容の実務トレーニングとして、「アンケート」など単純入力作業を行う。

(5) キャリアアップモデルの実施

キャリアアップモデルを実施するにあたっては、以下の地方公共団体及び母子寡婦団体の協力のものと、以下のとおり講習会を2地域、○J Tを1地域、就業セミナーを1地域で実施した。

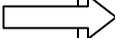
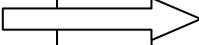
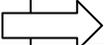
【実証箇所】

○大阪府貝塚市

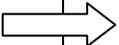
○兵庫県川西市

また、キャリアアップモデルを実証し、その結果を評価するスケジュールは以下のとおりである。

【貝塚市キャリアアップモデル実証】

項目	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
キャリアアップ講習会告知									
申し込み									
講習会実施									
OJTの実施									
講習会の評価									
就業セミナー告知									
就業セミナー実施									
モデルの評価									

【川西市キャリアアップモデル実証】

項目	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
キャリアアップ講習会告知									
申し込み									
講習会実施									
講習会の評価									

【キャリアアップ講習会のカリキュラム】
エラー!

キャリアアップ研修の流れ

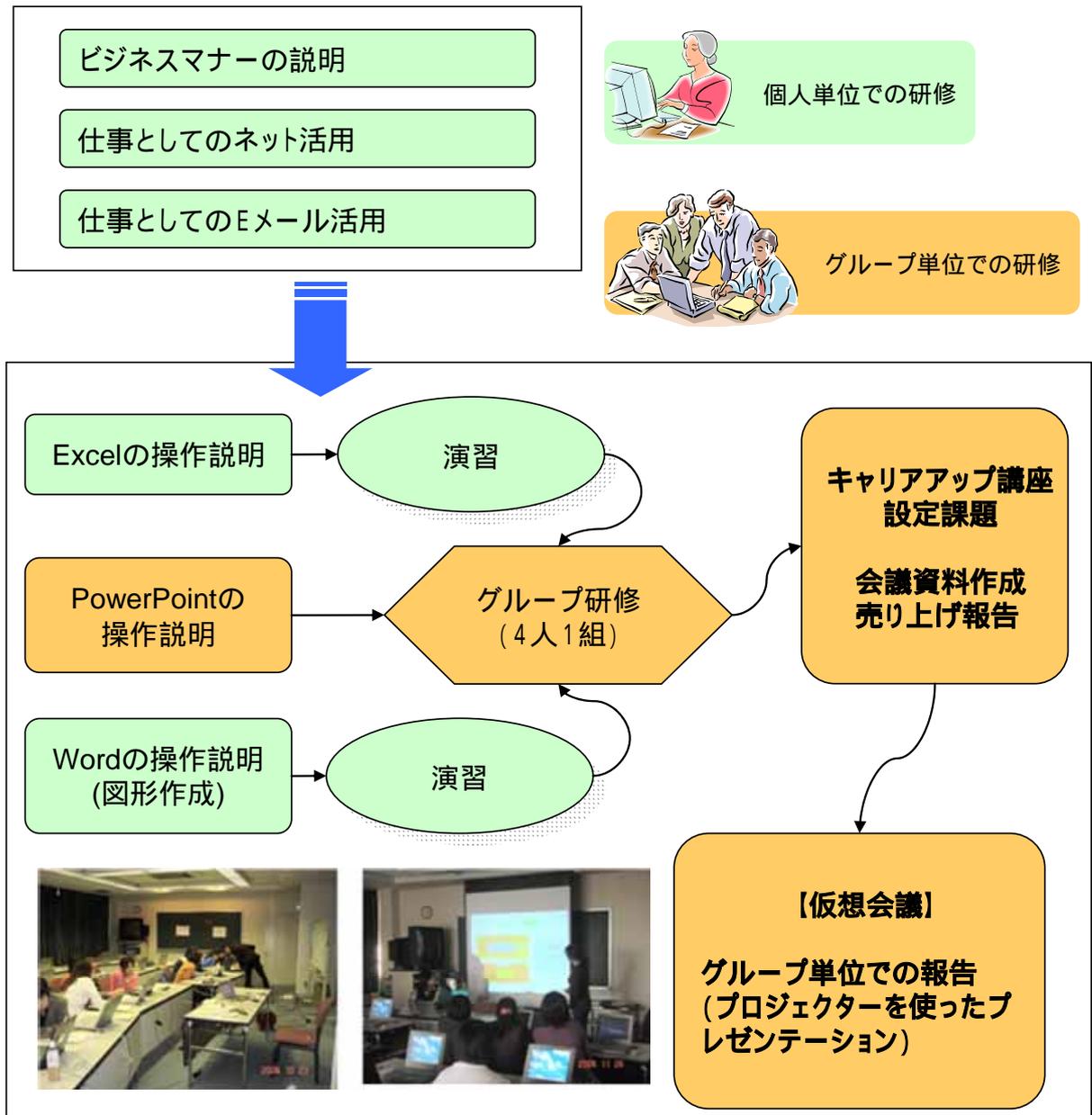


図6-11 キャリアアップモデルの流れ

(6) キャリアアップモデルの実施結果

①貝塚市 キャリアアップモデル実証

キャリアアップモデルの講習会を実施するにあたっては、市の広報（紙媒体及び電子媒体）にて呼びかけを行い、電話・郵送での申し込みを行った。

募集期間： 2004年9月13日～10月8日

方法： ○広報かいつか 9月号
○広報かいつか 9月号（インターネット版）
○チラシ配布（児扶現況届提出時）
○民生委員及び母子自立支援相談員等からの呼びかけ

上記期間での募集の結果、募集定員60人に対して63人の応募があった。貝塚市で実施したキャリアアップ講習会においては、以下の4つのコースを設定した。

①【平日20時間コース】

月曜～木曜までの連続した4日間で、10:00～16:00の1日5時間の講座

②【土曜10時間コース10:00～16:00】

土曜日2日間で、10:00～16:00の1日5時間の講座

※申し込み時に希望すれば保育士による子供の預かり保育（無料）有り

③【夜間8時間コース】

月曜～木曜までの連続した4日間で、17:30～19:30の1日2時間の講座

④【在宅学習 E-ラーニングコース】

1ヶ月間利用可能な E-ラーニングコンテンツを在宅で受けられる講座

※申し込み時に希望すれば無償でパソコン及びネット接続用の通信機器を貸し出し

4コースでキャリアアップ講習会の申し込みを実施したところ、「平日20時間コース」及び「土曜10時間コース」を希望する参加者が多くなった。そこで、申し込み者への電話による調整作業を実施し、参加希望者の大半が受講できるよう他コースへの変更調整を行った。結果として、56人がキャリアアップ講習会を受講することになった。

(人)

コース名	募集定員	応募人数	採用人数	実受講者数
平日20時間コース	20	45	28	23
土曜10時間コース	20	12	21	19
夜間8時間コース	10	2	6	6
在宅学習 E-ラーニングコース	10	4	8	8
合計	60	63	63	56

実務トレーニングとしてのOJTの実施については、キャリアアップ講習会実施時期に、受講者を対象として4回のグループに分け募集を行った。キャリアアップ講習会の受講者に対するOJTの参加率は、85.7%であり、OJTの応募者に対する実際の参加率は70.8%となった。

(人)

実施日	応募者数	参加者数
第1回(11月26日) 9:30~12:00	16	14
第2回(11月26日) 16:30~19:00	9	5
第3回(11月27日) 9:30~12:00	18	10
第4回(11月27日) 13:00~15:30	5	5
合計	48	34

②川西市 キャリアアップモデル実証

キャリアアップモデルの講習会を実施するにあたっては、川西市婦人共励会の会員へ向け郵送での呼びかけを行い、電話・郵送での申し込みを行った。

募集期間： 2005年1月15日～1月31日

方法： ○川西市婦人共励会 会員への郵送

上記期間での募集の結果、募集定員20人に対して26人の応募があった。

(人)

コース名	募集定員	応募人数	採用人数	受講者数
3月5 - 6日コース	10	13	13	9
3月19 - 20日コース	10	13	13	?
合計	20	26	23	?

川西市でのキャリアアップモデル実証においては、上記の講習会が川西市婦人共励会という母子会主催の講座であったため、母子世帯である会員同士の情報交換の場及び就職活動・パソコン操作など自らのスキルアップのための場としての役割が果たされていた。また、全日、保育を行っていたため、参加者が子供のことを気にする必要なく講習会に集中でき、お昼休みは親子そろっての母子世帯間の交流の場となっていた。

(7) キャリアアップモデルの展開

近年、地方分権一括法の施行、規制緩和、地方に対する権限移譲、三位一体改革など地方分権が進められ、地方自治体においては地域の実情に応じた、政策展開が求められている。一方、地方分権は各地方自治体の政策ニーズの捉え方により、各種施策に地域格差が生じるという声も聞かれ、その政策立案にあたっては、近隣自治体との情報の共有化がますます重要となっています。

特に、母子家庭の就業支援は、その背景に社会的な問題を多く抱えており、その必要性や施策の展開には近畿圏内においても自治体により地域差が生じている現状があります。

そこで近畿圏において母子家庭自立支援政策に先駆的な取り組みを検討されており、当NPOが事業のバックアップ等につながりができた関係各市と連携し、このキャリアアップモデルを他地区にも展開していく予定である。

7. 評価と考察

7. 1 ひとり親家庭の母親の在宅学習・在宅就労の課題

ひとり親家庭の母親は、限られた時間で短時間の低単価の仕事を多くしなければならぬ環境にある。その環境で、自宅で学習や仕事をする時間を作ることはきわめて難しい。外で仕事をしている母親は、ほとんどの場合、帰宅してすぐにパソコンに向かうことができず家事をして、子どもを寝かしつけてから、やっとのことでパソコンに向かうことができるという状況にある。以上のような状況を踏まえて、ひとり親家庭の母親の在宅就労における問題点を提示する。

(1) 学習時間・就業時間に起因する問題点

①サポートセンター

学習や就業が夜中になることが多いとマシントラブル、通信トラブル、質問への対応を行うサポートセンターの職員、インストラクターが深夜勤務になって人件費が増加する。

②子育て

母親が仕事をしているとき年少の子どもが構ってもらいたくて機嫌を悪くすることがあり、仕事の邪魔になり母親が叱るという悪循環がおきる。年長の兄弟がいれば世話してくれるので状況が緩和される。

③ライフスタイル

自分の都合が付く時間帯に仕事ができるようになるとライフスタイルが多様化する。そのため、個々が希望する労働時間が異なってくるため管理が難しくなってくる。

(2) 管理する側の設備の問題点

①eラーニングコンテンツ

eラーニングコンテンツを開発するのに多額の費用がかかる。
また、メンテナンスにも手間がかかる。

②コールセンター職員の教育

電話でトラブルの対応をするには、職員の経験と資質におうところが大きい。教育しても対応しきれない人も多い。大多数の受講者、就業者をかかえるとコールセンターの職員数も必要となり、職員一人一人のスキルの平準化が難しい。

③会員管理

受講者・就業者などの会員管理はそれぞれの希望就業時間（時間帯、時間数）なども把握する必要があるがプライバシーの問題もあり、どこまで会員のデータを保有する必要があるかが課題である。

7. 2 テレワーク型の在宅就業の将来像

情報通信技術（IT）を活用して離れたところで作業することをテレワークという。現在の在宅就業は、情報通信技術（IT）に発達により、テレワークが得意とする業務が数多くなっている。20年レンジの将来像となるとテレワーク型の就業形態とモバイルワークが主流を成し「いつでもどこでも」という就業環境がごく自然に定着することが想像される。

また、個々のライフスタイルも多様化によって様々な社会問題を解決するヒントを提起している。例えば、女性の社会進出、男性の家庭回帰など男女共同参画社会の実現、一極集中による交通渋滞の解消、それにとまなう排気ガスの減少による環境問題の改善、労働人口減少の対策、少子高齢化対策、身体障害者雇用対策、家族関係の円滑化など様々な社会問題を解決する切り口を含んでいる。

この後紹介するコミュニティ型センターサーバ方式の在宅就業プラットフォームは、ひとり親家庭の母親が安定的な収入を得て、子育てが健全に行える環境の構築を提案したものである。この考え方は、在宅就業者が自宅でパソコンのインターネットによる実務教育が受けられ、実際に仕事を始めてからもこの仕組みを利用して効果を上げることを目的としている。

（1）技術習得プラットフォーム

技術習得を自宅でするためには、どのようにすれば効果が上がるかという課題がある。教材は、eラーニングというインターネットでのオンライン教育を活用する。eラーニングには、学習コンテンツの管理、受講者のスキル管理、成績管理、利用状況管理などを行う学習管理システムと学習効果を追求した教材データベースである学習コンテンツから構成されている。

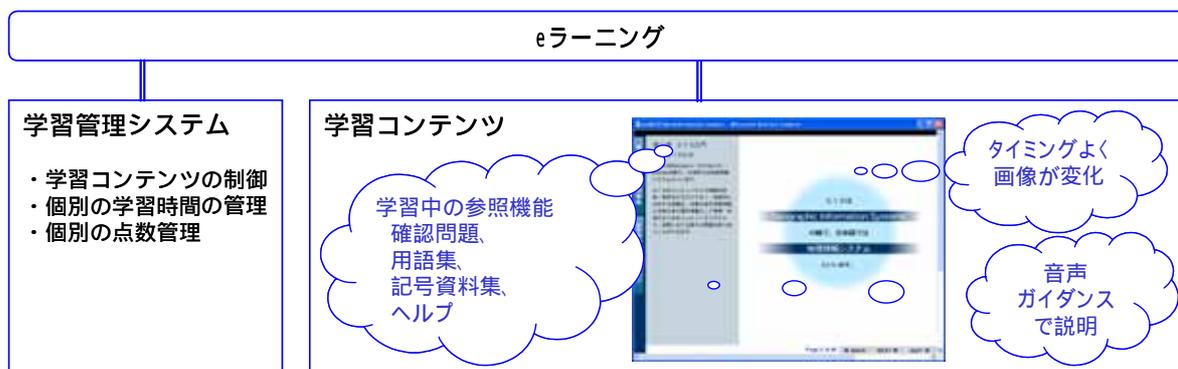


図8-1 eラーニングの構成

また、技術習得の教育は、学べばよいというわけではない。孤独な在宅受講者や在宅就業者は、自分がどの程度の実力が付いたか不安感をもつ傾向がある。このことを解消するための在宅受講者・在宅就業者同士がコミュニケーションをとれる場が必要である。このような機能を備えた、画像、音声、文字、チャットをコミュニケーションとするWeb型の教育プラットフォームの構築が望まれる。

(2) 教育方針

eラーニングでは、本人が意識しない間に上達するような楽しく効果的な技術習得ができる学習コンテンツを準備する必要がある。また、学習したことは、個人的に復習することができる（コンテンツ再送機能）機能を用意して学習効果の増進を図る。eラーニングのコンテンツで学習するときは、学習に集中するためにインストラクターとの双方向のコミュニケーションは控える方がよいと考えられる。マシントラブル、質問対応、eラーニングで表現しきれない微妙なソフトウェアの操作などは、曜日や時間を決めて定期的にインストラクターとの双方向のコミュニケーションを行うことが望まれる。

地図データ入力技術習得のための一連のカリキュラムは、初歩から高度なものまで、次のものを用意することが、スキルの低い人でも向上意欲がわくであろう。

表7-1 地図データ入力技術

レベル	カリキュラム	内容
初級	パソコン入門コース	Windows、インターネット、eメール、ワープロの初歩、表計算初歩、ファイルの圧縮・解凍操作など将来パソコンを自分の手足のように使いこなすための準備段階の講座である。この段階はあくまでもさわりの部分であり難しくするとパソコンに拒否反応を示すことにもなるので操作も機能も必要最小限にとどめわかりやすい使用事例を中心の構成にする。
	在宅就業入門コース	在宅就業の心構え、契約時の手続き、初期の設備などこれから在宅就業を行う人のための入門講座。
中級	一般作業員育成コース	GIS入門、地図データ入門、地形図のマッピング、水道、下水、ガスなどの地価埋設物マッピングの基礎を学ぶ。
上級	インストラクター育成コース	地図データ入力の作業員育成講座を受講し実作業を経験した人が教える側に立場を変える講座。一人のインストラクターが担当できる人数に限りがあるのでインストラクター数を増員していく必要がある。

教育形態は、基本には、一人が自宅で行う形態だが、進行は少人数のチーム単位となる。同一チーム内は、協力して学習しチームの成績で進級する。インストラクターは、少人数チーム単位の一般作業員を教育してそれにあてる。教育全過程を終了したらスクリーニングを経て一般作業員、インストラクターの資格を得る。

一般作業員は、実業務での実績に応じてインストラクターコースを受講する資格を得ることができるようにする。インストラクターと一般作業員（1：N）の関係がさらに進めば、自己増殖的にスキルの高い技術者が養成されるであろう。

(3) 実務方針

教育と同じプラットフォームを利用して実作業を行う仕組みを検討した。作業を円滑に進めるための以下のような実務方針を策定した。

①少人数チーム制

作業は、少人数のチーム単位で行い、納期・品質の責任はチーム単位で負う仕組みを構築する。ひとり親家庭の母親は、子ども、家族、自分の病気など突発的なアクシデントで業務に支障をきたす場合がある。このようなときに同じチームのメンバーが作業を代行する相互扶助の仕組みを用意する。

②作業の成果の公平な評価

相互扶助の関係とはいえ、作業の成果・進捗に対しては公平な評価を行う。一般作業員に対して、作業実績によりA～Eのランクを付け、作業成績によってランクが上がる仕組みを用意する。一般作業員は、ランクが上がるとチームリーダーに昇進したり、インストラクター育成コースの受講資格が得られる。

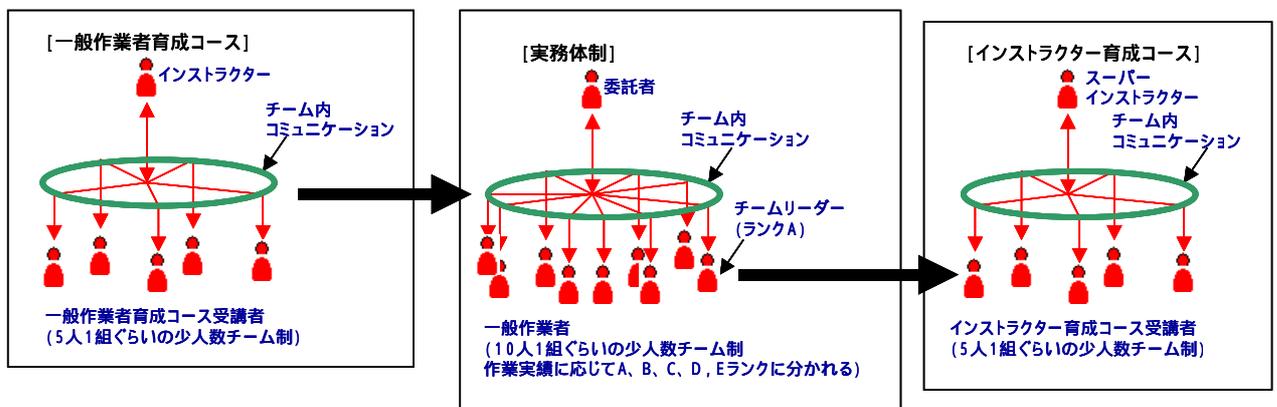


図8-2 在宅就業者の役割の遷移

(4) 予想される効果

このプラットフォームを実現することによってひとり親家庭の母親が受ける効果は以下が期待される。

①教育面

- 進行状況の遅い人が早い人の影響を受け緊張感が生まれる。
- 別の人の発想の上に自分の発想を乗せることができるのでイメージがつかみ易い。
- チームでの発想法が身につく、問題解決がチーム単位でできる。
- 多人数の落ちこぼれの比率が減少し、大人数でのスキルの均質化がし易い。
- 個人的に復習する疑問をもった部分の再確認ができる。
- 会話のやりとりまでが再度復元されるので、そのときの記憶がよみがえる。

②実務面

- － 作業の実施も教育同様に、チーム単位で行うので、問題の解決が早い。
- － チームは、相互扶助の関係にあるため、長続きしやすい。
- － 成果によって、ランクアップやインストラクターの道も開けるので励みになる。

③社会的効果

- － 自己増殖型のシステムなので作業者の量に応じた新たなGISマーケットが生まれる可能性がある。
- － 高齢者、障害者などの社会的弱者に機会を与えて、経済的な自立ができるので、社会の経済効果が期待できる。
- － 一極集中の解消およびそれに関連する交通渋滞の解消と排気ガス環境汚染の改善
- － 労働力不足の解消
- － 税収増と給付金の削減
- － 健全な子育ての実現
- － 女性の社会進出と男性の家庭回帰による男女共同参画社会の実現
- － 個々が自信と生きがいをもった活力のある社会の実現

教育ならびに就業のための、在宅就業プラットフォームのイメージは以下のようなものである。これを実現することによって、スキルアップと就業機会の創出が期待でき、新しい統合型教育・就業システムと言えよう。

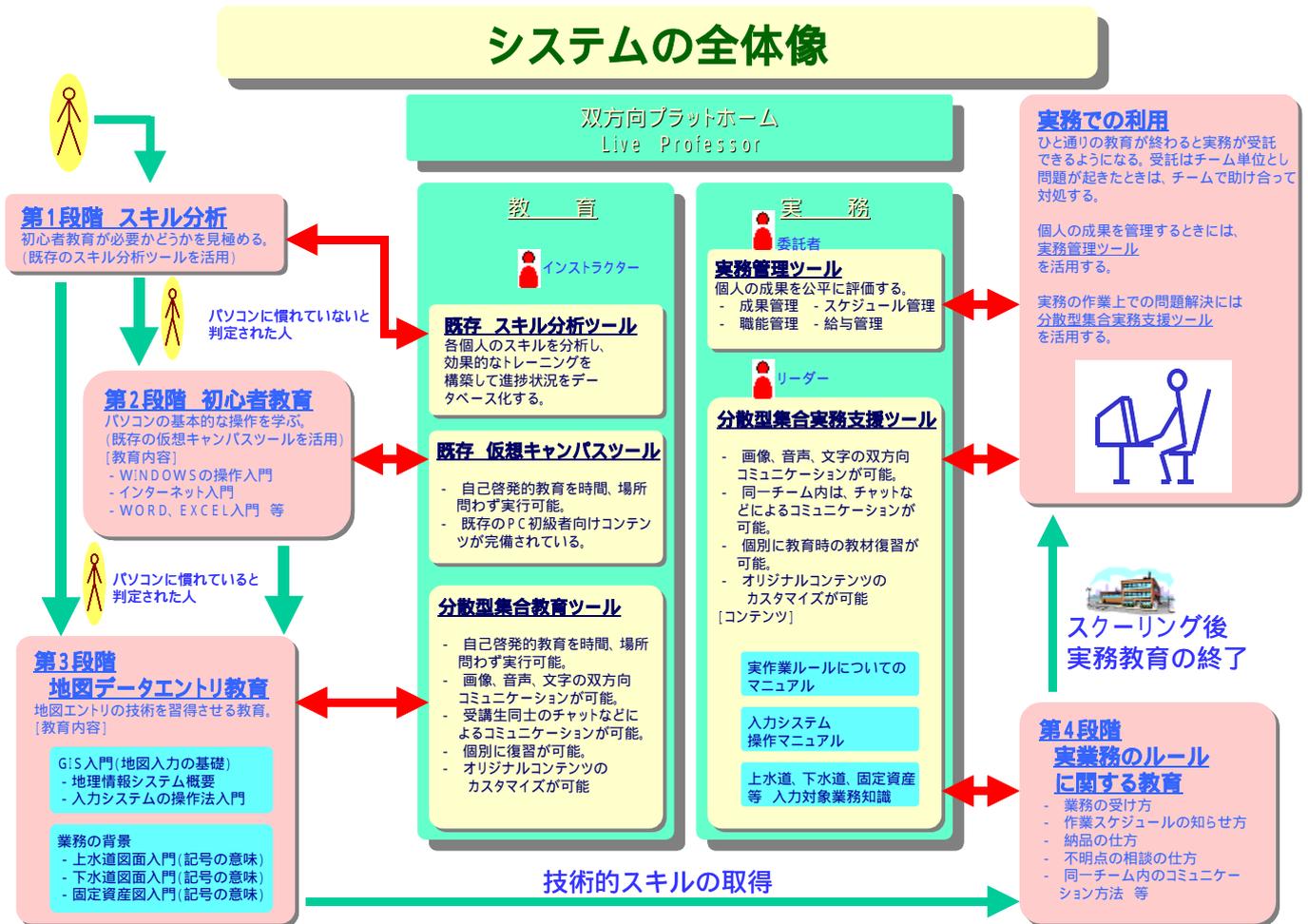


図 8 - 3 就業システムの全体像

特定非営利活動法人あごら

本 部 : 〒102-0082 東京都千代田区一番町4 - 4 2 6 F

東京センター : 〒116-0003 東京都荒川区南千住3 - 1 0 - 1 0 リバーサイド中西3 F
tel 03-3891-1191 / fax 03-3891-0962

ホームページアドレス <http://www.npo-agora.jp>

教育研修担当

地図入力講座受付センター 0120-160930 (フリーダイヤル)

翻訳受付センター 03-5287-7569